自己点検・評価報告書

（平成25年度分）

自分を知る　人を知る
そして未来を描く

長野県看護大学

Nagano College of Nursing

目　　次

序　章

学長あいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

長野県看護大学の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

第１章　学事と組織

第１節　教育理念・教育目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

第２節　大学組織 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

第３節　学生の状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １１

第２章　年間の活動状況

第１節　学部・研究科の行事及び教授会活動・・・・・・・・・・・・・・・ １４

第２節　学部の教育活動 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １８

第３節　研究科の教育活動 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ２２

第４節　看護実践国際研究センターの活動・・・・・・・・・・・・・・・・ ２４

第５節　健康センターの活動 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ３５

第３章　教員の研修・研究、社会活動

第１節　研修 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ３６

第２節　研究活動 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ３８

第３節　社会・地域貢献活動 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ５４

第４章　社会貢献

第１節　公開講座 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ５８

第５章　学内委員会等の活動

第１節　運営委員会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ５９

第２節　広報･交流委員会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ６０

第３節　教務委員会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ６２

第４節　実習委員会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ６５

第５節　入試検討委員会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ６９

第６節　図書委員会（紀要委員会） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ７１

第７節　学生委員会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ７３

第８節　ネットワーク推進委員会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ７５

第９節　ＦＤ委員会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ７７

第 10 節　評価委員会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ７８

第 11 節　倫理委員会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ８０

第 12 節　ハラスメント防止委員会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ８１

第 13 節　動物実験委員会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ８５

第 14 節　感染症対策委員会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ８７

第 15 節　コンソーシアム信州運営委員会 ・・・・・・・・・・・・・・・ ８８

第 16 節　教員選考基準検討委員会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ８９

第17節　研究科委員会教務部会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 90
第18節　研究科委員会入試部会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 93

第６章　学生生活及び学生への支援
第１節　学生支援活動 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・97
第２節　キャリア形成支援 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・99
第３節　保健厚生 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・103
第４節　修学資金等 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・105
第５節　サークル活動及び大学際 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・107
第６節　関係団体の活動 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・108

第７章　施設の管理運営
第１節　施設の状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・114
第２節　財政の状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・121

第８章　点検・評価総括 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・123

自己点検・評価報告書（平成25年度）の刊行にあたって

平成23年度に、自己点検・評価報告書が刊行されて以来、今回で3刊目の発刊にあたります。紀要に掲載していた、教員の研修・研究、社会活動は自己評価点検・評価報告書に移行され、各委員会活動を加え次の章立てにより報告書が構成されます。

第1章　学事と組織、第2章　年間の活動状況、第3章　教員の研修・研究、社会活動、第4章　社会貢献、第5章　学内委員会等の活動、第6章　学生生活及び学生への支援、第7章　施設の管理運営、第8章　点検・評価総括となります。

この大学の年間活動の概況をまとめることで、1年間の取り組みを整理し、次年度への課題を認識することにつながります。つまりは、報告書の刊行は、大学の「自律」と「自治」の取り組みの証と考えます。

本学は開学以来、2回目の基準協会の認証評価を平成23年に終え、平成30年に予定されている次の認証評価に向け歩んでいます。その中間点の平成27年7月末には、努力課題に対する報告の年に当たります。その課題の取り組みとして、平成26年度から授業評価の組織的な検証体制を整備しました。さらに、大学院担当教員の選考に関する規定を定め、7月には審査による組織で研究科委員会がスタートしています。平成25年度は、前学長が退任を迎える最後の年に当たりましたが、次年度に向けた取り組みの足がかりの年でもありました。

ここ1年あまり、創立20周年記念事業を成功させるべく教職員が一丸となってそれぞれの役割を担ってきました。教職員は、大学の節目の年に当たる記念式典を成功させるために、力を合わせて取り組み、次の10年に向かって決意を新たにしたいと考えます。また新しい年度に向けて心がける事項には、指定規則の変更に伴う新しいカリキュラムが、平成27年に完成年度を迎えることを受け、めざす学生像に向かって、さらなるカリキュラム等の見直しが求められています。加えて、戦略的な活動を推進するための組織の検討や学内の協力体制の構築、看護実践国際研究センターに新たな事業を加えながら、より躍動感のある活動を推進する体制を再構築することなどです。

私たちは、この大学の使命を果たすため、今ある課題に取り組みながらも、常に未来に向かって道筋を定め取り組む必要があります。言い換えれば、現在の取り組みが、この大学の将来を決めるものと考えます。学部長、研究科長はもとより、教授は、運営の中枢を担っています。その自覚をもって自己点検・評価を行うこと、それは単に続けることではなく、常により良いものとするための微修正を行なうこと、時には改革の中心となることです。その姿こそが、次に続く教員を育てることにつながるのだと思います。

平成26年10月31日
長野県看護大学長　清水嘉子

長野県看護大学の概要

1　設置の趣旨・目的

人口の少子高齢化等の社会環境の変化、医療の専門化・多様化・高度化等の対応に指導的役割を果たし得る資質の高い人材を育成するとともに、看護学の発展に寄与し、看護学の研究・研修の拠点となることを目的とする。

2　沿　　革

平成　６年１２月	看護学部看護学科設置認可（文部省）
７年　４月	同　開　学
１０年１２月	大学院看護学研究科看護学専攻博士前期課程設置認可（文部省）
１１年　４月	同　開　学
１２年１２月	大学院看護学研究科看護学専攻博士後期課程設置承認（文部省）
１３年　４月	同　開　学
２２年１０月	認定看護師教育機関認定（日本看護協会）
２３年　６月	同　開　講

3　学部・学科の構成、入学定員等

構　　成	修業年限	定　員	総定員	卒業（修了）時取得可能資格
看護学部看護学科	４年	入学定員 ８０名 編入学定員 （3年次から） １０名	３４０名	学士（看護学） 看護師国家試験受験資格 保健師国家試験受験資格 助産師国家試験受験資格（選択） 養護教諭二種（保健師免許取得後）
大学院看護学研究科 看護学専攻 博士前期課程	２年	１６名	３２名	修士（看護学）
大学院看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程	３年	４名	１２名	博士（看護学）

4　施　設

（1）所　在　地　　長野県駒ヶ根市赤穂１６９４番地

（2）敷地面積　　７５，７３３．００㎡

（3）建物延床面積　　１９，１５１．２２㎡

第１章　学事と組織

第１節　教育理念・教育目標

（１）教育理念

本学は、1995 年に長野県立では初めて設立された 4 年制の看護の単科大学であり、学年進行に沿って、大学院博士前期課程、博士後期課程を開設してきた。それらの時期、および 2006 年の学部新カリキュラム導入時には、教育理念および教育目標の見直しを行なった。教育理念の見直しは、これまでの学生個々人の資質を向上させることに加えて、看護職者としての基本である人間理解、特に人間の生のありようを理解すること（「さまざまな生を営む人間を深く理解し」）を盛り込んでおり、その教育理念は学部・研究科とも共通である。

○本学の教育理念

学生個々人のもつ可能性が最大限に開花することを目指し、自立性、主体性を育むとともに、さまざまな生を営む人間を深く理解し、人々への配慮が自然にできる豊かな人間性と幅広い視野を養う。

これらを基盤として、看護実践に関する総合的な能力を養成し、看護の社会的機能を担い人々の健康福祉の向上に貢献する人材を育成する。さらに、看護の発展に寄与する実践者、教育者及び研究者を育成する。

（２）学部の教育目標

1. 豊かな人間性と幅広い視野を養う。
   (1) 学びの体験を通して命の尊さに触れ、人間の理解を深める。
   (2) 豊かな感受性を養い、想像力と洞察力を身につける。
   (3) さまざまな文化や社会の中で生活する人々を理解し、多様な価値を尊重できる。
2. 看護専門職者として社会に貢献できる能力を養う。
   (1) 生命の尊厳を理解し、人間としての権利を尊重して主体的に行動できる。
   (2) 看護の対象となる人を身体的、精神的、社会文化的側面から全人的に理解できる。
   (3) 対象となる人の主体性を尊重し、協力して援助関係を築くことができる。
   (4) あらゆる健康段階にある人々に対して、よりよい社会生活を支援する看護実践を展開できる。
   (5) 科学的な根拠に基づいて適切な判断を下し、問題を解決することができる。
   (6) 自らの看護実践をふりかえり、新たな課題に取り組むことができる。
   (7) 専門職としての責任を自覚して行動し、リーダーシップを発揮できる。
   (8) 保健・医療・福祉等に携わる人々と協働し、看護をより有効に機能させることができる。
3. 看護実践における課題の究明に取り組む能力を養う。
   (1) 研究課題を見出すことができ、多角的な視点と想像力を身につける。
   (2) 研究を遂行するための論理的思考能力と表現能力を身につける。
   (3) 課題の究明を通して看護学の発展に寄与することができる。

（３）研究科の教育目標

1.　博士前期課程

(1) 専門分野に関連する理論と技術を学び、質の高い看護実践能力を養う。

(2) 研究のプロセスを修得し、研究に必要な基礎的能力を養う。

(3) 国内外の学術的な場において研究成果を公表する能力を養う。

(4) 専門性を基盤にして他職種と協働し、調整する能力を養う。

2.　博士後期課程

(1) 看護学の発展に寄与する研究を独立して行う能力を養う。

(2) 国内外で学術的な交流をする能力を養う。

(3) 学際的な視野に立ち、研究活動および保健医療福祉活動に貢献する能力を養う。

(4) 専門性を基盤に、優れた人材を育成する教育能力を養う。

第２節　大学組織

（１）組織

1）組織図

本学の管理運営体制については、設置主体が県であり、知事の指揮監督の下に置かれ、予算については毎年県議会の承認を得るとともに、執行状況について監査委員の監査を受けている。

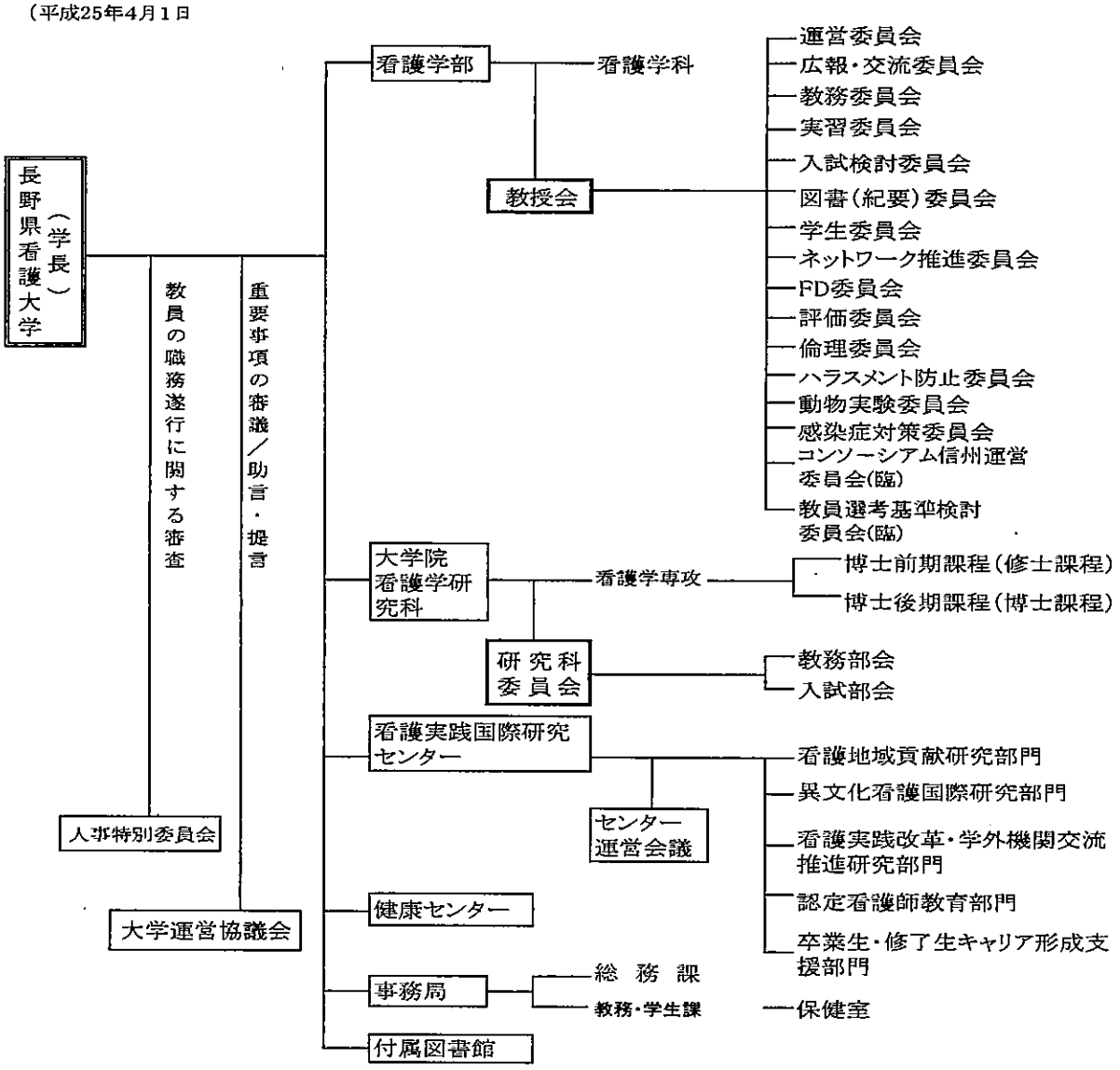
こうした体系の中で、学内体制は表２－１のとおりとなっており、大学全体の管理運営責任を負う学長の下、大学運営に関する重要事項を審議する機関として教授会及び研究科委員会がある。

また、本学では、教員、大学院生等が専門領域・講座を超えて研究プロジェクトに参画、地域貢献を行う看護実践国際研究センターを設置しており、看護地域貢献研究部門他４つの部門が置かれ、各々活動を行っている。

合わせて、平成２２年度半ばに、職員・学生のメンタル面の健康相談等を行う健康センターを設置し、関係機関と連携しメンタルケアに取り組んでいる。

事務局の体制は、大学運営全般を行う総務課と学生支援及び教務全般を業務とする教務・学生課との２つの課で成り立っている。

（表2-1）
（平成25年4月1日



2）組織構成

①学部は、平成 22 年度に看護学体系における各専門分野間の連携を深めるため、学部講座制の見直しを行い、平成 23 年度から新たに４つの大講座に再編を行ったものである。組織構成は、表２－２のとおりである。

②研究科は、基本的には学部の教育研究組織の上にのせる形で組織されているが、学部の講座を超えた５つで構成している。（表２－３）そのうち、広域看護学領域の里山・遠隔看護学分野は、本学が立地する長野県の地域特性に配慮した地域貢献の視点からの看護研究の領域・分野として平成 18 年度から開設している。

表2－2 学部の組織構成

人間基礎科学講座	哲学・倫理学
	心理学
	社会・経済学
	健康・保健学
	生物・化学
	英語・英米文化学
	基礎医学・疾病学
	病態・治療学
基礎看護学講座	基礎看護学
発達看護学講座	母性・助産看護学
	小児看護学
	成人看護学
広域看護学講座	老年看護学
	精神看護学
	地域・在宅看護学

表2－3 研究科の組織構成

看護基礎科学領域	病態機能学分野
	病態治療学分野
基礎看護学領域	基礎看護学分野
	看護管理学分野
発達看護学領域	母性・助産看護学分野
	小児看護学分野
	成人看護学分野
広域看護学領域	老年看護学分野
	精神看護学分野
	地域・在宅看護学分野
	里山・遠隔看護学分野
専門関連領域	哲学・倫理学
	心理学
	社会・経済学
	健康・保健学
	生物・化学
	英語・英米文化学

なお、平成23年度において、学部と同様に見直しの検討を行い、平成24年度から領域の再編を行ったところである。

また、研究科には、質の高い看護実践能力を養うという本学研究科博士前期課程の教育目標に基づいて、平成14年度に小児看護学分野、平成15年度に老年看護学分野、平成24年度に精神看護学分野の専門看護師（以後CNSと省略する）コースを設置している。

3) 大学運営協議会

① 概要

県立大学の運営に広く県民の意見を反映させるため、運営協議会を設置している。本協議会は、下表のとおり学外の委員で構成されている。学内規程として「長野県看護大学運営協議会規程」を設けて、協議会の審議結果等を大学運営に反映させるよう定めるとともに、ホームページに審議内容を公開している。

運営協議会委員名簿（任期：平成25年4月～平成27年3月）

区分	職	氏名	所属
地方公共団体	須坂市長	三木　正夫	市長会　社会環境部会長
看護現場	看護部長	宮坂　佐知子	諏訪赤十字病院
〃	副院長 看護部長	近藤　和美	長野県立病院機構　県立須坂病院
〃	協議会長 管理者	山本　由紀子	長野県訪問看護ステーション連絡協議会 Aライン訪問看護ステーション
保健現場	課長	古畑　崇子	松本市健康福祉部健康づくり課
教育研究機関	教授	駒津　光久	信州大学大学院　医学系研究科
〃	副学長 病院長	笠原　悦男	松本歯科大学
〃	学部長	伊藤　英一	長野大学社会福祉学部
地域経済界	専務取締役	中島　光孝	長野県経営者協会 (株)ヤマウラ
卒業(11回)生	看護師	野口　岳志	本学同窓会 飯田市立病院
学識経験者	小児科部長	藪原　明彦	伊那中央病院

（平成25年2月6日現在、敬称略）

② 平成25年度の開催概要

回数	開催日	開催場所	協議事項等
第1回	平成25年 8月5日	看護大学 小会議室2	・平成25年度看護大学の概要について ・中期計画の進捗状況について ・看護実践国際研究センターの活動について ・サモア国立大学との交流について ・県監査委員からの意見について
第2回	平成26年 2月6日	看護大学 小会議室2	・入学志願者の応募状況及び卒業予定者の進路状況について ・看護実践国際研究センターの活動について ・阿南町における医療介護ネットワーク推進事業について ・地(知)の拠点整備事業への応募について ・創立20周年記念事業について ・学長選挙等の結果について

（2）教職員

1)教職員名簿

(平成25年5月1日現在)

講座	分　野	職　位	氏　名
		学長	阿保順子
		学部長	清水嘉子
人間基礎科学講座	哲学・倫理学	准教授	屋良朝彦
	心理学	講師	松本淳子
	社会・経済学	教授	多賀谷　昭
	健康・保健学	教授	北山秋雄
		特任教授	那須　裕
	生物・化学	教授	太田克矢
	英語・英米文化学	教授	西垣内磨留美
		准教授	井村俊義
	基礎医学・疾病学	教授	喬　炎
		講師	本田智子
		助教	梁　景岩
	病　態・治療学	教授	坂田憲昭
		助教	中畑千夏子
基礎看護学講座	基礎看護学	教授	白鳥さつき
		教授	今井家子
		准教授	宮越幸代
		講師	寺島憲治
		助教	田中真木
		助教	秋山知也
		助教	伊藤郁恵
		助教	田嶋紀子
		助教	那須淳子
		助教	近藤恵子
発達看護学講座	母性・助産看護学	教授	清水嘉子
		准教授	藤原聡子
		准教授	阿部正子
		助教	宮原美知留
		助教	赤羽洋子
		助教	塩澤綾乃
		助教	佐々木美果

講座	分　野	職　位	氏　名
発達看護学講座	小児看護学	教授	内田雅代
		准教授	竹内幸江
		助教	白井　史
		助教	高橋百合子
		助教	足立美紀
	成人看護学	教授	大石ふみ子
		准教授	小田和美
		講師	早出春美
		助教	熊谷理恵
		助教	髙坂　梓
広域看護学講座	老年看護学	教授	渡辺みどり
		准教授	千葉真弓
		助教	細田江美
		助教	松澤有夏
		助教	曽根千賀子
	精神看護学	教授	岡田　実
		講師	三沢　緑
		助教	有賀美恵子
		助教	長南幸恵
		助手	森野貴輝
	地域・在宅看護学	教授	安田貴恵子
		講師	御子柴裕子
		講師	柄澤邦江
		助教	酒井久美子
		助手	下村聡子
		助手	中林明子
		助手	白川あゆみ
健康センター		講師	東　修
認定看護師教育課程		主任教員	中畑千夏子
		専任教員	折尾優美
		主任教員	細田江美
		専任教員	橋本晶子

本学の事務組織は、事務局及び附属図書館で構成されている。事務局は、総務課、教務・学生課の２課体制で、事務局長以下職員９名及び嘱託職員３名が配置されている。平成22年までは、事務局外に学生支援として学生部があり、学生支援課と就職支援課の２課体制であったが、組織の見直しを行い、事務局内の教務・学生課として総合的な支援を行っている。

附属図書館には、図書委員会委員長の教員が兼務する図書館長と、司書２名が配置されている。

事務局職員

(平成25年5月1日現在)

	事務局長	小林資典
総務課	次長	上田穂積
	課長補佐	白上正彦
	主幹	嘉仁康範
	主任	小西裕子
教務・学生課	課長	宮下浩秋
	課長補佐	斎藤秀樹
	主事	加藤恭央
	保健師	坂元亜紀
図書館	主任学校司書	原　猛
	主任学校司書	田中千夏
行政嘱託員	学生支援員	篠原睦美
	学生支援員	鈴木裕実
	就職支援員	唐澤　淳

大学院の領域別専任教員

(平成25年5月1日現在)

領域	分野	氏名等
		研究科長　阿保 順子
看護基礎科学領域	病体機能学分野	●教　授　喬　　炎
		教　授　太田 克矢
		講　師　本田 智子
		助　教　梁 景 岩
	病態治療学分野	教　授　坂田 憲昭
		助　教　中畑千夏子 (認定看護師教育課程主任教員)
基礎看護学領域	基礎看護学分野	教　授　今井 家子 (任期付)
		准教授　宮越 幸代
		講　師　寺島 憲治
		助　教　秋山 知也
		助　教　伊藤 郁恵 (産休・育休)
		助　教　田中 真木 (産休・育休)
		助　教　田嶋 紀子
		助　教　上條こずえ (任期付)
		助　教　那須 淳子
		助　教　近藤 恵子
		助　手　坂上　玲子 (臨任)
		助　手　細萱絵理香 (臨任)
	看護管理	●教　授　白鳥さつき
発達看護学領域	母性・助産看護学分野	●教　授　清水 嘉子
		准教授　藤原 聡子
		准教授　阿部 正子
		助　教　宮原美知留
		助　教　赤羽 洋子 (産休・育休)

領域	分野	氏名等
発達看護学領域	母性・助産看護学分野	助　教　塩澤 綾乃
		助　教　佐々木美果
		助　教　小川 紀子 (臨任)
	小児看護学分野	●教　授　内田 雅代
		准教授　竹内 幸江
		助　教　白井　　史
		助　教　高橋百合子
		助　教　足立 美紀
	成人看護学分野	●教　授、大石ふみ子
		准教授　小田 和美
		講　師　早出 春美
		助　教　熊谷 理恵
		助　教　高坂　　梓
広域看護学領域	老年看護学分野	●教　授　渡辺みどり
		准教授　千葉 真弓
		助　教　細田 江美 (認定看護師教育課程主任教員)
		助　教　松澤 有夏
		助　教　曽根千賀子
		助　教　有賀 智也 (任期付)
	精神看護学分野	●教　授　岡田　　実
		講　師　三沢　　緑
		助　教　有賀美恵子
		助　教　長南 幸恵
		助　手　森野 貴輝

領域	分野	氏名等
広域看護学領域	地域・在宅看護学分野	●教　授　安田貴恵子
		講　師　御子柴裕子
		講　師　柄澤 邦江
		助　教　酒井久美子
		助　手　下村 聡子
		助　手　中林 明子
		助　手　白川あゆみ
		助　手　村井　ふみ (臨任)
	里山・遠隔看護学分野	●教　授　北山 秋雄
		特任教授　那須　　裕
		教　授　多賀谷 昭
専門関連領域	哲学・倫理学	准教授　屋良 朝彦
	心理学	講　師　松本 淳子
	社会・経済学	教　授　多賀谷 昭
	健康・保健学	教　授　北山 秋雄
		特任教授　那須　　裕
	生物・化学	教　授　太田 克矢
	英語・英米文化学	教　授　西垣内磨留美
		准教授　井村　俊義

健康センター	センター長　　東　　修

●＝専門分野責任者

2) 教員の募集・採用状況

教員の募集・採用は、「長野県看護大学教員選考基準に関する規程」(以下「規程」という)並びに「長野県看護大学教員選考基準細則」(以下「細則」という)に沿って行っている。

平成 19 年度には、学校教育法による大学教員の名称の変更を受け、本学においても上記規則・細則の見直し(助教授→准教授、助教の資格を規定、助手から助教への昇任)を行った。

教員の募集については、教員の欠員並びに教員の採用計画に従い、教員選考委員会が学長指名により組織のうえ選考を行い、教授会へ図っている。

平成 25 年度教職員採用状況　　(人)

教授	准教授	講師	助教	助手	認定看護師教育部門	計	学内昇任
(1) —	—	2	(1) 3	1	(1) —	(3) 6	1

(注) 上段の(　)は任期付職員で外書数である(臨任、育休任期付を除く)

（3）全学委員会

1）委員会の構成

教授会の下部組織として、委員会組織（常設の委員会 14、臨時の委員会 2）を設置しており、大学運営上の様々な課題については、委員会で検討のうえ、教授会に諮ることとしている。委員会組織は、助教・助手を含む全教員で構成している。

また、研究科委員会においても、下部組織として教務部会と入試部会の二つの部会組織を設けている。両部会は、講師以上の職位にあるものによって構成している。

委員会及び部会等の構成員は、次表のとおりである。

1　教授会委員会

(H25.5.1 現在)

委員会等		委員長等	委員等				事務局
学部長		清水教授					
教授会	運営委員会	阿保学長	清水学部長 白鳥教授 小林事務局長	多賀谷教授 内田教授	北山教授 渡辺教授	西垣内教授 安田教授	上田次長 宮下教学課長
	広報・交流委員会	西垣内教授	○千葉准教授 高橋助教 村井助手	松本講師 高坂助教	寺島講師 松澤助教	御子柴講師 坂上助手	斉藤課長補佐
	教務委員会	内田教授	喬教授 松本講師 佐々木助教	宮越准教授 早出講師	藤原准教授 柄澤講師	○千葉准教授 上條助教	加藤主事
	実習委員会	清水学部長	白鳥教授 早出講師 白井助教	藤原准教授 三沢講師 熊谷助教	○竹内准教授 御子柴講師 有賀(美)助教	千葉准教授 近藤助教 酒井助教	加藤主事
	入試検討委員会	北山教授	○坂田教授	井村准教授	阿部准教授	柄澤講師	斉藤課長補佐
	図書委員会 紀要委員会	多賀谷教授	○屋良准教授 那須助教	小田准教授 宮原助教	本田講師 有賀(智)助教	東講師 白川助手	原司書
	学生委員会	安田教授	○北山教授 田嶋助教	藤原准教授 曽根助教	小田准教授 下村助手 （就職支援員、学生支援員出席）	柄澤講師 小川助手	加藤主事 坂元保健師
	ネットワーク推進委員会	太田教授	寺島講師 中林助手	○東講師	梁助教	森野助手	白上課長補佐
	ＦＤ委員会	大石教授	西垣内教授 斎藤助手	喬教授 細萱助手	今井教授	東講師	上田次長
	評価委員会	阿保学長	清水学部長 西垣内教授 大石教授 （他に看護実践国際研究ｾﾝﾀｰ部門長）	多賀谷教授 坂田教授 渡辺教授	北山教授 白鳥教授 安田教授	太田教授 内田教授 小林事務局長	宮下教学課長
	倫理委員会	多賀谷教授	岡田教授	井村准教授	小田准教授	本田講師	小西主任
	ハラスメント防止委員会	坂田教授	○渡辺教授 長南助教	屋良准教授 小林事務局長	早出講師 宮下教学課長	塩澤助教	
	動物実験委員会	太田教授	○喬教授	内田教授	三沢講師		斉藤課長補佐
	感染症対策委員会	清水学部長	内田教授 小林事務局長	安田教授 宮下教学課長	坂田教授 坂元保健師	中畑助教	
	コンソーシアム信州運営委員会	喬教授	宮越准教授	○松本講師			宮下教学課長 斉藤課長補佐
人事特別委員会		阿保学長	清水学部長	内田教授	安田教授	小林事務局長	
図書館長		多賀谷教授					
学年顧問		1学年	竹内准教授	寺島講師	2学年	屋良准教授	御子柴講師
		3学年	井村准教授	宮越准教授	4学年	阿部准教授	松本講師

2　研究科委員会

部　会	部会長	部　会　員				事務局
教務部会	白鳥教授	岡田教授	安田教授	○屋良准教授	阿部准教授	宮下教学課長
入試部会	渡辺教授	太田教授	○大石教授	岡田教授	竹内准教授	斉藤課長補佐

（※）「委員等」欄の氏名に○印がある委員が副委員長

（4）教員評価

1）概　要

本学における業績評価は、長野県看護大学教員として、自らの仕事を点検し、よりよい仕事を実践していくために行われている。そのため、自らの仕事の範疇を評価するよう４領域（教育・研究・地域貢献・大学運営）に分けて記載する構造になっている。また、大学教員という主体的な仕事を基本とする職域においては自己評価が大切になるため、評価の最後の部分に記述式の自己評価の記載欄が設けられている。そして、自己評価の妥当性を高めるために、分野責任者、講座主任による他者評価がなされる。さらに昨年度からは、分野や講座を横断する形で大学全体の仕事内容の評価という観点で、新たに学長による加点がなされる仕組みを導入した。

従前の評価では、教育・研究における評価項目が高い場合は、得点が高くなるという傾向であった。しかしながら、カリキュラムによって、受け持つ授業科目や時間数は決定されることや、研究の仕方も理系・文系にかかわらず、チームで取り組む場合と個人で取り組む場合があり、それによって研究論文の数が左右されるため、一概に数のみで判断するというわけにはいかない。なるべく差がでないような配慮をしているが、すべてが平等にポイント化されるわけではない。また、会議・相談・調整等のいわゆるシャドーワークをいかに認めていくかという問題もあるが、その価値を数値で表すことは極めて困難である。そこで自己評価という形が生きてくる。学長による加点は、そういったことを十分に考えて行われ、各教員に、いっそう充実したよりよい仕事に精励することを期待している。

＜集計結果の概要＞

区分	評価領域・職種別平均					学長加算後平均(A)	最高値(B)	指数(B)/(A)*100	参考:授業時間	
	教育	研究	地域	運営	小計				平均	最高
教授(12名)	56.6	63.4	9.5	17.4	146.9	164.8	254.0	154	276.3	549
准教授(8名)	45.2	41.5	6.4	14.8	107.9	117.9	153.6	130	285.6	515
講師(4名)	42.9	38.4	4.3	14.4	100.0	113.7	144.3	127	361.0	594
助教(13名)	39.6	32.7	2.2	10.1	84.6	94.6	124.2	131	767.4	950
助手(2名)	31.0	16.3	2.7	10.8	60.7	70.7	84.6	120	729.5	1054

2）平成26年度研究費への反映

○上表の指数（B）／（A）＊100　の値が110を目安に、各職位でそれをほぼ上回る者を研究費の増額対象とした。(39名中12名が対象：30.1%)

教授：３名、准教授：２名、講師：１名、助教：５名、助手：１名

（5）人事特別委員会の活動

長野県看護大学人事特別委員会設置要綱に基づき、委員会では、教員の処分に関し必要な事項や、教員の職務遂行に関する事項を審査する。よって、案件がない場合は活動しないが、平成25年度は３件の案件について審査を行い、結果を学長、教授会へ報告した。

委員会の構成員は、要綱の規定により学長（委員長）、学部長、教務委員長、学生委員長、事務局長であり、この５名で調査、審査（会議開催16回）に当たった。

審査の対象となった案件のうちの１件目は、学生に対してハラスメント行為をしたとして処分された教員に関するもので、当該教員に課した課題の達成度を随時評価した。当該教員が転職したため、委員会としては年度末に最終的な結論は出さないこととした。

２件目は、非違行為があったと判断される教員に関するもので、非違行為の内容、大学教員としての適格性、該当する処分内容等について検討を行った。検討結果については、教授会の議を経て任命権者に報告され、処分が行われた。

３件目は、休職から復帰した教員に関するもので、復帰後の職務遂行状況等について検討を行った。当該教員は、大学教員として職務を遂行することが難しい状況であると結論し、その内容を当該教員に伝えた。

第３節　学生の状況

（１）学部

１）入学試験の状況

1. 状況

1995 年の開学以来、学部入学定員は 80 名で、３年次に 10 名の編入生を受け入れている。選抜試験では、入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に基づく小論文や面接を課して、一般選抜試験、特別選抜試験、編入学試験を行っている。

入学試験の過去５年間の状況は、以下のとおりである。

項　目		2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
一般入試	志願者	302	250	209	170	261
	合格者	53	53	53	56	56
	入学者(A)	50	48	50	53	53
	入学定員(B)	50	50	50	50	50
	A/B	1.00	0.96	1.00	1.06	1.06
推薦入試	志願者	43	61	63	56	55
	合格者	28	29	31	30	29
	入学者(A)	28	29	31	30	29
	入学定員(B)	30	30	30	30	30
	A/B	0.93	0.97	1.03	1.00	0.97
社会人入試	志願者	9	7	9	5	8
	合格者	3	4	3	3	2
	入学者(A)	3	3	2	2	1
	入学定員(B)	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名
	A/B	—	—	—	—	—
編入学試験	志願者	30	21	15	24	17
	合格者	16	11	10	10	4
	入学者(A)	8	10	5	2	2
	入学定員(B)	10	10	10	10	10
	A/B	0.80	1.00	0.50	0.20	0.20
合計	志願者	384	339	296	255	341
	合格者	100	97	97	96	91
	入学者(A)	89	90	88	87	85
	入学定員(B)	90	90	90	90	90
	A/B	0.99	1.00	0.98	0.97	0.94

(1) 特別選抜試験

県内の高等学校からの推薦を受けた者及び一定の社会人経験を有する者を対象とする選抜である。定員はあわせて 30 名で、同一の小論文試験と面接を課し、結果を総合的に評価して選抜を行っている。

① 推薦：県内の高等学校の卒業予定者で「全体の評定平均値」が 4.0 以上。推薦枠は各校２名（分校は１名）以内。

② 社会人(平成 15 年度から受け入れ)：大学入学資格と一定の基準による社会人としての経験を３年以上有する者。

(2) 一般選抜試験

分離分割方式で前期と後期に分けて実施し、定員は前期日程 42 名、後期日程８名である。大学入試センター試験と小論文試験及び個別面接を課し、結果を総合的に評価して選抜を行っている。

(3) 編入学試験

専門科目（基礎看護学、在宅看護論、成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学）と英語の筆記試験、個別面接を行い、結果を総合的に評価して選抜を行っている。

2. 課題及び方策

編入生の減、それに伴う総定員割れの状況が続いているため、その対応策として、編入生募集を平成28年度から停止することとした。

引き続き、編入制度廃止と、それに伴う学部定員の増（どの試験区分を増とするかを含む。）を検討していく。

2）学年別学生数

1. 状況

在校生数は、定数の340名に対し、ほぼ同数となっているが、近年の傾向として卒業延期生が増加している。

また、男子学生が全体の 10%程となり、増加傾向にある。

県内出身者は全体の74.2%で、年により増減しているが、従前に比べその率は、高まってきている。

平成25年5月1日 現在

学　部	総数	男	女	県内出身者	県外出身者
1年生	85	7	78	66	19
2年生	83	9	74	65	18
3年生	80	10	70	61	19
4年生	76	6	70	54	22
編入1年生	2	0	2	2	0
編入2年生	5	1	4	2	3
卒業延期生	10	0	10	3	7
計	341	33	308	253	88

（2）研究科

1）入学試験の状況

項　目		2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
看護学専攻（博士前期）	志願者	16	9	11	9	4
	合格者	14	8	8	8	4
	入学者(A)	14	7	8	8	4
	入学定員(B)	16	16	16	16	16
	充足率(A/B)	88%	44%	50%	50%	25%
看護学専攻（博士後期）	志願者	5	5	7	4	3
	合格者	2	1	5	3	2
	入学者(A)	2	1	5	3	2
	入学定員(B)	4	4	4	4	4
	充足率(A/B)	50%	25%	125%	75%	50%
合計	志願者	21	14	18	13	7
	合格者	16	9	13	11	6
	入学者(A)	16	8	13	11	6
	入学定員(B)	20	20	20	20	20
	充足率A/B	0.80	0.40	0.65	0.55	0.30

課題及び方策

① アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）が策定されておらず、大学院生の入

試に際し、策定することが求められている。

② 博士前期(修士)課程志願者が定員割れの状況であり、定員並に確保するための、広報活動の充実等の施策を検討する必要がある。

2）学年別院生数

在校生数は、博士前期課程が定数の32 名に対し、定員割れの状況となっている。近年の傾向として、入学生が少なく、休学等による卒業延期生が増加している。

また、博士後期課程は、定数 12 名に対し定員を上回っているが、休学等により標準修業年限を超える学生が多い傾向となっている。

平成25年５月１日 現在

大学院	総数			県内出身者	県外出身者
		男	女		
修士課程	24	1	23	21	3
博士課程	15	2	13	7	8
計	39	3	36	28	11

（３）学部及び研究科の休学、退学の状況

学部、研究科とも、最終学年での休学が多く、そのうちの一部が退学へとつながっている事例がある。

また、修士課程では、体調不良等による休学が、近年増加傾向が見られる。

1　学部・研究科の退学者数

		平成２３年度					平成２４年度					平成２５年度				
		１年	２年	３年	４年	合計	１年	２年	３年	４年	合計	１年	２年	３年	４年	合計
学部			2			2					0		1		2	3
研究科	修士課程					0		4			4		2			2
	博士課程					0					0					0
	小計	0	0	0		0	0	4	0		4	0	2	0		2
合計		0	2	0	0	2	0	4	0	0	4	0	3	0	2	5

※　研究科のうち、博士課程における単位取得退学者は、退学者数に計上していない。

2　学部・研究科の休学者数

		平成２３年度					平成２４年度					平成２５年度				
		１年	２年	３年	４年	合計	１年	２年	３年	４年	合計	１年	２年	３年	４年	合計
学部			4	1		5		1	3	2	6	1	2		3	5
研究科	修士課程		5			5	1	9			10		4			4
	博士課程			2		2	1		2		3		2	2		4
	小計	0	5	2		7	2	9	2		13	0	6	2		8
合計		0	9	3	0	12	2	10	5	2	19	1	8	2	3	13

※ 休学者数のうち、年度を越える休学は各年度毎で計上しているが、年度内の同一人物による複数の休学は実人数で計上している。

第２章　年間の活動状況

第１節　学部及び研究科の行事及び教授会活動

（1）１年間の行事

月　日	内　容
4月 3日　(水)	入学式
4月 4日　(木) 5日　(金)	教務ガイダンス 健康診断
4月 8日　(月) 9日　(火)	オリエンテーション合宿（1年）
4月 8日　(月) ～12日　(金)	履修登録期間
4月10日　(水)	前期授業開始
5月 1日　(火)	創立記念日
6月 3日　(月)	※認定看護師教育課程開講式
8月 3日　(土)	オープンキャンパス
8月 5日　(月)	看護大学運営協議会
8月14日　(水) ～9月29日　(日)	夏季休業
9月 7日　(土)	編入学試験
9月21日　(土) 22日　(日)	鈴風祭 公開講座
9月25日　(水)	前期卒業式
9月 30日　(月)	後期授業開始

※は看護実践国際研究センター認定看護師教育部門の行事

月　日	内　容
10月18日　(金)	博士後期課程入学試験
10月19日　(土)	博士前期課程入学試験
11月9日　(土)	推薦・社会人特別選抜入学試験
11月21日　(木)	※認定看護師教育課程選抜試験
12月21日　(土) ～1月5日　(日)	冬季休業
1月6日　(月)	後期授業再開
1月18日　(土) 19日　(日)	大学入試センター試験
1月25日　(土)	博士前期・後期課程二次募集入学試験
1月30日　(木)	※認定看護師教育課程修了式
2月15日　(土) ～3月31日　(月)	春季休業
2月21日　(金)	※認定看護師教育課程二次募集選抜試験
2月25日　(火)	一般選抜入学試験（前期）
3月8日　(土)	卒業式・修了式
3月12日　(水)	一般選抜入学試験（後期）
3月19日　(水)	看護大学研究集会

（2）教授会の活動

回	開催月日	協　議　事　項
1	4月 2日	1　平成25年度一般研究費配分（案）について
2	4月16日	1　平成25年度学生校費予算について 2　平成25年度特別研究費配分（案）について 3　3年次編入学生の推移と今後について 4　20周年記念事業について
3	5月 7日	1　平成26年度編入学試験学生募集（案）について 2　教員の休職について 3　人間基礎科学（基礎医学・疾病学）の教員の採用について
4	5月21日	1　入学前の既修得単位の認定について 2　平成26年度入学者選抜に関する要項（案）について 3　平成25年度長野県看護大学臨床教授について 4　人間基礎科学（基礎医学・疾病学）の教員の採用について 5　災害看護学のカリキュラムについて
臨時	5月28日	1　人間基礎科学（基礎医学・疾病学）の教員の採用について
5	6月 4日	（報告事項）
6	6月18日	1　職員の職位の昇任申出について 2　教授会の日程について

7	7月 2日	1 職員の職位の昇任申出について 2 平成26年度学生募集要項《一般選抜入学試験》（案）について 3 平成26年度学生募集要項《推薦入学試験》（案）について 4 平成26年度学生募集要項《社会人特別選抜試験》（案）について 5 教授会、委員会等の構成員について 6 教員の平成25年度業績に関する評価について 7 学生による授業評価の見直しについて
8	7月16日	1 休学願について 2 平成25年度第1回長野県看護大学運営協議会について 3 平成26年度に向けての教員の配置状況について 4 教員の職位の昇任について
臨時	8月 1日	1 試験における学生の不正行為について
9	9月 3日	1 休学願について 2 学長選挙・選挙管理委員の選挙について
10	9月10日	1 平成26年度編入学試験結果について
11	9月17日	1 教職員の退職について 2 休学願について 3 年度中途で卒業する学生の卒業認定について 4 平成26年度当初予算要求について 5 試験実施要領等の一部改正（案）について 6 平成25年度防災訓練の実施予定について
12	9月24日	1 人間基礎科学（健康・保健学分野）の教員の採用について
13	10月 1日	1 教員の公募について 2 教員の昇任に関する日程について 3 教員の採用又は昇任の際の投票方法に関する内規（案）について 4 人間基礎科学（健康・保健学分野）の教員の採用について 5 教員の退職について
14	10月15日	1 退学願について 2 学部長、研究科長選考の日程について 3 教員の退職に伴う委員会の委員構成の変更について 4 卒業研究担当分野の変更について
15	10月29日	1 学長予定者の信任投票結果について
16	11月 5日	1 学部長候補者選挙管理委員の選挙について 2 地（知）の拠点整備事業と本学の対応について 3 基礎看護学の教員（教授又は准教授）の公募状況について 4 成人看護学の教員の公募について 5 母性・助産看護学の教員の公募について
17	11月19日	1 特任教授の任命について 2 基礎看護学の教員（教授又は准教授）の公募状況について 3 成人看護学の教員（教授又は准教授）の公募状況について 4 基礎医学・疾病学教員（助教）の公募状況について 5 平成26年度推薦・社会人入学試験結果について
18	12月 3日	1 学部長候補者の選挙結果について 2 基礎看護学の任期付教員について 3 平成26年度学年歴について 4 授業時間の確保及び試験実施等に関する大学としての方向性（案） 5 教員の退職について
19	12月10日	1 学部長候補者選挙の結果について 2 母性・助産看護学の教員の採用について 3 成人看護学の教員の採用について
20	12月17日	1 平成26年度非常勤講師について 2 平成24年度教員の業績評価について 3 成人看護学の教員（教授又は准教授）の公募状況について 4 母性・助産看護学の教員の採用について 5 成人看護学の教員（助教又は助手）の採用について
21	1月 7日	1 平成26年度学部時間割について 2 教授会の日程について

22	1月21日	1 平成25年度第2回長野県看護大学運営協議会について 2 阿南町における医療介護ネットワークの推進事業について 3 任期付職員（基礎看護学）の公募について 4 基礎医学・疾病学の教員の採用について 5 基礎看護学（看護管理学・教育学）の教員の採用について
23	1月28日	1 認定看護師教育課程修了式について
24	2月 4日	1 長野県看護大学ハラスメント対策ガイドライン（案）について 2 平成26年度県内看護職者との共同研究について 3 平成26-27年度教授会委員会等の委員の選任について 4 長野県看護大学防災委員会規程（案）について 5 「研究科長」が関係する規程の改正について 6 平成26-27年度ハラスメント防止委員について
25	2月18日	1 退学願について 2 平成25年度卒業認定について 3 平成26年度編入生単位認定について 4 平成26年度科目等履修生募集要項（案）について 5 平成26年度県内大学単位互換履修生募集要項（案）について 6 試験の実施体制について 7 学生による授業評価の見直しについて 8 平成27年度学部入学試験関係日程（案）について 9 平成26年度教授会委員会の委員の選任及び学年顧問の指名について 10 駒ヶ根市との地域連携協定ついて 11 長野県看護大学ハラスメント対策ガイドライン（案）について 12 基礎看護学の任期付職員の採用について
臨時	2月24日	1 基礎看護学の任期付職員の採用について
26	3月 4日	1 教員の退職について 2 履修時期の変更について 3 長野県看護大学履修規程の一部改正について 4 長野県看護大学ハラスメントの防止等に関する規程の一部改正について 5 平成26年度講座主任の選任について 6 複数の監督者を必要とする試験の実施体制について 7 平成26年度一般入学試験（前期）の結果について
27	3月18日	1 休学願について 2 平成26年度非常勤講師について 3 平成25年度単位取得状況について 4 卒業研究の学生配置について 5 教員の退職について 6 教員の公募について 7 平成26年度教授会委員会等の委員の選任について 8 県内看護職者との共同研究の応募テーマについて 9 平成26年度一般入学試験（後期）の結果について

（3）研究科委員会の活動

回	開催月日	協　議　事　項
1	4月16日	1 退学願について 2 平成25年度博士後期課程研究計画書の提出について 3 博士論文指導教員について 4 大学院博士前期（修士）課程試験科目（英語）の継続について
2	5月 8日	1 平成26年度大学院博士前期（修士）課程学生募集要項（案）について 2 平成26年度大学院博士後期（博士）課程学生募集要項（案）について
3	5月21日	1 休学願について 2 平成25年度前期博士論文研究計画発表会（案）について 3 平成25年度修士論文研究題名・論文指導及び審査委員(案)について
4	6月 4日	1 平成25年度博士前期 博士論文研究計画書審査について

5	6月18日	1　ティーチングアシスタント実施計画について 2　学外者による論文指導及び論文審査委員に関する内規の整備について
6	7月 2日	1　退学願について 2　平成25年度専門看護師教育課程の認定審査申請について
7	7月16日	1　休学願について 2　平成25年度前期 博士論文審査委員（案）について 3　文部科学省学位規則一部改正への対応について 4　満期退学者の博士論文申請・審査について
8	9月 3日	1　退学願について
9	9月 17日	1　休学願について
10	9月24日	1　博士後期課程修得単位の認定について 2　平成25年度前期博士論文の審査結果報告及び最終試験結果報告書について
11	10月 1日	1　休学願について 2　専門分野変更願について 3　長野県看護大学大学院研究科長選考規程（案）について 4　長野県看護大学大学院研究科長選考規程施行細則（案）について
12	10月 15日	1　休学願について 2　研究科長候補者選挙管理委員の選挙について 3　博士後期課程 研究計画書提出について
13	10月22日	1　平成26年度博士前期・後期課程入学試験結果について 2　平成26年度博士前期・後期課程入学試験（二次募集）について
14	11月 5日	1　長野県看護大学大学院研究科委員会規程改正案について 2　長野県看護大学大学院研究科教員の学内審査に関する内規（案）について
15	11月19日	1　研究科長候補者選挙の結果について 2　平成26年度大学院非常勤講師について 3　長野県看護大学大学院研究科委員会規程改正案について 4　長野県看護大学大学院研究科教員の学内審査に関する内規（案）について
16	11月26日	1　研究科長候補者選挙の結果について
17	12月 3日	1　平成25年度後期 博士論文審査委員（案）について
18	12月17日	1　休学願について 2　平成25年度度修士論文審査日程（案）について 3　平成26年度大学院学年歴（案）について
19	1月21日	1　平成25年度修士論文発表会（案）について 2　平成25年度大学院非常勤講師（案）について 3　平成26年度大学院科目等履修生募集要項（案）について 4　平成26年度大学院研究生募集要項（案）について
20	1月28日	1　平成26年度博士前期(修士)・後期課程二次試験結果について 2　平成26年度博士後期（博士）課程二次試験結果について 3　博士（前期・後期課程）入学試験実施状況
21	2月18日	1　平成26年度大学院時間割（案）について 2　平成26年度大学院非常勤講師（案）について 3　平成26年度県内大学単位互換履修対象科目（案）について 4　博士（前期・後期課程）入学試験日程について 5　平成27年度大学院入学試験日程（案）について 6　博士前期（修士）課程修得単位の認定について 7　修士論文審査結果及び最終試験結果報告について 8　博士後期課程修得単位の認定について 9　研究科教員の学内審査について
22	3月18日	1　退学願について 2　長野県看護大学大学院研究科教員の学内審査に関する内規の一部改正について 3　博士前期（修士）課程の修得単位の認定について 4　博士後期（博士）課程の修得単位の認定について

第２節　学部の教育活動

（1）カリキュラム

1）授業科目

平成25年度入学生

	科目	期	単位数	時間数	科目	期	単位数	時間数
1学年	生物学	前期	1	30	家族社会学	後期	1	15
	化学	前期	1	30	医療英文読解演習Ⅰ	後期	1	30
	運動実技・理論Ⅰ	前期	1	30	医療英会話の基礎Ⅰ	後期	1	30
	統計学	前期	1	15	生化学	後期	1	30
	英文読解の基礎	前期	1	15	人体の構造と機能演習	後期	1	30
	英会話の基礎	前期	1	30	病理学	後期	1	15
	人体の構造と機能Ⅰ	前期	2	30	薬理学	後期	2	30
	人体の構造と機能Ⅱ	前期	1	30	病理学演習	後期	1	30
	看護学概論	前期	2	30	基礎看護方法Ⅰ	後期	1	30
	人間関係論	前期	1	30	人間発達論	後期	1	15
	基礎看護実習Ⅰ	前期	1	45	公衆衛生学	後期	1	30
	保健・医療・福祉システム看護論Ⅰ	前期	1	15	保健・医療・福祉システム看護論Ⅱ	後期	1	15
	情報処理科学	前期	1	30				
	倫理学	後期	1	15	小計（26科目）		29	675
2学年	臨床心理学	前期	1	30	疫学	前期	1	30
	医療英文読解演習Ⅱ	前期	1	30	運動実技・理論Ⅱ	後期	1	30
	医療英会話の基礎Ⅱ	前期	1	30	感染学演習	後期	1	30
	フィジカルアセスメント	前期	1	30	看護過程の理論と展開	後期	1	15
	疾病学Ⅰ	前期	1	30	慢性期看護方法	後期	2	60
	疾病学Ⅱ	前期	1	30	急性期看護概論	後期	1	15
	感染学	前期	1	30	老年看護方法Ⅰ	後期	1	30
	基礎看護方法Ⅱ	前期	2	60	精神看護概論Ⅱ	後期	1	15
	慢性期看護概論	前期	1	15	母性看護方法Ⅰ	後期	1	30
	老年看護概論	前期	2	30	小児看護概論Ⅱ	後期	1	15
	精神看護概論Ⅰ	前期	1	15	小児看護方法Ⅰ	後期	1	30
	母性看護概論	前期	1	15	地域看護方法Ⅰ	後期	1	30
	小児看護概論Ⅰ	前期	1	15	在宅ケア方法Ⅰ	後期	1	30
	地域看護概論	前期	1	15	多文化共生看護学	後期	2	30
	家族援助論	前期	1	15	基礎看護実習Ⅱ	後期	2	90
	在宅ケア論	前期	1	15	小計（31科目）		36	885
3学年	医療経済学	前期	1	15	在宅ケア方法Ⅱ	前期	1	30
	看護栄養学	前期	1	15	保健統計学	前期	1	15
	症状マネジメント論	前期	1	15	保健・医療・福祉システム看護論Ⅲ	前期	1	15
	急性期看護方法	前期	2	60	遺伝と人間	後期	1	15
	老年看護方法Ⅱ	前期	1	30	看護倫理	後期	1	15
	精神看護方法	前期	2	60	看護管理論	後期	1	15
	母性看護方法Ⅱ	前期	1	30	看護研究方法	後期	1	30
	小児看護方法Ⅱ	前期	1	30				
	地域看護方法Ⅱ	前期	1	30	小計（16科目）		18	420
4学年	看護統合実習	前期	2	90	卒業研究	全期	4	180
	災害看護論	後期	1	30	小計（3科目）		7	300
3学年 4学年	成人看護実習		4	180	小児看護実習		3	135
	老年看護実習		4	180	地域看護実習		4	180
	精神看護実習		3	135	在宅看護実習		2	90
	母性看護実習		2	90	小計（7科目）		22	990

必修科目合計

科目	単位数	時間数
86　科　目	112	3,270

＜選択必修科目＞

科目	期	単位数	時間数	科目	期	単位数	時間数
教育学	1年前学期	2	30	教育心理学	1年後学期	2	30
英会話演習	3年前学期	1	30	英語文化研究	3年前学期	1	30

＜選択科目＞

科目	期	単位数	時間数	科目	期	単位数	時間数
コミュニケーション論	1年前学期	1	15	運動理論	3年前学期	1	15
心理学	1年前学期	2	30	医事法学	3年前学期	1	15
社会学	1年前学期	2	30	国際看護学Ⅰ	3年前学期	2	30
信州学	1年前学期	1	15	国際看護学Ⅱ	3年前学期	1	15
数学	1年前学期	1	15	国際看護実習	3年前学期	2	90
独語	1年前学期	1	15	生命倫理	3年後学期	1	15
生命科学演習	1年後学期	1	30	芸術と人間	3年後学期	2	30
哲学	2年前学期	2	30	助産概論	3年後学期	1	15
文化人類学	2年前学期	2	30	地域母子保健	4年前学期	1	15
経済学	2年前学期	2	30	仏語	4年後学期	1	15
人間工学	2年前学期	2	30	看護論	4年後学期	1	15
法学	2年後学期	2	30	看護教育論	4年後学期	2	30
論理学	3年前学期	1	15	エンカウンター	4年後学期	1	30

2）非常勤講師

担当科目	氏名	現職
教育学	加藤和之	下條村児童館 館長
医療経済学	福田敬	国立保健医療科学院 研究情報支援研究センター 上席主任研究官
統計学	中村寛志	信州大学農学部 教授
経済学	樋口均	信州大学経済学部 教授
法学	増尾均	松本大学総合経営学部 教授
医事法学	浅村英樹	信州大学医学部 教授
人間工学	加藤麻樹	早稲田大学人間科学部 准教授
数学	花木章秀	信州大学理学部 教授
英会話演習	北原アンドレア	信州大学 非常勤講師 信州豊南短期大学 非常勤講師
	Rex Winston McTavish	マイルストーン英会話学校 英語講師
独語	浜泰子	信州大学高等教育システムセンター 非常勤講師
運動実技・理論Ⅰ，Ⅱ 運動理論Ⅰ，Ⅱ	杉本光公	信州大学全学教育機構健康科学部門 准教授
芸術と人間 （クラシック療法）	鷲沢寿美子	ピアノ教室「花の会」主宰
芸術と人間 （音楽療法）	長江朱夏	(医)資生会 八事病院 音楽療法士 (福)まつど育成会 音楽療法士
感染学演習	岩月和彦	長野県看護大学 名誉教授
保健・医療・福祉システム 看護論Ⅱ	原正光	元飯伊圏域障害者支援センター 所長
看護栄養学	志塚ふじ子	長野県短期大学 教授
人間関係論 人間関係論・エンカウンターⅡ	原田慶子	聖マリアンナ医科大学総合教育センター 副センター長

（2）臨地実習

1）臨地実習計画

学年	実習科目	期間	単位
1	看護看護実習Ⅰ	6月17日～6月21日	1
2	基礎看護実習Ⅱ	1月20日～1月31日 2月 3日～2月17日	2
3	成人看護実習	9月30日～11月29日	3
	老年看護実習		3
	精神看護実習		3
	母性看護実習		3
	小児看護実習		3
	地域看護実習		3
	在宅看護実習（助産専攻学生のみ）	3月3日～7日	1
4	成人看護実習	5月7日～7月5日	3
	老年看護実習		3
	精神看護実習		3
	母性看護実習		3
	小児看護実習		3
	地域看護実習		3
	在宅看護実習	7月8日～7月12日 7月16日～7月22日 8月19日～8月23日 8月26日～8月30日	1
	看護管理実習	7月16日～7日26日 8月26日～9月6日 9月5日～9月19日	2
	国際看護実習（選択）	7月31日～8月12日	3
	助産実習（選択）	9月2日～11月28日	9
編入2	地域看護実習	7月8日～7月22日	3

2）臨地実習施設

① 病院

実習施設	所在地	実習科目
昭和伊南総合病院	駒ヶ根市	基礎看護Ⅰ・Ⅱ 成人看護、看護管理
伊那中央病院	伊那市	基礎看護Ⅰ・Ⅱ 母性看護、小児看護 看護管理、助産
こころの医療センター駒ヶ根	駒ヶ根市	精神看護
医療法人 栗山会　飯田病院	飯田市	精神看護
医療法人 聖山会　伊那神経科病院	伊那市	精神看護
医療法人 蜻蛉会　南信病院	南箕輪村	精神看護
信州大学医学部附属病院	松本市	精神看護
こども病院	安曇野市	小児看護、助産
飯田市立病院	飯田市	看護管理
下伊那赤十字病院	松川町	在宅看護
信濃医療福祉センター	下諏訪町	在宅看護
国保美和診療所	伊那市	在宅看護
諏訪赤十字病院	諏訪市	助産
諏訪中央病院	茅野市	助産
諏訪マタニティークリニック	下諏訪町	助産

② 保健・福祉施設

実習施設	所在地	実習科目
複合福祉施設　プラムの里	宮田村	国際看護
特別養護老人ホーム　観成園	駒ヶ根市	基礎看護Ⅰ
介護老人保健施設　エーデル駒ヶ根	駒ヶ根市	基礎看護Ⅰ
ディサービスセンター　大原こだま園	駒ヶ根市	基礎看護Ⅰ
老人保健施設　はびろの里	伊那市	老年看護

老人保健施設　すずたけ	伊那市	老年看護
介護老人保健施設　円会センテナリアン	高森町	老年看護
駒ヶ根市地域活動支援センター　たんぽぽの家	駒ヶ根市	精神看護
自立訓練事業所　親愛の里シンフォニー	宮田村	精神看護
障害者社会就労センター　コスモスの家	伊那市	精神看護

③ 助産所

実習施設	所在地	実習科目
おひさま助産院	駒ヶ根市	母性看護
野ノ花助産院	駒ヶ根市	母性看護
さくらこ助産所	伊那市	母性看護
明生助産所	伊那市	母性看護
助産所とうみ	東御市	助産

④ 保健福祉事務所

実習施設	所在地	実習科目
諏訪保健福祉事務所	諏訪市	地域看護
伊那保健福祉事務所	伊那市	地域看護
飯田保健福祉事務所	飯田市	地域看護
木曽保健福祉事務所	木曽町	地域看護

⑤ 市町村

実習施設	所在地	実習科目
伊那市役所	伊那市	地域看護
駒ヶ根市役所	駒ヶ根市	地域看護
辰野町役場	辰野町	地域看護
箕輪町役場	箕輪町	地域看護
飯島町役場	飯島町	地域看護
南箕輪村役場	南箕輪村	地域看護
宮田村役場	宮田村	地域看護
木曽町役場	木曽町	地域看護

⑥ 訪問看護ステーション

実習施設	所在地	実習科目
訪問看護ステーションすずたけ	伊那市	在宅看護
訪問看護ステーションみどり	箕輪町	在宅看護
円会訪問看護ステーション	高森町	在宅看護
伊南訪問看護ステーション	駒ヶ根市	在宅看護
下伊那赤十字訪問看護ステーション	松川町	在宅看護
箕輪町訪問看護ステーション	箕輪町	在宅看護

⑦ 学校

実習施設	所在地	実習科目
高遠小学校	伊那市	地域看護
高遠北小学校	伊那市	地域看護
高遠中学校	伊那市	地域看護
伊那小学校	伊那市	地域看護
伊那東小学校	伊那市	地域看護
伊那西小学校	伊那市	地域看護
伊那中学校	伊那市	地域看護
辰野中学校	辰野町	地域看護
辰野西小学校	辰野町	地域看護
辰野東小学校	辰野町	地域看護
箕輪西小学校	箕輪町	地域看護
箕輪南小学校	箕輪町	地域看護
南部小学校	南箕輪村	地域看護
南箕輪中学校	南箕輪村	地域看護
中川西小学校	中川村	地域看護
中川東小学校	中川村	地域看護
中川中学校	中川村	地域看護
長野県伊那養護学校	伊那市	在宅看護
長野県花田養護学校	下諏訪町	在宅看護

第３節　研究科の教育活動

（１）カリキュラム

１）授業科目

博士前期(修士)課程授業科目（平成 25 年度入学生）

授業科目				科目番号	単位数	学年別時間数 1年 前学期	1年 後学期	2年 前学期	2年 後学期	計	頁
必修科目			○ 看護倫理	3201	2	30(一部集中講義)				30	4
			○ 看護理論	3101	2	30(一部集中講義)				30	6
			○ 看護研究法	3102	2	30				30	7
＊領域別分野専門科目（10単位）	看護基礎科学領域	病態機能学分野	○ 病態機能学特論Ⅰ	3401	2	30				30	9
			○ 病態機能学特論Ⅱ	3402	2	30				30	10
			○ 病態機能学演習	3403	6		90			90	11
		病態治療学分野	○ 病態治療学特論Ⅰ	3404	2	30				30	12
			○ 病態治療学特論Ⅱ	3405	2	30				30	13
			○ 病態治療学演習	3406	6		90			90	14
	基礎看護学領域	基礎看護学分野	○ 基礎看護学特論Ⅰ	3411	2	30				30	15
			○ 基礎看護学特論Ⅱ	3412	2		30			30	18
			○ 基礎看護学演習Ⅰ	3413	6		90			90	21
		看護管理学分野	○ 看護管理学・看護教育学特論Ⅰ	3414	2	30				30	
			○ 看護管理学・看護教育学特論Ⅱ	3415	2		30			30	
			○ 看護管理学・看護教育学演習Ⅰ	3416	6	90	90			180	
	発達看護学領域	母性・助産看護学分野	○ 母性看護学特論Ⅰ	3242	2	30				30	24
			○ 母性看護学特論Ⅱ	3243	2		30			30	25
			○ 母性看護学演習Ⅰ	3251	6		90			90	26
		小児看護学分野	○ 小児看護学特論Ⅰ	3252	2	30				30	27
			○ 小児看護学特論Ⅱ	3253	2		30			30	28
			○ 小児看護学演習Ⅰ・A	3247	2	30				30	29
			○ 小児看護学演習Ⅰ・B	3248	2	30				30	30
			○ 小児看護学演習Ⅰ・C	3249	2		30			30	31
			小児看護学実習	3250	6			270		270	32
		成人看護学分野	○ 成人看護学特論Ⅰ	3222	2	30				30	
			○ 成人看護学特論Ⅱ	3223	2		30			30	
			○ 成人看護学演習Ⅰ	3235	6	90				90	
	広域看護学領域	老年看護学分野	○ 老年看護学特論Ⅰ	3225	2	30				30	34
			○ 老年看護学特論Ⅱ	3226	2		30			30	36
			○ 老年看護学特論Ⅲ	3234	2	30				30	38
			○ 老年看護学演習Ⅰ・A	3227	2		60			60	40
			○ 老年看護学演習Ⅰ・B	3231	2		60			60	42
			老年看護学演習Ⅰ・C	3232	2		60			60	44
			老年看護学実習	3233	6		270			270	46
		精神看護学分野	○ 精神看護学特論Ⅰ	3228	2	30				30	48
			○ 精神看護学特論Ⅱ	3229	2	30				30	49
			○ 精神看護学特論Ⅲ	3421	2		30			30	50
			○ 精神看護学演習Ⅰ・A	3422	2		60			60	52
			○ 精神看護学演習Ⅰ・B	3423	2			60		60	53
			精神看護学演習Ⅰ・C	3424	2				60	60	55
			精神看護学実習	3425	10			450		450	56
		地域・在宅看護学分野	○ 地域・在宅看護学特論Ⅰ	3431	2	30				30	57
			○ 地域・在宅看護学特論Ⅱ	3432	2	30				30	59
			○ 地域・在宅看護学演習Ⅰ	3433	3	90				90	61
			○ 地域・在宅看護学演習Ⅱ	3434	3		90			90	63
		里山・遠隔看護学分野	★○ 里山・遠隔看護学特論Ⅰ	3441	2	30				30	66
			★△ 里山・遠隔看護学特論Ⅱ	3442	2	30				30	67
			★△ 里山・遠隔看護学特論Ⅲ	3443	2		30			30	68
			○ 里山・遠隔看護学演習Ⅰ	3444	6		180			180	69
選択必修科目			○ 看護学課題研究	3103	6			90	90	180	70
			看護実践課題研究	3104	2			30	30	60	71
共通選択科目（8単位以上）			看護学原論	3501	1	15				15	72
			フィジカルアセスメント	3502	2	30(集中講義)				30	73
			家族看護論	3503	1	15(一部集中講義)				30	74
			健康心理学特論Ⅰ	3504	2		30			30	75
			質的研究方法論	3505	1	15				15	76
			環境疫学特講	3304	1		15			15	77
			★ 言語文化特講Ⅰ	3506	2	30				30	78
			★ 保健・医療・福祉システム看護学特講Ⅰ	3307	2	30				30	79
			量的研究方法論	3507	1		15			15	81
			★ コミュニティ・ディベロップメント論特講	3311	2	30(集中講義)				30	82
			語法特殊講義	3314	2	30				30	83
			看護海外研修	3315	1		15			15	84
			看護臨床薬理学	3508	2	30				30	86
			臨床病態学	3509	2	30				30	87
			コンサルテーション論	3273	2	30(一部集中講義)				30	88
			看護管理学	3262	2	30(一部集中講義)				30	89
			看護教育・援助論	3261	2	30(一部集中講義)				30	91
			女性と子どもの健康問題と看護	3241	2		30			30	93
			遠隔看護論	3281	2		30			30	94
			国際看護論	3202	1		15			15	96

専門看護師コースの授業科目（平成 25 年度入学生）

老年看護分野

	授業科目	科目番号	単位数	
必修科目	看護倫理	3201	2	◎
	看護理論	3101	2	◎
	看護研究法	3102	2	◎
	看護実践課題研究	3104	2	◎
	必修科目　計		8単位	
分野別必修科目	老年看護学特論Ⅰ	3225	2	◎
	老年看護学特論Ⅱ	3226	2	◎
	老年看護学特論Ⅲ	3234	2	◎
	老年看護学演習Ⅰ・A	3227	2	◎
	老年看護学演習Ⅰ・B	3231	2	◎
	老年看護学演習Ⅰ・C	3232	2	◎
	老年看護学実習	3233	6	◎
	分野別必修科目　計		18単位	
共通選択科目（◎は必ず選択）	看護学原論	3501	1	
	フィジカルアセスメント	3502	2	
	家族看護論	3503	1	
	健康心理学特講Ⅰ	3504	2	
	質的研究方法論	3505	1	
	環境疫学特講	3304	1	
	言語文化特講Ⅰ	3506	2	
	保健・医療・福祉システム看護学特講Ⅰ	3307	2	*
	量的研究方法論	3507	1	
	コミュニティ・ディベロップメント論特講	3311	2	
	語法特殊講義	3314	2	
	看護海外研修	3315	1	
	看護臨床薬理学	3508	2	
	臨床病態学	3509	2	
	国際看護論	3202	1	
	女性と子どもの健康問題と看護	3241	2	
	看護教育・援助論	3261	2	◎
	コンサルテーション論	3273	2	◎
	看護管理学	3262	2	*
	遠隔看護論	3281	2	
	共通選択科目　計		4単位以上	
合　計	30単位以上			

小児看護分野

	授業科目	科目番号	単位数	
必修科目	看護倫理	3201	2	◎
	看護理論	3101	2	◎
	看護研究法	3102	2	◎
	看護実践課題研究	3104	2	◎
	必修科目　計		8単位	
分野別必修科目	小児看護学特論Ⅰ	3252	2	◎
	小児看護学特論Ⅱ	3253	2	◎
	小児看護学演習Ⅰ・A	3247	2	◎
	小児看護学演習Ⅰ・B	3248	2	◎
	小児看護学演習Ⅰ・C	3249	2	◎
	小児看護学実習	3250	6	◎
	分野別必修科目　計		16単位	
共通選択科目（◎は必ず選択）	看護学原論	3501	1	
	フィジカルアセスメント	3502	2	
	家族看護論	3503	1	
	健康心理学特講Ⅰ	3504	2	
	質的研究方法論	3505	1	
	環境疫学特講	3304	1	
	言語文化特講Ⅰ	3506	2	
	保健・医療・福祉システム看護学特講Ⅰ	3307	2	*
	量的研究方法論	3507	1	
	コミュニティ・ディベロップメント論特講	3311	2	
	語法特殊講義	3314	2	
	看護海外研修	3315	1	
	看護臨床薬理学	3508	2	
	臨床病態学	3509	2	
	国際看護論	3202	1	
	女性と子どもの健康問題と看護	3241	2	◎
	看護教育・援助論	3261	2	◎
	コンサルテーション論	3273	2	◎
	看護管理学	3262	2	*
	遠隔看護論	3281	2	
	共通選択科目　計		6単位以上	
合　計	30単位以上			

精神看護分野

	授業科目	科目番号	単位数	
必修科目	看護倫理	3201	2	◎
	看護理論	3101	2	◎
	看護研究法	3102	2	◎
	看護実践課題研究	3104	2	◎
	必修科目　計		8単位	
分野別必修科目	精神看護学特論Ⅰ	3228	2	◎
	精神看護学特論Ⅱ	3229	2	◎
	精神看護学特論Ⅲ	3421	2	◎
	精神看護学演習Ⅰ・A	3422	2	◎
	精神看護学演習Ⅰ・B	3423	2	◎
	精神看護学演習Ⅰ・C	3424	2	◎
	精神看護学実習	3425	10	◎
	分野別必修科目　計		22単位	
共通選択科目（◎は必ず選択）	看護学原論	3501	1	
	フィジカルアセスメント	3502	2	◎
	家族看護論	3503	1	
	健康心理学特論Ⅰ	3504	2	◎
	質的研究方法論	3505	1	
	環境疫学特講	3304	1	
	言語文化特講Ⅰ	3506	2	
	保健・医療・福祉システム看護学特講Ⅰ	3307	2	*
	量的研究方法論	3507	1	
	コミュニティ・ディベロップメント論特講	3311	2	
	語法特殊講義	3314	2	
	看護海外研修	3315	1	
	看護臨床薬理学	3508	2	◎
	臨床病態学	3509	2	◎
	国際看護論	3202	1	
	女性と子どもの健康問題と看護	3241	2	
	看護教育・援助論	3261	2	◎
	コンサルテーション論	3273	2	◎
	看護管理学	3262	2	*
	遠隔看護論	3281	2	
	共通選択科目　計		12単位以上	
合　計	42単位以上			

◎ 専門看護師コース必修科目

＊ 専門看護師認定審査受験に向けて選択することを推奨する科目

2）非常勤講師

担当科目	氏名	現職
看護倫理	小西恵美子	長野県看護大学名誉教授
精神看護学特論Ⅱ	樋掛忠彦	長野県立こころの医療センター　院長
フィジカルアセスメント	山内豊明	名古屋大学大学院教授
量的研究方法論	萩原榮之	信州大学農学部教授
コミュニティ・ディベロップメント論特講	色平哲郎	佐久総合病院地域医療部地域ケア科医長
	長純一	石巻市立病院内科部長
語法特殊講義	滝沢秀男	高崎経済大学非常勤講師
家族看護論	柳原清子	東海大学看護学部教授
看護理論	阿保順子	前長野県看護大学 学長
看護管理学	白鳥さつき	前長野県看護大学教授
看護教育・援助論	白鳥さつき	前長野県看護大学教授
看護倫理	大石ふみ子	愛知医科大学看護学部教授
コンサルテーション論	大石ふみ子	愛知医科大学看護学部教授

第４節　看護実践国際研究センターの活動

概要

本学は、1995年（平成７年）長野県初の県立４年制大学として開学して以来、グローバル化する世界でのローカルとして地域を捉え、その地域への貢献を主眼にして、教育、研究を進めてきた。

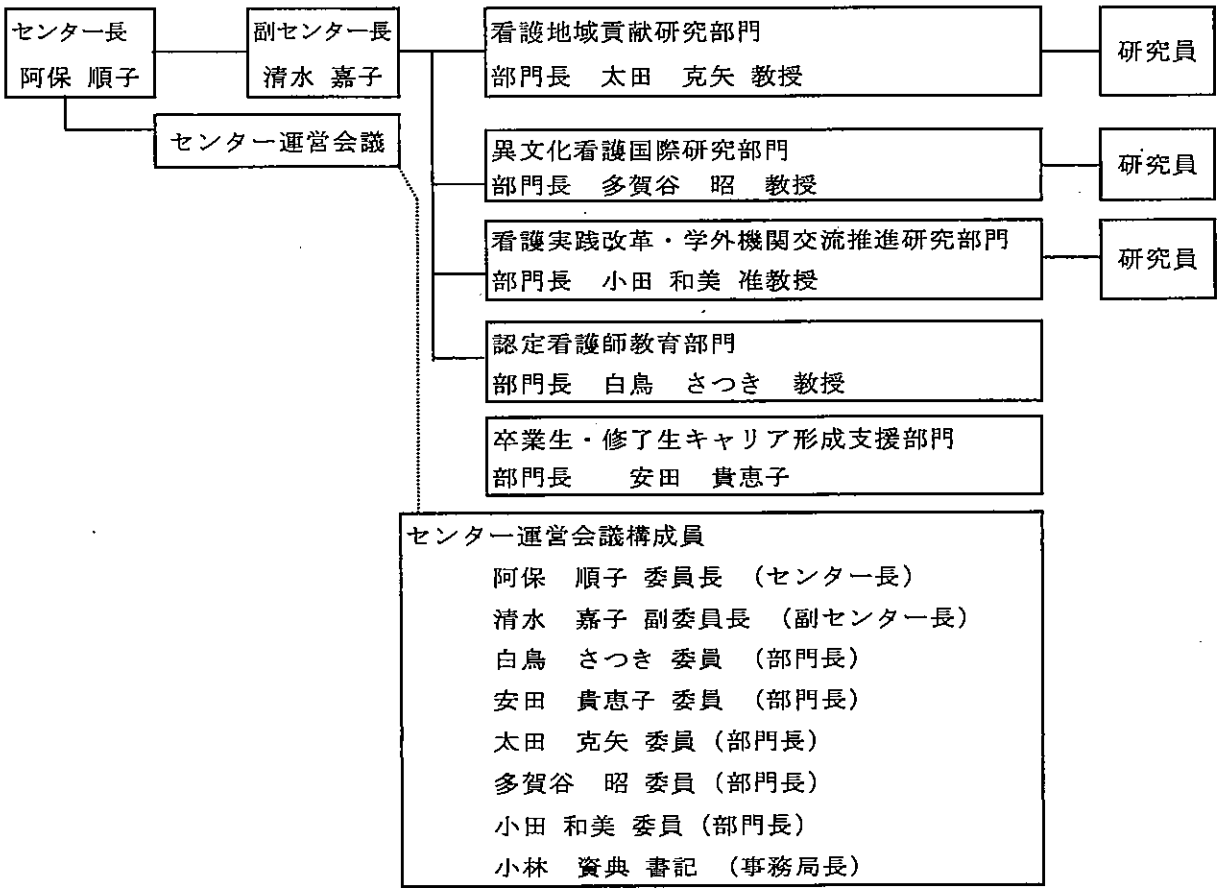
「看護実践国際研究センター」は、看護学を発展させ、人々の健康に寄与できる研究についてのテーマと人と資金を集約し、本学の研究活動の拠点として位置づけ、社会における看護の先端領域課題の研究や実践に取り組んでいる。

平成14年度に設立した当該センターは、看護の抱える諸課題に対応して、「看護地域貢献研究部門」、異文化看護国際研究部門」、「看護実践改革・学外交流部門」の３つの研究部門を設置し、講座や分野などの専門的な枠を超え、また学外機関との交流などにより諸課題に対応してきたところであり、平成23年度には、新たに「認定看護師教育部門」及び「卒業生・修了生キャリア形成支援部門」の２つの部門を開設した。

認定看護師教育課程については、センターに当該部門を設置することにより、今まで積み重ねてきた大学の看護教育の実績を生かし、地域への質の高い看護の提供に資するものである。また、卒業生・修了生へのキャリア形成支援については、教育・研究機能を併せ持つことで、本学が卒業生・修了生の基地となり生涯にわたる人材育成と、それによる地域貢献に資するものである。

各部門とも、本学教員のほかに駒ヶ根市などの地方自治体やその関連団体などと連携し、取り組んでいる。

長野県看護大学看護実践国際研究センター組織図　（平成25年４月１日現在）



（1）地域貢献部門活動報告書

1　所掌事項

・長野県を中心とした地域住民への、ケアの質ならびにウェルネス（ 最適な生活状態 ）の向上につながる、実践的な活動および研究を実施し、県民の疾病予防や健康増進等に寄与する。

2　活動と成果

1）活動

・部門全体としての会議をプロジェクト長間で協議するほか、下記の5プロジェクトごとに活動を実施した。

・遠隔看護開発基盤研究プロジェクト
・高齢者水中運動講座プロジェクト
・終末期看護研究プロジェクト
・看護職者の教育・支援プロジェクト
・在宅療養者と家族のための移行期看護プロジェクト

2）成果

・運動講座等のクラスの開催（83回、延べ参加人数総数2140名）
・地域住民への体力測定会の実施（1回、総数139名）
・地域に対する研修会の実施（部門合計3回）
・学術論文の発表（部門合計2回）
・学会等への発表（部門合計6回）
・部門報告書の作成

3　今後の課題

1）喫緊の課題（懸案事項）

・各プロジェクトの活動の質や量は、一定の高い水準を維持している。ただし、いくつかのプロジェクトには、運営に必要な予算や人的資源の不足がある。この為の「人員の確保」や「より合理的な運営」の再検討ならびに再構築が必要である。

（2）将来的な課題

・地域に根付いた活動として、どのようなプロジェクトを推進または立案していくべきなのかを大学全体として再考・再構築していく必要がある。

（2）異文化看護国際研究部門

1　所掌事項

1）実践活動: JICA駒ケ根青年海外協力隊訓練所等その他の学外機関と連携して、異文化に着眼した看護活動を発展させる。
2）研究活動: 看護における異文化間の多様性を明らかにするとともに、看護の本質としての文化を超えた普遍性を共有するための研究を行って、世界に発信し、看護の学問体系の発展に寄与する。
3）関係維持: 交流を通じて海外の教育・研究機関や研究者との協力関係を築き、深める。
4）人材育成： 交流を通じて、教員・学生が研究者・実践者としての素養を身につけ、向上するための機会やつながりを提供する。

2　活動と成果

1) サモア国立大学（NUS）との交流

① 学生の交流

学部教育の一環としての「国際看護実習」が行われている。今年度は NUS から派遣された 2 名の学生が 7 月 27 日(土)から 8 月 11 日（日）まで滞日し、本学 3 名（4 年生 2 名、編入 2 年生 1 名）とともに、老人複合施設での臨地実習、オープンキャンパス参加、JICA 駒ヶ根訪問・南大洋州派遣ボランティアとの交流、被災地での災害看護演習、本学学生・既卒履修生との交流・職場訪問等を行った。NUS 学生自治会負担の航空券購入代金の支払いが間に合わず、未来基金で一時立て替え、来日時に US$で支払いを受けた。

② 創立 20 周年記念公開セミナーへの招へい準備

創立 20 周年記念事業として来年度 6 月に実施する公開セミナーの講演者として Eseta Hope 応用科学部長を招へいするための準備と打ち合わせを行っている。

2) UCSF および USF との交流

① 学生・教員の研修

大学院生 1 名が参加する予定であったが、家族の病気のため取りやめた。教員 5 名（白鳥、渡辺、上條、橋本、田島、近藤）が 2014 年 2 月 26 日（水）から 3 月 5 日（水）にかけて渡航し、サンフランシスコ大学（USF）看護学部およびカリフォルニア大学サンフランシスコ校（UCSF）を訪問した。現地での実質的な交流活動を 2 月 27 日から 3 月 4 日まで行い、両校で講義の聴講、演習や臨地実習への参加、教育方法に関する意見交換などを行った。

② 創立 20 周年記念公開セミナーへの招へい準備

2014 年 6 月に USF の交流担当者である Patricia Lynch 教授夫妻を Anne Davis 名誉教授とともに招いて、公開シンポジウムおよび教員・大学院生との交流を行う予定で準備中である。

3) 国際看護実習の効果の検討

昨年度から懸案となっていたもので、国際看護実習を経験した学生を現地に訪ねて観察やインタビューを行う予定だったが、本学の教員組織に欠員があり、派遣する余裕がなかったこと等の事情により、実現しなかった。条件が整ってから平成 27 年度以降の実施を検討する。

4) 外国籍県民の支援

不況が続いたため、外国籍の人口は減少したが、永住資格取得者が増えて定住化傾向が出て来ており、「多文化共生」が現実の課題となっている。

① 日伯学園の支援

WHO の健康増進活動拠点となっている上伊那生協病院と協力して、性教育の支援を行った。教員 2 名（宮越・今井）と学部学生 4 名が参加した。参加者は、日本人を対象とした性教育ではあり得ないような経験ができた。

② 健診事業

長野中央病院で 12 月 8 日（日）に開催された北信外国人医療ネットワーク主催の在日外国人健診事業に教員 1 名（宮越）と学生 3 名が参加した。来診した外国人はアジア・中南米等からの 28 名で、約半数に健康上の問題が見られ、医療機関の治療や支援につなぐことができた。

3　今後の課題

（1）喫緊の課題（懸案事項）

1)　創立20周年記念公開セミナーを、USFやNUSとの友好の強化とともに、本学教員のFDや大学院生の教育に活かせるように準備を行う必要がある。

2)　NUS との交流に利用していた、サモアに営業所を持つ旅行社の Pacific International 社がなくなったため、NUSからの学生派遣の費用の支払いを直接行うことが難しくなった。代替方法を至急検討する必要がある。

3)　肥満予防に関するNUSとの共同研究を再開する必要がある。

（2）将来的な課題

1)　国際看護実習の効果の検討が懸案となっており、条件が整い次第、できるものから実施し、エビデンスに基づいて必要な改善を行う必要がある。

2)　日本人とともに暮らす定住外国人の増加に対応した支援の実践と研究をより充実させる必要がある・

（3）看護実践改革・学外機関交流推進研究部門

1　所掌事項

本部門は、本学の「知の活用」を図って、以下の①②の目的に基づく学外機関との交流を推進するための窓口として活動している。

①　病院、診療所や自治体等の看護現場との共同研究を実施することにより看護実践改革を推進すること。

②　企業、自治体、研究機関等との共同研究・受託研究等を実施することにより地域社会に貢献すること。

2　活動と成果

（1）共同研究・受託研究の窓口としての活動とその後の研究の発展

2012年度新規の産学官連携事業として基礎医学・疾病学分野の喬炎教授らが開発した「顕微鏡ーデジタルカメラ三位一体観察システム」を小中高等学校教員に試用して、より汎用性の高いシステムへと改良を重ねてきた。今後3年間、さらなるシステムの改善を目指して、長野県総合教育センターならびに大島山機器とともに共同研究「簡易な接続ツールの開発による光学顕微鏡のリアルな観察システムの確立」を行うことになった。

また、「遠隔看護システム機器の開発」事業や「おむつセンサーの開発」事業も引き続き行われている。

（2）「スマート介護・福祉研究会」での講演会と情報交換

今年度も引き続き「スマート介護・福祉研究会」の活動に参加している。4回の定例会において、福祉機器やリハビリテーション装置の開発に関して大学教員・医師から、また開発された機器に関して参加企業の責任者から講演会が開催され、意見交換を行った。

うち、第2回の定例会は8月29日（木）に本学において開催され、国立障害者リハビリテーションセンター研究所の井上剛氏より認知症者の生活支援機器について、本学の地域・在宅看護学分野の柄澤邦江講師と同大学院生の川手弓枝氏より地域・在宅看護の現状について、株式会社ヤマウラの赤羽一成氏より施行した高齢者住宅や介護施設についての4講演が行われ、大盛況のうちに幕を閉じた。

（3）長野県における産学官連携団体への参加と産学官連携に関連する情報の提供

本年度も引き続き、「信州産学官連携機構」ならびに「信州メディカル産業振興会」に参加している。また、今年度は新規に「浅間リサーチエクステンションセンター（AREC)」に賛助会員として参加することになった。これらの団体などからの 講座・セミナー・フォーラム開催案内などの情報提供を教職員に行った。

3　今後の課題

現在、本部門では主に産学連携事業が中心となっている。他大学では自治体と協定を結んで大規模な学官連携の事業も行われており、本部門の役割も新たな段階に入ろうとしている。看護学の先進的研究・教育機関である唯一の県立大学として、地域とともに更なる発展を目指して活動全体を見直していくことが必要である。

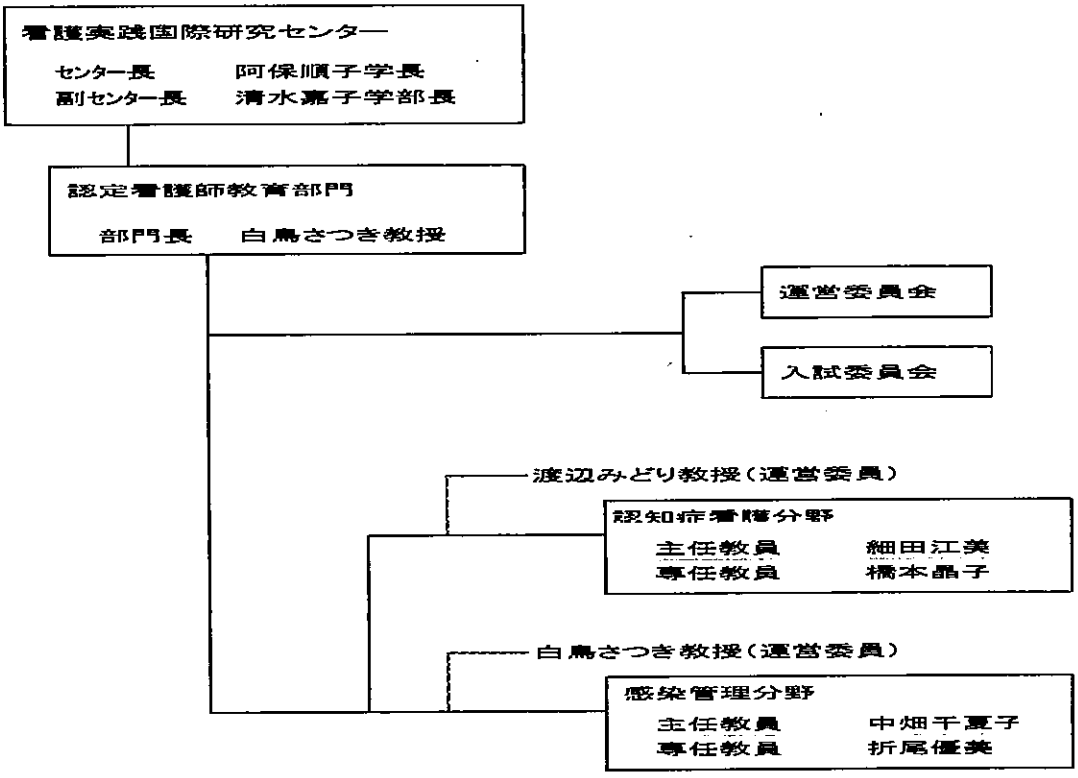
（4）認定看護師教育部門

1　所掌事項

1）認定看護師教育課程における運営に関する検討と決定(運営委員会)
2）募集、入試に関する検討と決定(入試委員会)
3）カリキュラムおよび実習の内容に関する検討と決定(教員会議及び運営委員会)
4）非常勤講師の選定と決定(教員会議及び運営委員会)
5）実習病院の選定と決定(教員会議及び運営委員会)
6）受講生の生活に関すること(教員会議)
7）閉校、開講に関する検討と決定(教員会議及び運営委員会)
8）運営会議下部組織　教員会議の運営

2　活動と成果

1．組織



2．運営委員会名簿と会議の概要

1）運営委員会名簿

氏 名	所 属 等	
阿保 順子	学 長 （看護実践国際研究センター長）	委員長
清水 嘉子	学部長 （看護実践国際研究副センター長）	委 員
白鳥 さつき	基礎看護学講座 教授 （看護実践国際研究センター認定看護師教育部門長）	
渡辺 みどり	広域看護学講座 教授（本学教員の中から学長が委嘱する委員） 24．5より	
細田 江美	認定看護師教育部門 主任教員（認知症看護分野）	
橋本晶子	認定看護師教育部門 専任教員（認知症看護分野）	
中畑千夏子	認定看護師教育部門 主任教員（感染管理分野）	
折尾 優美	認定看護師教育部門 専任教員（感染管理分野）（名古屋第二赤十字病院）	
小山 久子	長野県看護協会 常務理事 （本学の教員以外で学長が委嘱する委員）	
加藤 祐美子	信州大学医学部付属病院 副看護部長 （本学の教員以外で学長が委嘱する委員）	
岡田 幸子	長野赤十字病院 認知症看護認定看護師 （本学の教員以外で学長が委嘱する委員） 25．1より	
小林 資典	看護大学 事務局長	事務局
上田 穂積	看護大学事務局 次長兼総務課長	
宮下 浩秋	看護大学事務局 教務・学生課長	
斉藤 秀樹	看護大学事務局 教務・学生課 課長補佐	
澤田 淳子	看護大学事務局 認定看護師教育課程担当	

2）会議開催日と協議事項の概要

回	月日	時間	協議事項概要
1	4月10日（火）	15：00～16：00	①認定看護師教育部門の組織図 ②入試結果の開示について ③非常勤講師について ⑤受講生について 感染管理19名、認知症看護19名 ⑥開校式について
2	5月14日（火）	15：00～15：40	4 協議・報告事項 (1) 時間割について、修了式は26年1月30日を予定 (2) 平成25年度開講式実施計画について：来賓は5名と報告があった (3) 平成25年度非常勤講師（追加）について (4) 平成24年度決算状況等について：平成24年度は約200万円の赤字 (5) 送迎バスについて：25年度も2,000円の個人負担で送迎バスを運行する
3	6月11日（火）	15：00～15：40	協議・報告事項 (1) 平成25年度時間割及びシラバスについて：講義内容の連携を図ることが課題となった (2) 平成26年度受講生募集、試験日程：説明会の日程及び合格発表（二次）の日程の変更 (3) 平成25年度受講生の状況について (4) その他：感染管理分野の実習病院で、木曽病院から安曇野赤十字病院に変更

4	7月23日 (火)	15：00 ～ 15：50	協議・報告事項 (1) 平成26年度受講生募集説明会⇒9月11日に開催 (2) 平成26年度受講生募集、試験日程（案）について (3) 平成25年度受講生の現状について (4) 平成25年度実習要項について：9月に計画立案、12月実習報告会、実習病院の配置は後日 (5) 認定看護師教育機関合同会議について：第21回認定審査の結果：皮膚・排泄ケア⇒100.0%、 感染管理⇒90.5% 認知症看護について⇒2年目の審査を受ける準備の依頼があった.
5	10月9日 (火)	15：00 ～ 16：00	協議・報告事項 (1) 平成26年度受講生募集説明会の参加者について (2) 実習の可否に関わる成績認定について （感染管理分野）⇒1名成績が悪い （認知症看護分野）⇒総じて成績はよい (3) 受講生の現状について⇒問題行動のある受講生の報告（ストーカー行為）
6	11月21日 (木)	15：30 ～ 16：30	＊岡田委員への人事通知書の交付 ＊清水入試委員長から受講審査（選考試験）の合格者報告. 協議・報告事項 (1) 平成25年度認定看護師教育課程修了式実施計画（案）について 修了生は、感染管理分野18名、認知症看護分野19名の計37名 (2) 認定看護師教育課程の受講志願者が減っている状況について (3) 受講生の現状について:感染管理⇒1名試験が不合格となり、実習へは進めなかった
7	12月10日 (火)	15：30 ～ 16：50	協議・報告事項 (1) 実習の合否について：現行の5段階評価を4段階評価とし、合否を明確化する (2) 実習報告会について (3) 二次募集の周知状況について：パンフレットを送付する九州・四国の病院は、数を絞り、300床未満の病院で500箇所程度とする. (4) 受講生の状況について
8	平成26年 1月22日 (水)	14：00 ～ 14：45	協議・報告事項 (1) 修了試験結果について (2) 認定看護師教育課程修了式について (3) 平成25年度修了生のフォローアップ研修について (4) 二次試験（2月21日）の実施組織について (5) その他 ア　二次募集の状況について、イ　平成26年度感染管理分野の専任教員について、ウ　認定看護師教育課程のニーズ：　感染管理分野のニーズが減少.（2年前のニーズ調査では）認知症看護分野の次に摂食・嚥下障害看護分野であった⇒教員を探す必要がある.
9	平成26年 2月21日 (金)	14：10 ～ 15：00	協議・報告事項 (1) 二次募集試験結果について 感染管理分野：7名全員合格、認知症看護分野：6名全員合格 (2) 受講、修了状況について (3) 平成26年度部門運営委員会及び入試委員会について (4) 平成26年度受講生への案内送付について (5) 認定看護師教育課程の継続について⇒平成27年度は感染管理分野、認知看護分野とする

3．　入試委員会会議の概要

1）入試委員会名簿

氏　名	所　属　等	
清水　嘉子	学部長　（看護実践国際研究副センター長）	委員長
白鳥　さつき	基礎看護学講座　教授　（看護実践国際研究センター認定看護師教育部門長）	委　員
渡辺　みどり	広域看護学講座　教授（本学教員の中から学長が委嘱する委員）　24．5より	
細田　江美	認定看護師教育部門　主任教員（認知症看護分野）	
橋本晶子	認定看護師教育部門　専任教員（認知症看護分野）	
中畑千夏子	認定看護師教育部門　主任教員（感染管理分野）	
折尾　優美	認定看護師教育部門　専任教員（感染管理分野）（名古屋第二赤十字病院）	
細田　江美	認定看護師教育部門　主任教員予定者（認知症看護分野）　24．6より	
小山　久子	長野県看護協会　常務理事　（本学の教員以外で学長が委嘱する委員）	
加藤　祐美子	信州大学医学部付属病院　副看護部長　（本学の教員以外で学長が委嘱する委員）	
岡田　幸子	長野赤十字病院　認知症看護認定看護師　（本学の教員以外で学長が委嘱する委員）　25．1より	
小林　資典	看護大学　事務局長	事務局
日向　一夫	看護大学事務局　次長兼総務課長	
宮下　浩秋	看護大学事務局　教務・学生課長	
斉藤　秀樹	看護大学事務局　教務・学生課　課長補佐	
澤田　淳子	看護大学事務局　認定看護師教育課程担当	

2）入試委員会開催日と協議事項概要

1	10月9日 (火)	16:00～ 16:15	協議・報告事項 (1) 平成26年度認定看護師教育課程受講試験日程及び実施組織表について 11月21日に実施する受講試験の日程等について説明。
2	11月21日 (火)	15:00～ 15:30	協議・報告事項 (1) 平成26年度受講審査(選抜試験)の結果について 感染管理分野:受験生11名。平均点65.6点。面接試験は全員がA, Aの判定。 認知症看護分野:受験生10名。平均点61.8点。面接試験はC, C判定が1名。 協議の結果、合格者は感染管理分野:10名、認知症看護分野:面接試験でC, C判定となった者を除く9名合格。 (2) 平成26年度受講生の二次募集について 募集人員　両分野とも10人程度:試験日　平成26年2月21日(金)
3	2月21日 (金)	14:00～ 14:10	協議・報告事項 (1) 平成26年度二次募集受講審査(選抜試験)の結果について 感染管理分野:受験生7名。平均点58.5点。面接試験は全員がA, Aの判定。 認知症看護分野:受験生6名。平均点66.1点。面接試験は全員がA, Aの判定。

4．　実習病院一覧

1）認知症看護分野の実習病院は以下のとおりである

病院名	住所
長野赤十字病院	長野県長野市若里5丁目22番1
JA長野厚生連北信総合病院	長野県中野市西1-5-63
薫風会山田病院	東京都西東京市南町3丁目4番10号
東京都健康長寿医療センター	東京都板橋区栄町35番2号
京都南病院	京都市下京区西七条南中野町8番地
社会福祉法人青祥会	滋賀県長浜市加田町3360
上飯田第一病院	名古屋市北区上飯田北町2丁目70番地
岐阜市民病院	岐阜県鹿島町7丁目1番地
岐阜病院	岐阜県岐阜市日野東3丁目13番地6号

2）感染管理分野の実習病院は以下のとおりである

病院名	住所
信州大学医学部附属病院	松本市旭３－３－１
長野県立病院機構 長野県立須坂病院	須坂市大字須坂１３３２
安曇野赤十字病院	長野県安曇野市豊科5685
飯田市立病院	飯田市八幡町４３８
諏訪赤十字病院	諏訪市湖岸通り５－１１－５０
社会医療法人栗山会 飯田病院	飯田市大通1丁目15番地
伊那中央病院	伊那市小四郎久保１３１３－１
昭和伊南総合病院	駒ヶ根市赤穂3230

3　受講生の状況

1．第2期生(平成24年度受講生)認定資格審査合格者

第2期生は皮膚・排泄ケア分野10名、感染管理分野20名が全課程を修了した。平成25年5月に実施された第21回認定看護師認定審査で排泄ケア分野10名、感染管理分野19名、計29名（前年度受講生を1名含め）が合格した。日本看護協会による全国の施設ごとに示された平均得点結果では、本学の感染管理分野が1位、皮膚・排せつケア分野は2位という好成績を修めた。これは、受講生の努力と教員による修了後のフォローアップ研修の効果によるものと考えられる。

2．フォローアップ研修

修了生は2月からは勤務先で通常の業務につき、仕事の傍ら試験勉強に励むことになるが、単独の勉強では限界があるため、修了生向けに定期的にフォローアップ研修や模擬試験等を実施した。フォローアップ研修は終了後、資格審査を受ける5月まで2~3回程度行う。

3．受講生の状況

感染管理分野で1名、退学者があった。これは、レポート、試験結果、実習評価とも成績が「可」に届かず、所属施設の看護部長と相談の上、本人と話し合った結果である。また、受講生同士のトラブル（ストーカー行為）があり、健康センターに関わっていただくことが多かった。

4．その他

平成24年度と同様、多忙を極める非常勤講師の講義は松本市にある長野県看護協会会館で行われた。駒ケ根から松本までの移動には昨年度に倣って貸切バスを用意したが、今年度からその費用の一部を受講生が負担せざるを得ず、経済的に厳しい状況を訴える受講生も少なくなかった。この点については今後の課題となった。

平成25年度開講された認知症看護分野は、適切な実習施設が県内には少なく、東海地方に集中したため、教員や受講生の負担が大きかったと考える。

5．今後の課題

・受講生に合わせた実習病院の選定（県外の病院への交通費など）
・松本会場の利用に関する検討（バスの移動に疲れる、時間がかかるなど、使用料の問題）
・成績の下位の受講生へのフォローアップ
・修了式後から資格審査試験までのフォローアップ体制
・全国の認定看護師養成課程の開校分野と応募者数推移の関連についての分析が必要
・長野県内の受講生が減少傾向にあることから、継続的なニーズ調査によって、長野県に貢献できる分野を検討する必要がある。

（5）卒業生・修了生キャリア形成支援部門

1　所掌事項

①教育・研修機会の提供及び研究活動に係る支援
②進学、転職等に係る相談及び情報の提供
③大学ホームページ等を活用した情報交換の場の提供
④その他、卒業生・修了生のキャリア形成支援に関する調査・研究

2　活動と成果

（1）活動

【活動目標】

看護実践の基盤となる看護学は、看護実践体験を通して研鑽をかさね、生涯にわたって専門性を探究する学問である。本学で看護学を修めた卒業生・修了生が、その後も実践をとおして大学との交流を継続できるよう、「魅力的な基地」づくりを目指す。

さらに、卒業生・修了生の新任期における職場定着や看護職としてのキャリア形成支援に取り組み、大学としての地域貢献の役割を果たしていく。

【部門会議】

平成24年度は、設立初年度であったことから、全9回の部門会議を開催した。

平成25年度は、委員会組織の若干の変更と就職支援員、学生支援員の交代があり、部門員2名を除いて新たなメンバー構成でスタートすることとなった。しかし、設立2年目平成24年度からの継続事項もあったために、千葉准教授には、特別部門員としての参加をお願いした。

第1回　平成25年6月10日	・平成25年度の活動計画 ・平成24年度卒業生集まれ！企画の検討
第2回　平成25年7月26日	・平成24年度卒業生集まれ！企画について ・県内病院、自治体調査の結果について
第3回　平成25年9月21日	・平成24年度卒業生集まれ！企画の振り返り （同窓会からの部門員：北澤卓也さん、吉澤歩さんも参加）
第4回　平成26年2月20日	・平成25年度卒業生集まれ！企画について ・県内病院、自治体調査の結果の検討
第5回　平成26年3月13日	・次期の部門体制と引き継ぎ

（2）成果

＜卒業生支援＞

卒後一年目の支援として「平成24年度卒業生あつまれ！」企画を、平成25年9月21日（土）に開催した。今年度は、部門員に加えて、学内の先生方にも参加のお願いをした。

卒業生48名（55.8%）の参加が得られ、昨年よりも参加者は増加した。アンケートは33名から回答が得られ、開催時期、案内、企画内容については全員が「よかった」と回答していた。自由記述の感想には、「みんなと話せてよかった」「先生と話ができてよかった」などが多数書かれていた。部門では、このように近況を共有し気持ちを素直に表現できる“場”をつくることの大切さを確認した。

＜調査研究＞

1）目的：長野県内の医療機関、行政機関における本学卒業生の就職状況を把握するとともに、看護管理者の看護職採用についての考えと学士課程卒業者への期待を把握して、本学の学部生に対するキャリア形成支援ならびに卒業後の支援等を検討する資料とする。

2）対象：長野県内の医療機関47施設および77市町村、長野県

3）調査内容：・施設の概要、在職看護職者数、看護職員の教育課程の状況、本学の卒業生（平成24年4月採用者（常勤））の人数　等

・看護職員の採用にあたり重視していること（19項目）

・学士課程看護師（保健師）に期待する資質や能力（12項目）

・本学のキャリア形成支援等に対する意見（自由記述）

4）結果：25の医療機関（回収率53.2%）、40の市町村（同51.9%）から回答を得た。（下、医療機関を病院と表記し、市町村には県の回答を含めて41自治体とする。）

①本学卒業生の在職状況

回答結果から把握できた本学卒業生の在職状況は、21病院243人、最多は信州大学医学部付属病院で53人であった。市町村等の自治体の回答では、20自治体より本学卒業生が在職していると回答があり、総数は45人であった。

②採用時に重視していること

「重視する」「まあまあ重視する」を合わせた回答割合について説明する。「向上心があり意欲的である」「誠実で責任感がある」「情緒が安定している」「健康状態が良好である」は、病院、自治体のいずれにおいて100%に近かった。一方で、「学業成績が優良である」「説得力がある」は重視する割合が50%前後で、他の項目に比して重視するという割合が低かった。

③学士課程卒業者に期待すること

病院は、12項目すべてについて「期待する」「ある程度期待する」の回答が80%以上であった。一方で、自治体の回答は、看護実践の振り返りや研究活動への期待が低かった。本調査で得られた内容は、キャリアガイダンスだけでなく、本学の教育活動にも活かせるようにしていきたいと考えている。

3　今後の課題

（1）喫緊の課題（懸案事項）

・卒業1年目の交流企画を継続して行う。また、引き続き学内教員の参加を募る。

・卒業後にサポートの必要な卒業生に対する継続的な関わりの方法を探る。

（2）将来的な課題

・同窓会と協力して、卒業生の動向を把握し、大学と卒業生の繋がりを深めていく。

第５節　健康センターの活動

1　概要

近年、精神的な問題や不調を抱える人々は増加傾向にあり、職場におけるメンタルヘルスの維持・増進は喫緊の課題となっている。

本学においても治療や長期休養の学生・教員等が増えている現状を踏まえ、比較的早期の段階から専門的に関与していく機関として、2010 年 11 月に「健康センター」を設置した。学生や教員を対象とした相談業務の本格的な運用は、2011 年 4 月から実施している。

健康センターでは、精神的な問題や不調を抱えている人に対して、治療の必要性の有無を判断し医療につなげること、また現在、治療を受けている学生や教員の場合は、症状の重症化、長期化を防ぎ、早期回復に向けた支援を行うことを目的に、次に掲げる業務を実施している。

(1) 学生・教職員からの相談・指導
(2) 学年顧問など他の相談窓口からの相談への対応
(3) 休学・休職中の人への復学・復職に向けた支援
(4) 学内外における心の健康づくりに関すること

2　実績

・学生および教員からの相談に対しては「積極的傾聴」をこころがけ対応している。
・相談内容によっては、定期的な面接を行い、年単位でフォローアップしている。
・特に困難事例においては、複数で構成された健康センター運営会議で協議し、対応方針を決定している。
・相談内容によっては、医療機関への橋渡し的な役割を担う。精神疾患を持つ学生等に対しては、定期的に受診状況を把握し、必要があれば主治医と連絡調整を行っている。
・相談内容によっては、学年顧問（学年担任）や授業担当教員、教務・学生課（保健室含む）と情報交換をし、精神症状を考慮した履修相談にものっている。
・相談時には必ず同意書に記入してもらい、プライバシーの保護に留意している。
・年に一度、学内の心の健康づくりに関連する研修会を企画・運営している。
・心身の不調を呈する教職員に対しても、定期的な面談を通して支援を行っている。

○健康センター利用状況（2013 年 4 月～2014 年 3 月）

相談内容は複数

年	2013									2014		
月 / 区分	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
＜相談総数（延べ）＞	10	7	13	19	10	18	23	13	21	5	11	4
内　学生	3	6	5	8	2	9	18	7	15	3	8	4
内　教員	7	1	7	10	7	7	5	5	6	2	3	0
内　学外			1	1	1	2		1				
＜相談内容＞												
病状確認および療養指導	1	1	5	4	4	4	11	5	10	0	2	0
対人関係の悩み	5	3	3	6	6	2	8	6	3	0	1	0
家庭環境の悩み	1	1	1	1	0	0	0	0	2	0	1	0
履修についての悩み	2	4	2	4	1	4	5	6	3	1	1	0
復職支援	1	1	4	3	2	7	0	0	0	0	0	0
その他	1	1	3	5	2	4	7	4	7	4	6	4

3　課題及び方策

学生対応において、家族を含めた対応を要する事例には学生の自律性を損なわないように配慮しているが、家族との関係性に問題がある場合など、その関わりのバランスが難しい。基本的に生命の危機が予見される場合等は同意書に記載されている連絡先に報告しているものの、そのサポート体制が脆弱なこともあり、今後に課題を残す。

第３章　教員の研修・研究、社会活動

第１節　研修

（１）国内研修

平成 25 年度に本学教員が国内で受けた研修は、延べ 37 件であった（表 1-1）。

（表 1-1）　本学教員が受けた国内研修（五十音順）

氏名	開催年月	研修会名	開催場所
東　修	平成 25 年 7 月	TRUE　COLORS　JAPANファシリテータ養成講座	東京都
	平成 26 年 1 月	グループ・ファシリテーション実践コース	東京都
	平成 26 年 3 月	TRUE　COLORS　JAPAN入門講座	東京都
柄澤邦江	平成 25 年 7 月	在宅ケア懇談会	東京都
	平成 25 年 12 月	平成 25 年度文部科学省先導的大学改革推進委託事業 医学・看護学・歯学チーム合同シンポジウム	東京都
坂田憲昭	平成 25 年 8 月	財団法人 21 世紀職業財団「キャンパスにおけるハラスメント防止セミナー」	東京都
曽根千賀子	平成 25 年 6 月	量的研究方法：高度看護実践のエビデンスを問う臨床研究	東京都
	平成 26 年 1 月	質的研究：Research Question に適合する研究方法を見極める	東京都
高橋百合子	平成 25 年 8 月	第 10 回小児がん看護研修会 小児がん患者の症状マネジメント～疼痛コントロール～	東京都
長南幸恵	平成 25 年 4 月	発達障害の有る人の就労	長野市
	平成 25 年 6 月	JDD ネットワークながの設立記念講演会 「発達障害の診断と治療最前線」	松本市
	平成 25 年 6 月	発達障害児のための高校進学座談会	松本市
	平成 25 年 8 月	長野県作業療法士会市民講座　しょうがいの理解と支援 「子供の発達特性と感覚統合」	宮田村
	平成 25 年 11 月	特別支援教育公開研修会 「共に学ぶ身近な発達障害サポート」	松本市
松澤有夏	平成 25 年 7 月	信州大学老年看護学研究会	松本市
	平成 25 年 8 月	キャンパスにおけるハラスメント防止セミナー	東京都
	平成 25 年 8 月	日本老年看護学会　生涯学習支援研修　実践編 「回復過程に応じた高齢者看護の実践（急性期）」	京都市
	平成 25 年 9 月	日本老年看護学会　生涯学習支援研修　基礎編 「高齢者のリハ看護」と「高齢者の体の痛み」	越谷市
	平成 25 年 10 月	日本看護科学学会　セミナー 「英文原稿の作成に有効なツール」と「査読者の視点を踏まえた原稿の書き方」	東京都

松本淳子	平成 25 年 8 月	日本教育心理学会第 55 回総会研究委員会企画チュートリアルセミナー1「メタ分析-心理・教育研究の系統的レビューのために-」	東京都
	平成 25 年 8 月	日本教育心理学会第 55 回総会研究委員会企画チュートリアルセミナー2「人権教育に関わるアサーション・トレーニング-『自他相互尊重』を具現化するコツ-」	東京都
	平成 25 年 8 月	日本教育心理学会第 55 回総会準備委員会企画チュートリアルセミナー1「教育心理学の魅力を引き出す授業実践-わかりやすさを追究したコンテンツとスキル-」	東京都
	平成 25 年 9 月	日本心理学会第 77 回大会チュートリアルワークショップ「今日からはじめる Mplus と R による構造方程式モデリング」	札幌市
	平成 25 年 9 月	日本心理学会第 77 回大会チュートリアルワークショップ「パワーポイントに別れを告げよう-非線形プレゼンテーションによる研究成果の発表-」	札幌市
	平成 25 年 9 月	日本心理学会第 77 回大会チュートリアルチュートリアルワークショップ「日本版 WISC-4 知能検査の特徴と活用」	札幌市
	平成 25 年 11 月	日本音楽知覚認知学会平成 25 年度秋季研究発表会チュートリアル「音楽知覚認知研究における STRAIGHT の可能性と活用法」	千葉市
	平成 25 年 12 月	平成 25 年度関西高齢者行動研究会「若年認知症を地域で支える-専門職の連携-」	大阪市
	平成 26 年 2 月	日本発達障害支援ネットワーク（JDDNET）発達障害支援人材育成研修会	大阪市
	平成 26 年 2 月	日本臨床心理士会平成 25 年度定例研修会 2（大阪）第 6 回発達障害の理解と支援に関する総合研修会後期（2）	大阪市
御子柴裕子	平成 25 年 10 月	JJNS セミナー2013 “Improving Your Success at Publishing in English”	東京都
宮越幸代	平成 25 年 6 月・11 月 平成 26 年 2 月	JICA 国際協力機構；国際緊急援助隊医療チーム「中級研修」全 3 回（国際看護・チームビルディング・課題検討会）	神戸市
	平成 25 年 8 月・10 月	長野県看護協会災害看護支援ナース養成研修　全 3 回	松本市
安田貴恵子	平成 25 年 6 月	大学間連携による地域看護学教育 FD 会議	東京都
	平成 25 年 12 月	グループファシリテーション研修（実践コース）	東京都

（2）国外研修

平成 25 年度に本学教員が国外で受けた研修は、２件であった（表 1-2）。

（表 1-2）　本学教員が受けた国外研修

氏名	開催年月	研修会名	開催場所
有賀　智也	平成 26 年 3 月	北欧高齢者福祉施設と在宅看護視察研修	スウェーデン
松澤有夏	平成 26 年 3 月	北欧高齢者福祉施設と在宅看護視察研修	スウェーデン

第２節　研究活動

（１）助成金による研究活動

① 文部科学省（日本学術振興会科学研究費補助金）による研究

平成25年度に科学研究費助成事業の助成を受けて行った本学の研究は25件であった。継続研究は19件（転出１件除く）、新規の研究は６件（転出１件除く）であった。（表２・３）

（表２）平成25年度科学研究費助成事業の採択等の状況

	新　規・継　続			新　　規			補助金額（千円）
	応募件数	採択件数	採択率	応募件数	採択件数	採択率	
本学応募採択分①	４０	２７	67.5%	２０	7	35.0%	26,900
転出分②		2			1		2,500
転入分③		0			0		0
本学執行分①－②＋③		２５			6		24,400

（表３）平成25年度に科学研究費助成事業の助成を受けて行った本学の研究

研究種目	研究代表者	研究期間	研究課題名
基盤研究(A)	北山秋雄	平成24～27年度	里山における災害被災者支援のための遠隔ケアシステム構築に関する研究
基盤研究(B)	大石ふみ子	平成23～27年度	頭頸部がんへの放射線治療による晩期開口障害を改善する看護介入プログラムの開発
	渡辺みどり	平成24～27年度	長寿社会における地域参画型認知症トータルケアプログラムの開発と評価
基盤研究(C)	屋良朝彦	平成23～25年度	不確実性に対する合意形成に関する応用倫理学的考察
	白鳥さつき	平成23～25年度	病院における職業性曝露防護策と危険回避行動を促す看護職者教育プログラムの開発
	太田克矢	平成23～25年度	輸液ラインに発生する気泡の抑制方法開発と看護業務軽減への効果
	清水嘉子	平成23～27年度	母親の健康チェックシートの開発と評価ー育児相談への活用と縦断調査の試みー
	岡田　実	平成23～25年度	精神科における患者ー看護師間の対立状況を解決するコミュニケーションスキルの開発
	那須　裕	平成24～26年度	中山間地域高齢者へのヘルスプロモーション活動としての水中運動の有効性に関する研究
	竹内幸江	平成25～27年度	きょうだいを亡くした子どもへのグリーフケアの早期介入プログラムに関する研究
	有賀美恵子	平成25～27年度	精神疾患が疑われる高校生に対処する養護教諭への支援ー早期介入と医療との連携ー
	柄澤邦江	平成25～27年度	シームレスな緩和ケアを提供するための地域緩和ケア体制の構築に関する研究

研究種目	研究代表者	研究期間	研究課題名
挑戦的萌芽研究	細田江美	平成 23～25 年度	認知症グループホームにおける"なじみの場づくり"を促進するケア指針の開発
	塩澤綾乃	平成 24～25 年度	入院中の乳児に付き添う母親の母乳育児の実態と母乳分泌維持促進のセルフケア行動
	多賀谷昭	平成 24～25 年度	健康資源としてのSatoyamaの測定尺度の開発
	長南幸恵	平成 25～27 年度	自閉症スペクトラム児の「感覚の過敏症」に起因した問題行動の改善に向けた基礎的研究
若手研究(B)	高橋百合子	平成 23～25 年度	慢性疾患をもつ子どもの家族と関わる外来看護師の教育支援ニーズに関する研究
	田中真木	平成 23～26 年度	倫理問題への対処行動からみた看護学生のケアリング倫理観に関する研究
	伊藤郁恵	平成 23～26 年度	集中ケアに携わる看護師の看護実践における臨床判断の基盤となる倫理観の形成プロセス
	曽根千賀子	平成 23～26 年度	認知症高齢者をケアする看護師の倫理的ジレンマと倫理的価値観に基づく教育プログラム
	松澤有夏	平成 23～26 年度	介護保険施設におけるせん妄発症予防に関するケアプログラムの実証的検討
	早出春美	平成 24～26 年度	抗がん剤への職業性曝露予防に関する教育介入プログラムの構築
	赤羽洋子	平成 24～28 年度	妊婦を対象としたフットケアの研究
	中畑千夏子	平成 25～27 年度	新生児に対する常在細菌の移行・定着を目的とした介護介入の確立
	高坂　梓	平成 25～27 年度	手足症候群予防におけるセルフケア促進のための看護プログラム作成に関する研究

② 長野県看護大学特別研究費による研究

平成 25 年度に長野県看護大学特別研究費で行った研究は、12 件であった。（表４）
継続研究は 5 件、新規の研究は 7 件であった。

（表４）平成 25 年度に長野県看護大学特別研究費で行った研究

研究代表者	研究期間	研究課題名
竹内幸江	平成 23～25 年度	「南信子どもの虐待防止研究会（NOPCAN)」の取り組みに関する検討
小田和美	平成 23～26 年度	一般病院において糖尿病患者とその家族を支援する看護職者のための支援システムの開発に関する研究
北山秋雄	平成 23～25 年度	遠隔ケアシステム開発に関する研究
安田貴恵子	平成 24～25 年度	保健師の実践能力を高めるための現任教育方法の検討
千葉真弓	平成 24～27 年度	介護保険施設における認知症高齢者の終末期ケアの質向上を目指した実践的看護モデルの開発
松本淳子	平成 25 年度	苦痛に対する音楽の効果

研究代表者	研究期間	研究課題名
番　炎	平成 25 年度	アトピー性皮膚炎に対する温泉の予防・治療効果の観察
坂田憲昭	平成 25～27 年度	黄色ブドウ球菌 IsaA タンパク質を標的とする機能的抗体の血中レベルと感染防御に関する役割の解析
白鳥さつき	平成 25～26 年度	看護師養成所および短期大学の教員の働く環境とキャリア開発への取り組みおよびその支援に関する調査
近藤恵子	平成 25～26 年度	長野県における皮膚・排泄ケア認定看護師の活動実態と上司から受けるサポートおよび活動継続意思との関連
阿部正子	平成 25～26 年度	助産師の卒後 1 年間における職場適応と職業的アイデンティティの形成過程
熊谷理恵	平成 25～26 年度	がん臨床試験に対する看護師の意識調査

③　県内看護職者との共同研究

平成 25 年度に県内看護職者との共同研究費で行った研究は 4 件であった。（表 5）継続研究は 1 件、新規の研究は 3 件であった。

（表 5）平成 25 年度に県内看護職者との共同研究費補助金を受けて行った研究

研究代表者	研究期間	研究課題名	担当教員（代表）
坂巻美穂子（飯田市立病院）	平成 24～25 年度	喉頭全摘出術を受けた患者の診断から入院までの体験	高坂　梓
林部麻美（長野県立こども病院）	平成 25～26 年度	こども病院外来における成人移行期支援プログラムの作成	竹内幸江
上村美智子（市立大町総合病院）	平成 25～26 年度	勤務助産師が中学生と保護者に行う健康教育プログラムの作成と評価 －子宮がん予防に関する質問紙調査を踏まえて－	阿部正子
伊藤礼子（伊那中央病院）	平成 25～26 年度	県内看護師のスピリチュアルケアスキルアップのための看護教育プログラムの作成	大石ふみ子

④　その他助成金による研究

平成 25 年度にその他の助成金を受けて行った研究はなかった。

（2）その他研究活動

助成金を受けて行った研究活動以外の本学の研究活動については、以下のとおり。

① 著書・翻訳（五十音順）

氏　名	内　　容
東修	東修（2013）：精神科医療の隔離・身体拘束＜長谷川利夫著：書評＞．中村敬，高岡健 責任編集，精神医療 第 73 号，136-139，批評社，東京．

氏　名	内　　容
井村俊義	山口昌男（1972)/井村俊義（2013)：神話システムとしての王権(翻訳)．今福龍太，山口昌男コレクション，403-446，ちくま学芸文庫，東京．
	井村俊義（2014)：「多民族」という方法―チカーノの視点から．多民族研究学会，エスニック研究のフロンティア，349-356，金星堂，東京．
内田雅代	市江和子，大見サキエ，高橋由美子，細谷京子，杉原喜代美，山口求，内田雅代他（2014)：6章ｉ学童の看護．市江和子，小児看護学，110-119，オーム社，東京都．
多賀谷昭	Seiichi Masuda, Takeshi Goto, Takuya Iwasaki, Hitoshi Kamuro, Setsuo Fursato, Jiro Ikeda, Akira Tagaya, Masayo Minami, Akira Tsuneki (2013): Tappeh Sang-e Chakhmaq: Investigation of a Neolithic Site in Northeastern Iran. Roger Matthews and Hassan Fazeli Nashli (Ed), The Neolithisation of Iran. pp. 201-240. Oxbow Books, Oxford.
千葉真弓	千葉真弓（2014)：第3章ｉ高齢者をとりまく社会ｉ高齢者の性と結婚．奥野茂代，大西和子，老年看護学 第5版，92-94，ヌーヴェルヒロカワ，東京．
	千葉真弓（2014)：第5章ｉ老年看護の実践ｉ老年症候群･寝たきり．奥野茂代，大西和子，老年看護学 第5版，281-284，ヌーヴェルヒロカワ，東京．
西垣内磨留美	(共編)松本昇，西垣内磨留美，吉田美津，横田由理，君塚淳一（2014)：エスニック研究のフロンティア．金星堂，東京．
	西垣内磨留美（2014)：日々の画彩――ゾラ・ニール・ハーストン短編作品試論．松本昇，西垣内磨留美，吉田美津，横田由理，君塚淳一編，エスニック研究のフロンティア，金星堂，東京．
藤原聡子	藤原聡子，豊島三枝子，阿部智恵子，樋口京子，(2013)：アイモジン・M・キング．城ヶ端初子，実践に生かす看護理論，213-230，サイオ出版，東京．
	藤原聡子，茅島江子（2013)：第2部生殖と女性のライフサイクル，第7部ハイリスク妊婦の看護．茅島江子，母性看護学，38-44，182-188，PILARPRESS，東京都．
三沢緑	柿田充弘，三沢緑（2013)：特別企画「行列のできるグループ相談所」を開催して－地域でのグループと集団精神療法をめぐる思い－．集団精神療法第29巻2号，217-221，日本集団精神療法学会，東京．

② 論文（五十音順）

氏　名	内　　容
東修	木元司，東修（2013)：精神科の地域支援に関わる看護師が抱く陰性感情とその処理過程．第43回日本看護学会誌，精神看護，124－127．
秋山知也	本田智子、秋山知也、中畑千夏子、楊箸隆哉（2013)：REM期とNREM期に起床を促した後のP300と単純反応時間の比較．生体応用計測，4:35-42．
	本田智子、秋山知也、中畑千夏子、清水嘉子（2014)：健常女性における起床のタイミングと起床後の身体的反応 REM期とNREM期に起床を促した場合の比較．看護科学学会，34(1),56-65．
阿部正子	塩澤綾乃，清水嘉子，佐々木美果，赤羽洋子，宮原美智留，阿部正子，藤原聡子（2014)：入院中の乳児に付き添う母親の母乳分泌に影響を与える要因の検討 健康状態，睡眠時間，ストレスの状況から．長野県母子衛生学会誌，16:13 - 21．
有賀智也	有賀智也，渡辺みどり，千葉真弓（2014)：重度なBPSDにより精神科病院に入院した認知症高齢者への看護師の対応方法．日本看護福祉学会誌，101-114．
有賀美恵子	有賀美恵子（2013)：高校生の登校回避感情とその影響要因．長野県看護大学大学院博士論文．

氏　名	内　　容
井村俊義	井村俊義（2014）：フランク・マコート『アンジェラの祈り』で描かれる移民:人種とアイデンティティに関する言説について．『東北アメリカ文学研究』（第 37 号），89-100.
	井村俊義（2014）：前近代から近代への移行期における精神の病とナラティヴ:文学と民俗学の視点から．長野県看護大学紀要，16:35-43.
	井村俊義（2014）：集団と境界線の政治学:境界線の意味を問い直すチカーノ．多民族研究,(7) 37-49.
内田雅代	丸光惠，富岡晶子，中尾秀子，小川純子，村上育穂，前田留美，竹内幸江，高橋百合子，野中淳子，吉川久美子，勝本祥子，飯島佳織，内田雅代，高橋都（2013）：小児がん長期ファローアップに関する看護の現状と看護に困難を感じた事例の実際ー外来・病棟看護管理者を対象としてー．日本小児血液・がん学会雑誌，50(2):212-219.
	富岡晶子，丸光惠，小川純子，前田留美，中尾秀子，村上育穂，竹内幸江，高橋百合子，野中淳子，吉川久美子，内田雅代（2013）：小児がん経験者の看護に関する看護師の認識と実態．日本小児血液・がん学会雑誌，50(2):212-219.
	杉本陽子，内田雅代，仁尾かおり，竹内幸江，濱田米紀，三輪富士代，高橋百合子（2013）：看護師による子どもへの「いのちの教育」ー実践例から看護師の役割を考えるー．日本小児看護学会誌，22(2):97-106.
	内田雅代（2013）：多職種協働チームにおける看護師の役割．小児看護，36:953-958.
太田克矢	細田江美、太田克矢、千葉真弓、曽根千賀子、松澤有夏、北山秋雄、那須裕、渡辺みどり（2013）：大学における高齢者水中運動講座への取り組み -13 年間の軌跡-．身体教育医学雑誌，14:27-34.
北山秋雄	細田江美，太田克矢，千葉真弓，曽根千賀子，松澤有夏，北山秋雄，那須裕，渡辺みどり（2013）：大学における高齢者水中運動講座への取り組み．身体教育医学研究，14:27-34.
	吉村隆，北山秋雄（2013）：里山の暮らしにおけるソーシャル・キャピタルの特徴ー里山に暮らす高齢者のインタビューを通してー．日本ルーラルナーシング学会，8:1-15.
酒井久美子	酒井久美子（2013）：多職種で運営する生活習慣病予防教室における保健師の援助の特徴．平成 25 年度長野県看護大学大学院看護学研究科修士論文.
塩沢綾乃	塩澤綾乃，清水嘉子，佐々木美果他 4 名（2014）:入院中の乳児に付き添う母親の母乳分泌に影響を与える要因の検討-健康状態、睡眠時間、ストレスの状況から-．長野県母子衛生学会誌，13-21.
清水嘉子	清水嘉子，松原美和，宮澤美知留他 3 名（2013）:助産実習における学生の助産技術の習得-分娩介助例数による達成状況と指導者との評価比較-長野県看護大学紀要 VOL15，1-13.
	清水嘉子（2013）：生後 3 か月の子どもをもつ母親の育児への自信ー育児幸福感、育児ストレス、蓄積的疲労、属性の検討ー．小児保健研究 VOL72 NO5，672-679 .
	清水嘉子（2013）：乳幼児を育児している「母親の心理健康チェックシート」の作成．母性衛生 VOL53 NO2.
	塩澤綾乃，清水嘉子，佐々木美果他 4 名（2014）:入院中の乳児に付き添う母親の母乳分泌に影響を与える要因の検討-健康状態、睡眠時間、ストレスの状況から-．長野県母子衛生学会誌，16:13-21.
曽根千賀子	細田江美(研究代表者)，太田克矢，千葉真弓，曽根千賀子，松澤有夏，北山秋雄，那須裕，渡辺みどり（2013）：大学における高齢者水中運動講座への取り組みー13 年間の軌跡ー．身体教育医学研究，14:27-34.
	細田江美(研究代表者)，千葉真弓，渡辺みどり，松澤有夏，曽根千賀子（2013）：グループホームにおける終末期ケアの取り組み状況と課題(第 2 報)ー医療法人・社会福祉法人・NPO 法人による比較ー．日本看護福祉学会誌，19(1):63-75.

氏　名	内　　容
髙橋百合子	丸光惠，富岡晶子，中尾秀子，小川純子，村上育穂，前田留美，竹内幸江，髙橋百合子，野中淳子，吉川久美子，勝本祥子，飯島佳織，内田雅代，高橋都（2013）：小児がん長期ファローアップに関する看護の現状と看護に困難を感じた事例の実際ー外来・病棟看護管理者を対象としてー．日本小児血液・がん学会雑誌，50(2):203-211.
	富岡晶子，丸光惠，小川純子，前田留美，中尾秀子，村上育穂，竹内幸江，髙橋百合子，野中淳子，吉川久美子，内田雅代（2013）：小児がん経験者の看護に関する看護師の認識と実態．日本小児血液・がん学会雑誌，50(2):212-219.
	杉本陽子，内田雅代，仁尾かおり，竹内幸江，濱田米紀，三輪富士代，髙橋百合子（2013）：看護師による子どもへの「いのちの教育」ー実践例から看護師の役割を考えるー．日本小児看護学会誌，22(2):97-106.
多賀谷昭	多賀谷昭　（2014）：看護研究における介入効果の検証方法．長野県看護大学紀要，16：13-24.
竹内幸江	丸光惠，富岡晶子，中尾秀子，小川純子，村上育穂，前田留美，竹内幸江，髙橋百合子，野中淳子，吉川久美子，勝本祥子，飯島佳織，内田雅代，高橋都（2013）：小児がん長期ファローアップに関する看護の現状と看護に困難を感じた事例の実際ー外来・病棟看護管理者を対象としてー．日本小児血液・がん学会雑誌，50(2):203-211.
	富岡晶子，丸光惠，小川純子，前田留美，中尾秀子，村上育穂，竹内幸江，髙橋百合子，野中淳子，吉川久美子，内田雅代（2013）：小児がん経験者の看護に関する看護師の認識と実態．日本小児血液・がん学会雑誌，50(2):212-219.
	杉本陽子，内田雅代，仁尾かおり，竹内幸江，濱田米紀，三輪富士代，髙橋百合子（2013）：看護師による子どもへの「いのちの教育」ー実践例から看護師の役割を考えるー．日本小児看護学会誌，22(2):97-106.
田嶋紀子	白鳥さつき、田嶋紀子（2013）：東日本の1都3県に所在する看護師養成所及び短期大学に勤務する教員の就業環境と特性的自己効力感に関する研究．日本看護福祉学会誌，18(2):93-106.
	田嶋紀子，舟島なをみ，中山登志子（2013）：5年一貫看護師養成教育課程に在籍する生徒の学習経験に関する研究．看護教育学研究，22(1)，41-56.
千葉真弓	細田江美，千葉真弓，渡辺みどり，松澤有夏，曽根千賀子（2013）：グループホームにおける終末期ケアの取り組み状況と課題(第2報）ー医療法人・社会福祉法人・NPO法人による比較ー．日本看護福祉学会誌，63-75.
	細田江美，太田克矢，千葉真弓，曽根千賀子，松澤有夏，北山秋雄，那須裕，渡辺みどり（2013）：大学における高齢者水中運動講座への取り組み -13年間の軌跡-．身体教育医学研究，14巻，27-34.
	有賀智也，渡辺みどり，千葉真弓（2014）：重度なBPSDにより精神科病院に入院した認知症高齢者への看護師の対応方法．日本看護福祉学会誌，101-114.
中畑千夏子	中畑千夏子，白鳥さつき，早出春美（2013）：看護職者における職業感染予防の知識および意識に関する実態調査．日本看護福祉学会誌，18(2)183-192.
藤原聡子	清水嘉子，松原美和，宮澤美知留他3名（2013）:助産実習における学生の助産技術の習得-分娩介助例数による達成状況と指導者との評価比較-長野県看護大学紀要VOL15，1-13.
	藤原聡子，月澤美代子（2014）：精神予防性無痛分娩法の導入と施設分娩における妊婦管理への影響．日本医史学雑誌60(1).2014，49－64.

氏　名	内　　容
細田江美	細田江美、太田克矢、千葉真弓、曽根千賀子、松澤有夏、北山秋雄、那須裕、渡辺みどり (2013)：大学における高齢者水中運動講座への取り組み -13 年間の軌跡-. 身体教育医学雑誌, 14:27-34.
松澤有夏	松澤有夏 (2013)：介護老人保健施設におけるせん妄重症化予防ケアプログラムの有効性の検討. 長野県看護大学大学院博士論文.
	細田江美(研究代表者), 太田克矢, 千葉真弓, 曽根千賀子, 松澤有夏, 北山秋雄, 那須裕, 渡辺みどり (2013)：大学における高齢者水中運動講座への取り組み－13 年間の軌跡－. 身体教育医学研究, 14:27-34.
	細田江美(研究代表者), 千葉真弓, 渡辺みどり, 松澤有夏, 曽根千賀子 (2013)：グループホームにおける終末期ケアの取り組み状況と課題(第 2 報)－医療法人・社会福祉法人・NPO 法人による比較－. 日本看護福祉学会誌, 19(1):63-75.
三浦大志	Toru Miyoshi, Kazufumi Nakamura, Masashi Yoshida, Daiji Miura, Hiroki Oe, Satoshi Akagi, Hiroki Sugiyama, Kaoru Akazawa, Tomoko Yonezawa, Jun Wada, Hiroshi Ito (2014): Effect of Vildagliptin, a Dipeptidyl Peptidase 4 Inhibitor, on Cardiac Hypertrophy Induced by Chronic Beta-adrenergic Stimulation in Rats.. Cardiovascular Diabetology, 2014 Feb 13: 13: 43.
	Koji Tokioka, Kengo Fukushima Kusano, Hiroshi Morita, Daiji Miura, Nobuhiro Nishii, Satoshi Nagase, Kazufumi Nakamura, Kunihisa Kohno, Hiroshi Ito, Tohru Ohe (2014): Electrocardiographic Parameters and Fatal Arrhythmic Events in Patients With Brugada Syndrome:Combination of Depolarization and Repolarization Abnormalities. Journal of American College of Cardiology, 63: 20: 2131-2138.
宮越幸代	辻村弘美, 森淑江, 宮越幸代, Jay R.Rajasekera, A.M.S.Deepanie Pathiranage, U.W.S.Raththnayake (2014)：途上国における看護職者養成支援のための遠隔教育-スリランカにおける Skype を用いた体位変換技術の評価-. The Kitakanto Medical Journal, 57-66.
宮原美知留	清水嘉子, 松原美和, 宮澤美知留他 3 名 (2013):助産実習における学生の助産技術の習得-分娩介助例数による達成状況と指導者との評価比較-長野県看護大学紀要 VOL15, 1-13.
	塩澤綾乃, 清水嘉子, 佐々木美果, 赤羽洋子, 宮原美知留, 阿部正子, 藤原聡子 (2014)：入院中の乳児に付き添う母親の母乳分泌に影響を与える要因の検討―健康状態, 睡眠時間, ストレスの状況から―. 長野県母子衛生学会誌, 16:13-21.
森野貴輝	森野貴輝 (2014)：看護学生が実習中に患者から受けた暴力被害の実際とその影響について. 日本精神保健看護学会誌, 投稿中(受付日 2014 年 03 月 25 日).
安田貴恵子	坪内美奈, 安田貴恵子, 山崎洋子, 井出知恵子 (2014)：実践上の課題解決を目指した保健師の研究への看護系大学教員による支援方法の特徴. 千葉看護学会誌, 19(2):47-55.
屋良朝彦	Tomohiko, YARA (2014): Decision Making Models for Multidisciplinary Health Care Teams: From Informed Consent to Conflict Resolution. Bulletin Nagano College of Nuyrsing, 25-34.
渡辺みどり	横矢ゆかり, 百瀬由美子, 藤野あゆみ, 天木伸子, 渡辺みどり, 奥野茂代 (2013)：介護老人福祉施設における看護職のストレッサーと職務満足度との関連. 日本看護福祉学会誌, 2:15-27.
	細田江美, 太田克矢, 千葉真弓, 曽根千賀子, 松澤有夏, 北山秋雄, 那須裕, 渡辺みどり (2013)：大学における高齢者水中運動講座への取り組み－13 年間の軌跡－. 身体教育医学研究, 14:27-34.
	細田江美 千葉真弓, 渡辺みどり, 松澤有夏, 曽根千賀子 (2013)：グループホームにおける終末期ケアの取り組み状況と課題(第 2 報)－医療法人・社会福祉法人・NPO 法人による比較－. 日本看護福祉学会誌 , 19(1):63-75.
	有賀智也, 渡辺みどり, 千葉真弓 (2014)：重度な BPSD により精神科病院に入院した認知症高齢者への看護師の対応方法. 日本看護福祉学会誌, 19(2):101－114..
	Yumiko Momose, Ayumi Fujino, Nobuko Amaki, Midori Watanabe, Shigeyo Okuno, Kiyomi Ashara (2014): Relationship between Job Satisfaction and Characteristics of Storessors Experienced by Nursing Staff Working in Nursing Care Facilities for the Elderly. 愛知県立大学看護学部紀要, 19:11-19..

③ 学会発表（五十音順）

氏　名	内　　容
阿部正子	清水嘉子，佐々木美果，塩澤綾乃，阿部正子，藤原聡子，宮原美智留，赤羽洋子，小川紀子：「母親の心理健康チェックシート」を活用した育児相談研究．日本母性衛生学会，2013.10.4，大宮市．
	南衣津子，阿部正子，清水嘉子：産後に女性が抱く骨盤底筋に対する違和感と対処行動の実態．日本母性衛生学会，2013.10.4，大宮市．
	宮田久枝，八木佳奈子，阿部正子，楢木野裕美：体外受精によって妊娠・出産した母親の育児状況 アンケート調査から．日本母性衛生学会，2013.10.4，大宮市．
	Hisae Miyata, Masako Abe, Yumi Narakino: Status of Adaptation to Motherhood by Women Who Became Pregnant by Initro Fertilization. 2nd NUS-NUH International Nursing Conference, 2013.11.21, Singapore.
	宮田久枝，阿部正子，楢木野裕美：体外受精での母親の育児の困難性．日本子ども虐待防止学会，2013.12.14，松本市．
有賀美恵子	有賀美恵子：高校生の登校回避感情に影響を与える要因 - 学校への反発感傾向に焦点をあてて -．日本精神衛生学会第29回大会，2013.9.22，仙台．
	有賀美恵子：高校生の登校回避感情に影響を与える要因 - 登校嫌悪感傾向に焦点をあてて -．第33回日本看護科学学会学術集会，2013.12.6，大阪．
井村俊義	井村俊義：理論以降のアメリカ文学．アメリカ文学会中部支部，2013，名古屋市．
内田雅代	高橋百合子，内田雅代：慢性疾患をもつ子どもの家族と小児科外来看護師のかかわりに関する研究ー外来受診時の家族および看護師の認識ー．第60回日本小児保健協会学術集会，2013.9.28，東京都．
太田克矢	太田克矢，青木悠里子，橋脇美樹，竹内幸江，北山秋雄：輸液ライン中に発生する気泡の抑制法～～ボトルの温度管理とハンドシェイキングによる検討～～．第33回日本看護科学学会学術集会，2013.12.06，大阪市．
上條こずえ	上條こずえ，坂上玲子，細萱絵里香，白鳥さつき，田嶋紀子，那須淳子，近藤恵子：看護職者が職場で受けたハラスメント体験の分析．第17回日本看護管理学会，2013.8.24-25，東京．
	上條こずえ，白鳥さつき，田嶋紀子，那須淳子：全国の看護管理者を対象とした看護職者が被る暴力およびハラスメントの現状と対策．第33回日本看護科学学会学術集会，2013.12.6-7，大阪市．
柄澤邦江	塩原智子，脇坂幸子，柄澤邦江：保育所の「健康及び安全」に関する業務の在り方についての検討―保育士が困難と感じる業務と課題―．日本保育学会，2013.5.11，福岡市．
	伊藤みほ子，柄澤邦江，中林明子，高橋光子，安田貴恵子：在宅感染予防マニュアルの作成から伝達講習会までの取り組みの効果の検討―訪問看護師の援助技術の向上に着目して―．日本赤十字看護学会，2013.6.22，秋田市．
	柄澤邦江，中林明子，伊藤みほ子，高橋光子，安田貴恵子：在宅感染予防マニュアルを用いて行った伝達講習会の評価～複数の訪問看護ステーションの共同の取り組み～．日本地域看護学会，2013.8.4，徳島市．
	中林明子，柄澤邦江，伊藤みほ子，高橋光子，安田貴恵子：在宅感染予防マニュアルの作成から伝達講習会までの取り組みの効果の検討―訪問看護師の知識向上に着目して―．日本地域看護学会，2013.8.4，徳島市．
	安田貴恵子，下村聡子，酒井久美子，柄澤邦江，中林明子：地域包括支援センターに持ち込まれた認知症に関する相談分析．日本地域看護学会，2013.8.4，徳島市．
	下村聡子，安田貴恵子，御子柴裕子，柄澤邦江，酒井久美子，中林明子：中堅期にある行政保健師が実践経験を通して得ている学び．日本地域看護学会，2013.8.4，徳島市．
	柄澤邦江，脇坂幸子，塩原智子，神澤絢子：山間地域における保育士と保健師との連携に関する課題．日本ルーラルナーシング学会，2013.10.13，七尾市．
	北山秋雄，安田貴恵子，柄澤邦江，吉村隆，佐藤清湖：遠隔ケアシステム構築のための災害高齢被災者の生活実態予備調査．日本ルーラルナーシング学会，2013.10.13，七尾市．

氏　名	内　　容
北山秋雄	北山秋雄，安田貴恵子，柄澤邦江，吉村隆，佐藤清湖：遠隔ケアシステム構築のための災害高齢被災者の生活実態予備調査．日本ルーラルナーシング学会第8回学術集会，2013.10.13，七尾市．
	太田克矢，青木悠里子，橋脇美樹，竹内幸江，北山秋雄：輸液ライン中に発生する気泡の抑制法～～ボトルの温度管理とハンドシェイキングによる検討～～．第33回日本看護科学学会学術集会 ，2013.12.6，大阪市．
酒井久美子	酒井久美子，安田貴恵子：集団での学習を中心にした生活習慣病予防教室における保健師の援助内容．日本地域看護学会第16回学術集会，2013.8.3-4，徳島市．
	安田貴恵子，下村聡子，酒井久美子，柄澤邦江，中林明子：地域包括支援センターに持ち込まれた認知症に関する相談分析．日本地域看護学会第16回学術集会，2013.8.3-4，徳島市．
	下村聡子，安田貴恵子，御子柴裕子，柄澤邦江，酒井久美子，中林明子：中堅期にある行政保健師が実践経験を通して得ている学び．第72回日本公衆衛生学会総会，2013.10.25，三重県津市．
坂田憲昭	坂田憲昭，中畑千夏子：黄色ブドウ球菌の検出・同定における菌体外タンパク質IsaAの有用性．基礎科学をもとにしたCo-Medical研究会，2013.11.2，山形市．
塩沢綾乃	塩澤綾乃，清水嘉子，佐々木美果他4名：入院中の乳児に付き添う母親の母乳分泌維持促進のためのセルフケア行動．第15回日本母性看護学会,2013.7.6，仙台．
	塩澤綾乃，清水嘉子，佐々木美果他4名：入院中の乳児に付き添う母親の母乳分泌に影響を与える要因の検討．第16回長野県母子衛生学会,2013.11.8，松本市．
	清水嘉子，佐々木美香，塩澤綾乃他5名：「母親の心理健康チェックシート」を活用した育児相談研究．第54回母性衛生学会，2013.10.5,大宮市．
	宮阪理子 清水嘉子 塩澤綾乃：褥婦の会陰切開による生活動作別にみた痛みの変化と受け止め．第54回母性衛生学会，2013.10.4，大宮市．
清水嘉子	塩澤綾乃，清水嘉子，佐々木美果他4名：入院中の乳児に付き添う母親の母乳分泌維持促進のためのセルフケア行動．第15回日本母性看護学会，2013.7.6，仙台．
	大滝千文，遠藤俊子，清水嘉子 他4名：免許取得後(卒後)の産婦ケア能力の獲得に関する研究．第15回日本母性看護学会 ，2013.7.6，仙台市．
	Yoshiko Shimizu, Mika Sasaki，他6名：Applying the “Mothers’ Mental Health Check Sheet” to Childcare Counseling. 16th NationalMother Baby Nurses Conference, 2013.9.8-11, Las Vegas Nevada.
	Tomiko Nakajima, Yoko Kaneda, ：Issues of Sound Surrounding the Preterm Infant in Different Environmental Conditions. 16th NationalMother Baby Nurses Conference , 2013.9.8-11, Las Vegas Nevada.
	福澤照代，清水嘉子：娘の育児支援を行う母親の支援とその想い．第54回母性衛生学会，2013.10.4，大宮市．
	清水嘉子，佐々木美香，塩澤綾乃他5名：「母親の心理健康チェックシート」を活用した育児相談研究．第54回母性衛生学会，2013.10.5，大宮市．
	宮原美知留 清水嘉子：出産準備教育に対する助産師の認識と受講者参加型教室導入のねらい．第54回母性衛生学会，2013.10.4，大宮市．
	勝田ひとみ 清水嘉子 藤原聡子：地域の助産師が抱く性教育活動による思いや活動への課題．第54回母性衛生学会，2013.10.4，大宮市．
	宮阪理子 清水嘉子 塩澤綾乃：褥婦の会陰切開による生活動作別にみた痛みの変化と受け止め．第54回母性衛生学会，2013.10.4，大宮市．
	塩澤綾乃，清水嘉子，佐々木美果他4名：入院中の乳児に付き添う母親の母乳分泌に影響を与える要因の検討．第16回長野県母子衛生学会，2013.11.8，松本市．
	福澤照代，清水嘉子：出産した娘に1か月間の育児支援を行う実母の支援の実態とその想い．第16回長野県母子衛生学会，2013.11.8，松本市．

氏　名	内　　容
下村聡子	安田貴恵子，下村聡子，酒井久美子，柄澤邦江，中林明子：地域包括支援センターに持ち込まれた認知症に関する相談分析．日本地域看護学会第16回学術集会，2013.8.3-4，徳島市．
	下村聡子，安田貴恵子，御子柴裕子，柄澤邦江，酒井久美子，中林明子：中堅期にある行政保健師が実践経験を通して得ている学び．第72回日本公衆衛生学会総会，2013.10.23-25，津市．
曽根千賀子	曽根千賀子，細田江美，新實夕香理：高齢者の要介護および終末期に対する意向．日本看護研究学会第39回学術集会，2013.8.22-23，秋田市．
	曽根千賀子，太田勝正：一般病棟において看護師が行う認知症高齢者への看護ケアの内容．第33回日本看護科学学会学術集会，2013.12.6-7，大阪．
喬炎	喬 炎：3種類の異なる天然温泉が皮膚と創傷に及ぼす影響の比較．第20回日本未病システム学会，2013.7.17，東京都．
	喬 炎，三浦大志：アトピー性皮膚炎に対する温泉の予防・治療効果の観察．平成25年度長野県看護大学研究発表会，2014. 3. 19，長野県駒ヶ根市．
髙橋百合子	髙橋百合子、内田雅代：慢性疾患をもつ子どもの家族と小児科外来看護師のかかわりに関する研究ー外来受診時の家族および看護師の認識ー．第60回日本小児保健協会学術集会講演集，2013.9.28，東京都．
田嶋紀子	上條こずえ、坂上玲子、細萱絵里香、白鳥さつき、田嶋紀子、那須淳子、近藤恵子：看護職者が職場で受けたハラスメント経験の分析．日本看護管理学会，2013.8.24-25，東京都．
	田嶋紀子、那須淳子、近藤恵子、上條こずえ、坂上玲子、白鳥さつき：看護管理者を対象とした看護職者の職業被ばく予防に関する実態調査．日本看護管理学会，2013.8.24-25，東京都．
	那須淳子、田嶋紀子、上條こずえ、坂上玲子、白鳥さつき：看護職者の労働安全衛生に関する実態調査～夜勤・交代制勤務における現状～．日本看護管理学会，2013.8.24-25，東京都．
	田嶋紀子，舟島なをみ，中山登志子，中山綾子：看護部長としての望ましい行動に関する研究．第33回日本看護科学学会学術集会，2013.12.6，大阪．
	中山登志子，舟島なをみ，神田尚子，田嶋紀子：院内教育担当者としての望ましい行動の解明．第33回日本看護科学学会学術集会，2013.12.6，大阪．
	那須淳子，白鳥さつき，田嶋紀子，山崎章恵，近藤恵子：看護職者の抗がん剤曝露に対する組織的取り組みと看護管理者の現状．第33回日本看護科学学会学術集会，2013.12.6，大阪．
	上條こずえ，白鳥さつき，田嶋紀子，那須淳子：全国の看護管理者を対象とした看護職者が被る暴力およびハラスメントの現状と対策．第33回日本看護科学学会学術集会，2013.12.6，大阪．
	白鳥さつき，中畑千夏子，田嶋紀子，那須淳子，山崎章恵，寺島憲治：全国の看護管理者を対象とした職業感染管理対策と現状調査．第33回日本看護科学学会学術集会，2013.12.7，大阪．
千葉真弓	千葉真弓，渡辺みどり，細田江美，松澤有夏，曽根千賀子：グループホームが行っている認知症高齢者への終末期ケア提供における質の高い医療連携に向けた取り組み．第33回日本看護科学学会学術集会，2013.12.6-7，大阪市．
中林明子	伊藤みほ子，柄澤邦江，中林明子，高橋光子，安田貴恵子：在宅感染予防マニュアルの作成から伝達講習会までの取り組みの効果の検討―訪問看護師の援助技術の向上に着目して―．日本赤十字看護学会，2013.6.22，秋田市．
	中林明子，柄澤邦江，伊藤みほ子，高橋光子，安田貴恵子：在宅感染予防マニュアルの作成から伝達講習会までの取り組みの効果の検討―訪問看護師の知識の向上に着目して―．日本地域看護学会第16回学術集会，2013.8.4，徳島県．

氏　名	内　　容
中林明子	安田貴恵子，下村聡子，酒井久美子，柄澤邦江，中林明子：地域包括支援センターに持ち込まれた認知症に関する相談分析．日本地域看護学会第16回学術集会，2013.8.3-4，徳島県．
	柄澤邦江，中林明子，伊藤みほ子，高橋光子，安田貴恵子：在宅感染予防マニュアルを用いて行った伝達講習会の評価―複数の訪問看護ステーションの共同の取り組み―．日本地域看護学会第16回学術集会，2013.8.3-4，徳島県．
	下村聡子，安田貴恵子，御子柴裕子，柄澤邦江，酒井久美子，中林明子：中堅期にある行政保健師が実践経験を通して得ている学び．第72回日本公衆衛生学会総会，2013.10.23-25，津市．
那須淳子	那須淳子，田嶋紀子，上條こずえ，坂上玲子，白鳥さつき：看護職者の労働安全衛生に関する実態調査～夜勤・交代制勤務における現状～．日本看護管理学会，2013.8.24-25，東京．
	田嶋紀子，那須淳子，近藤恵子，上條こずえ，坂上玲子，白鳥さつき：看護管理者を対象とした看護職者の職業被ばく予防に関する実態調査．日本看護管理学会，2013.8.24-25，東京都．
	上條こずえ，坂上玲子，細萱絵里香，白鳥さつき，田嶋紀子，那須淳子，近藤恵子：看護職者が受けたハラスメント経験の分析．日本看護管理学会，2013.8.24-25，東京都．
	那須淳子，白鳥さつき，田嶋紀子，山崎章恵，近藤恵子：看護職者の抗がん剤曝露に対する組織的取り組みと看護管理者の現状．第33回日本看護科学学会学術集会，2013.12.6，大阪府．
	上條こずえ，白鳥さつき，田嶋紀子，那須淳子：全国の看護管理者を対象とした暴力およびハラスメントの現状と対策．第33回日本看護科学学会学術集会，2013.12.6，大阪府．
	白鳥さつき，中畑千夏子，田嶋紀子，那須淳子，山崎章恵，寺島憲治：全国の看護管理者を対象とした職業感染管理対策と現状調査．第33回日本看護科学学会学術集会，2013.12.7，大阪府．
西垣内磨留美	Marumi Nishigauchi: Using the New CALL System as an Advanced Method of Teaching English to Nurse Students. The 2013 Paris International Academic Conference, 2013.6.10, Paris, France.
	Marumi Nishigauchi: Traveling Opera Companies as a Reflection of a Country and an Era. Hawaii International Conference on Arts and Humanities, 2014.1.11, Honolulu, U.S.A.
松澤有夏	松澤有夏，渡辺みどり：介護老人保健施設入所高齢者に対する「せん妄重症化予防ケアプログラム」の作成．第33回日本看護科学学会学術集会，2013.12.6-7，大阪市．
	千葉真弓，渡辺みどり，細田江美，松澤有夏，曽根千賀子：グループホームが行っている認知症高齢者への終末期ケア提供における質の高い医療連携にむけた取り組み．第33回日本看護科学学会学術集会，2013.12.6-7，大阪市．
松本淳子	Matsumoto, J.: Everyday listening to music and emotion among college students. The 3rd International Conference on Music & Emotion, 2013.6.11, Jyvaskyla.
	松本じゅん子：看護系大学生における失恋によるストレスの程度と行動・感情への影響．日本教育心理学会第55回総会，2013.8.18，東京都．
	松本じゅん子：小児病棟における子どもの感情に対するBGMの効果．日本心理学会第77回大会，2013.9.19，札幌市．
	松本じゅん子：ヒトカラによる気分への効果．日本音響学会2013年秋季研究発表会，2013.9.26，豊橋市．
	松本じゅん子：日常場面における音楽の選好と感情の関係．日本音響学会2014年春季研究発表会，2014.3.11，東京．
	松本じゅん子，多賀谷 昭：苦痛に対する音楽の効果．平成25年度長野県看護大学研究集会，2014.3.19，駒ヶ根市．

氏　名	内　　容
三浦大志	寒川睦子，森田宏，三浦大志，西井伸洋，永瀬聡，橋本克史，河野晋久，草野研吾，伊藤浩，大江透，鵜川武豊世，氏家良人：初発症状がCPAであったLQTS症例の臨床像の特徴．第102回 日本循環器学会 中国・四国合同地方会，2013.5.10-11，香川県．
	Yukihiro Saito, Kazufumi Nakamura, Masashi Yoshida, Hiroki Sugiyama, Daiji Miura, Yuuko Ohno, Kunihisa Kohno, Hiroshi Ito: Establishment of hyperpolarization-activated cyclic nucleotide-gated potassium channel 4-overexpressing mouse embryonic stem cell-derived cardiomyocytes as a candidate for a biological pacemaker. European Society of Cardiology Congress 2013, 2013.8.31-9.4, Amsterdam, Netherlands.
	Kazufumi Nakamura, Daiji Miura, Kei Yunoki, Yasushi Koyama, Kazuhiro Osawa, Toru Miyoshi, Kunihisa Kohno, Hiroshi Morita, Hiroshi Ito: Eicosapentaenoic acid prevents arterial calcification in klotho mutant mice, an animal model of typical aging. European Society of Cardiology Congress 2013, 2013.8.31-9.4, Amsterdam, Netherlands.
	赤木達，中村一文，三浦大志，伊藤浩：PGI2封入ナノ粒子を用いた肺高血圧症の新規治療法の開発．第1回 日本肺高血圧学会 学術総会，2013.10.13-14，神奈川県．
	Mutsuko Sangawa, Hiroshi Morita, Koji Nakagawa, Nobuhiro Nishii, Satoshi Nagase, Kunihisa Kohno, Kazufumi Nakamura, Hiroshi Itoh, Daiji Miura, Kengo Kusano, Tohru Ohe: Genotype Specific Risk Marker of Torsades de Pointes in Long QT Syndrome. 第78回 日本循環器学会 総会・学術集会，2014.3.21-23，東京都．
	Mutsuko Sangawa, Hiroshi Morita, Koji Nakagawa, Nobuhiro Nishii, Satoshi Nagase, Kunihisa Kohno, Kazufumi Nakamura, Hiroshi Itoh, Daiji Miura, Kengo Kusano, Tohru Ohe: Genetic and Clinical Aspect of Long QT Syndrome Patients with Torsades de Pointes. 第78回 日本循環器学会 総会・学術集会，2014.3.21-23，東京都．
	喬炎，三浦大志：アトピー性皮膚炎に対する温泉の予防・治療効果の観察．平成25年度 長野県看護大学研究集会，2014.3.19，長野県．
	Kazufumi Nakamura, Masashi Kitagawa, Minoru Satoh, Daiji Miura, Kei Yunoki, Toru Miyoshi, Kunihisa Kohno, Hiroshi Itoh: Regulation of Arterial Stiffness by Klotho: Decreased Serum Klotho in CKD and Altered Osteogenesis-gene Expression in Klotho Mutant Mice SMCs. 第78回 日本循環器学会 総会・学術集会，2014.3.21-23，東京都．
御子柴裕子	下村聡子，安田貴恵子，御子柴裕子，柄澤邦江，酒井久美子，中林明子：中堅期にある行政保健師が実践経験を通して得ている学び．第72回日本公衆衛生学会総会，2013.10.25，三重県津市．
	御子柴裕子，多賀谷昭，中畑千夏子，宮越幸代，内田雅代：小学校高学年児童の体型認識と日常生活行動との関連．第33回日本看護科学学会学術集会，2013.12.6，大阪府大阪市．
宮越幸代	Hitomi tsujimura, Yoshie Mori, Jay Rajasekera, Sachiyo Miyakoshi, A.M.S. Deepanie, U.W.S.Rathnayake: Distance education for supporting development of nurses in developing countries. 国際看護師協会第25回世界大会，2013.5.19，Melbourne.
	一之瀬あゆみ，宮越幸代：A病院看護師の災害に対する意識、知識の現状．日本災害看護学会第15回年次大会，2013.8.22，札幌市．
	宮越幸代，今井家子：遠隔授業システムを用いた日本からバヌアツ共和国への「災害看護」の授業評価．日本災害看護学第15回年次大会，2013.8.22－23，札幌市．
	森淑江，辻村弘美，宮越幸代，Jay Rajasekera，Zeneida Quiroz Flores，Sandra Reyes，Marlene Gaitan，中澤理恵，坂本雅昭：途上国の医療者養成教育のための遠隔教育の試み．第28回日本国際保健医療学会学術大会，2013.11.2，名護市．
	宮越幸代，森淑江，辻村弘美，Jay Rajasekera，Zeneida Quiroz，Sandra Reyes，Marlene Gaitan：Skypeで試行したニカラグア国への体位変換の看護技術演習の評価．第28回日本国際保健医療学会学術大会，2013.11.2，名護市．
	Jay Rajasekera, Yoshie Mori, Hiromi Tsujimura, Sachiyo Miyakoshi: Issues in International Collaboration in e-education. The 1st International Conference on Energy, Environment and Human Engineering，2013.12，Yangon(Myanmar).

氏　名	内　　容
宮原美知留	塩澤綾乃，清水嘉子，佐々木美果，赤羽洋子，宮原美知留，阿部正子，藤原聡子：入院中の乳児に付き添う母親の母乳分泌維持促進のためのセルフケア行動．日本母性看護学会，2013.7.6，仙台市．
	宮原美知留：出産準備教育に対する助産師の認識と受講者参加型教室導入のねらい．母性衛生学会，2013.10.4，大宮市．
	清水嘉子，佐々木美果，塩澤綾乃，阿部正子，藤原聡子，宮原美知留，赤羽洋子，小川紀子：「母親の心理健康チェックシート」を活用した育児相談研究．母性衛生学会，2013.10.5，大宮市．
	塩澤綾乃，清水嘉子，佐々木美果，赤羽洋子，宮原美知留，阿部正子，藤原聡子：入院中の乳児に付き添う母親の母乳分泌に影響を与える要因の検討．長野県母子衛生学会，2013.11.9，松本市．
森野貴輝	森野貴輝：看護学生が患者から受ける暴力被害の実態ーインタビューから見えてくるもの．精神保健看護学会，2013.6.16，京都市．
安田貴恵子	中林明子，柄澤邦江，伊藤みほ子，高橋光子，安田貴恵子：在宅感染予防マニュアルの作成から伝達講習会までの取り組みの効果の検討ー訪問看護師の知識の向上に着目してー．日本地域看護学会第16回学術集会，2013.8.3-4.，徳島市．
	酒井久美子，安田貴恵子：集団での学習を中心にした生活習慣病予防教室における保健師の援助内容．日本地域看護学会第16回学術集会，2013.8.3-4.，徳島市．
	安田貴恵子，下村聡子，酒井久美子，柄澤邦江，中林明子：地域包括支援センターに持ち込まれた認知症に関する相談分析．日本地域看護学会第16回学術集会，2013.8.3-4.，徳島市．
	柄澤邦江，中林明子，伊藤みほ子，高橋光子，安田貴恵子：在宅感染予防マニュアルを用いて行った伝達講習会の評価ー複数の訪問看護ステーションの共同の取り組みー．日本地域看護学会第16回学術集会，2013.8.3-4.，徳島市．
	下村聡子，安田貴恵子，御子柴裕子，柄澤邦江，酒井久美子，中林明子：中堅期にある行政保健師が実践経験を通して得ている学び．第72回日本公衆衛生学会総会，2013.10.25，三重県津市．
屋良朝彦	Tomohiko, YARA: Uncertain Risks and Reconsidering the Precautionary Principle. Kushiro International Conference of Bioethics, 2013.8.28, 釧路市．
渡辺みどり	松澤有夏，渡辺みどり：介護老人保健施設入所高齢者に対する「せん妄重症化予防ケアプログラム」の作成．第33回日本看護科学学会学術集会，2013.12.6-7，大阪市．
	千葉真弓，渡辺みどり，細田江美，松澤有夏，曽根千賀子：グループホームが行っている認知症高齢者への終末期ケア提供における質の高い医療連携にむけた取り組み．第33回日本看護科学学会学術集会，2013.12.6-7，大阪市．

④ 研究報告書（五十音順）

氏　名	内　　容
太田克矢	安田貴恵子，太田克矢，千葉真弓，柄澤邦江，唐沢淳，篠原睦美他：長野県内の看護管理者の看護職採用についての考えと学士課程卒業者への期待に関する報告書．平成25年度長野県看護大学看護実践国際研究センター卒業生・修了生キャリア形成支援部門報告書．2014．
	北山秋雄(研究代表者)，安田貴恵子，清水嘉子，那須裕，太田克矢，小田和美，柄澤邦江，喬炎，藤原聡子：里山における災害被災者支援のための遠隔ケアシステム構築に関する研究．平成25年度日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究A)実績報告書．2014．
北山秋雄	北山秋雄(研究代表者)，安田貴恵子，清水嘉子，那須裕，太田克矢，小田和美，柄澤邦江，喬炎，藤原聡子：里山における災害被災者支援のための遠隔ケアシステム構築に関する研究．平成25年度日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究A)実績報告書．2014．

氏　名	内　　容
多賀谷昭	渡辺みどり(研究代表者)，百瀬由美子，千葉真弓，多賀谷昭，細田江美，曽根千賀子，松澤有夏 ：介護保険施設の認知症高齢者の事前意思を尊重した終末期看護介入方法の開発．平成 21-23 年度科学研究費補助金(基盤研究(C))研究成果報告書．2014.
松本淳子	松本じゅん子，多賀谷 昭：病棟の騒音に対する環境音の効果．平成 24 年度(2012 年度)長野県看護大学特別研究費補助金研究成果報告書．2013.
安田貴恵子	安田貴恵子，太田克矢，千葉真弓，柄澤邦江，唐沢淳，篠原睦美他：長野県内の看護管理者の看護職採用についての考えと学士課程卒業者への期待に関する報告書．平成 25 年度長野県看護大学看護実践国際研究センター卒業生・修了生キャリア形成支援部門報告書．2014.
渡辺みどり	渡辺みどり(研究代表者)，百瀬由美子，千葉真弓，多賀谷昭，細田江美，曽根千賀子，松澤有夏 ：介護保険施設の認知症高齢者の事前意思を尊重した終末期看護介入方法の開発．平成 21-23 年度科学研究費補助金(基盤研究(C))研究成果報告書．2014.
	千葉真弓(研究代表者)，渡辺みどり，細田江美，曽根千賀子，松澤有夏：グループホームにおける認知症高齢者への終末期ケア方略に関する研究．平成 21～23 年度科学研究費補助金(基盤研究(C))報告書．3-15，16-26.，2014.
	百瀬由美子(研究代表者)，松岡広子，藤野あゆみ，天木伸子，横矢ゆかり，赤塚大樹，渡辺みどり，奥野茂代，平木尚美，田中和菜，池俣志帆：介護保険施設看護職への包括的ストレスマネジメント教育プログラムの開発と評価．平成 20～23 年度科学研究費補助金(基盤(C))研究成果報告書．17-28，29-75.，2014.

⑤ 講演等（五十音順）

氏　名	内　　容
東修	東修：新人看護職への精神的支援．新人看護職員 実地指導者研修，2013. 8. 28，富山市.
	東修：TRUE COLORS 入門講座，2013. 10. 4，函館市.
	東修：一般病院で遭遇する精神的な問題を抱えた患者へのケア リエゾン・ナースに依頼のあるケース，2013. 11. 22，富山市.
太田克矢	太田克矢：高校から大学への学び．赤穂高校，2014. 3. 20，駒ヶ根市.
柄澤邦江	柄澤邦江：地域診断の重要性と地域診断におけるアセスメント．平成 25 年度第 1 回長野県新人保健師研修会，2013. 5. 9，松本市.
	柄澤邦江、中林明子：訪問看護師のための在宅感染予防マニュアルについて．平成 25 年度長野県訪問看護ステーション連絡協議会南信ブロック研修会，2013. 5. 19，駒ヶ根市.
	柄澤邦江：スマート介護・福祉研究会．地域・在宅看護の現状，2013. 8. 29，駒ヶ根市.
	柄澤邦江：地域診断の重要性と地域診断におけるアセスメント(まとめ)．平成 25 年度第 2 回新人保健師研修会，2013. 12. 16，松本市.
北山秋雄	北山秋雄：遠く離れて暮らす家族・人々をつなぐ看護システム．日本ルーラルナーシング学会第 8 回学術集会講演(ラウンドテーブル)，2013. 10. 13，七尾市.
清水嘉子	清水嘉子：母性看護実習について．母性看護学分科会，2013. 10. 15，松本市.
	清水嘉子：妊娠期からの虐待予防対策．家族計画協会研修会，2013. 10. 25，福島.
	清水嘉子：母性看護実習について．長野県母性看護学分科会，2013. 10，松本市.
	清水嘉子：「母親の育児幸福感を高める支援」について．奈良県保健師会研修会，2014. 2.，奈良市.
	清水嘉子：妊娠期からの虐待予防のためのサポートの必要性．南信保健師研修会，2014. 2，宮田市.

氏　名	内　　容
多賀谷昭	Akira Tagaya: Human remains from Tappeh Sang-e Chakhmaq.　Symposeum: The First Farming Village in Northeast Iran and Turan: Tappeh Sang-e Chakhmaq and Beyond. Tsukuba University,　2014.2.11.
	多賀谷昭：骨は語る．長野県看護大学平成25年度第2回公開講座．2014.2.22.
松本淳子	松本じゅん子(企画代表，司会)，安田恭子，山田真司，河原英紀，渡邊伸行，谷口高士：COOL JAPANを科学する．日本心理学会第77回大会公募シンポジウム，2013.9.21，札幌市.
	松本じゅん子：音楽音響(知覚・認知・心理)セッション(座長)．日本音響学会2013年秋季研究発表会，2013.9.26，豊橋市.
	松本じゅん子：音楽音響(知覚・認知・心理)セッション(座長)．日本音響学会2014年春季研究発表会，2014.3.11，東京.
御子柴裕子	御子柴裕子：看護を取り巻く現状から、これからの看護基礎教育のあり方を考える．看護・医療・薬学・福祉系高等学校教員対象研究ゼミナール松本会場，2013.5.9，松本市.
	御子柴裕子：子どもの生活習慣病とその予防．駒ヶ根市子どもの健康を考える会，2014.2.21，駒ヶ根市.
安田貴恵子	安田貴恵子：家族支援の充実に向けた理論と実践の基礎研修．赤十字医療施設キャリア開発ラダー研修，2013.6.1，飯山市.
	安田貴恵子：医療・保健・福祉の仕組みと連携(第1回～第4回)．認定看護管理者教育課程セカンドレベル，2013.6.12./2013.6.19./2013.7.3./2013.7.9.，松本市.
	安田貴恵子：在宅看護の教育方法と実習の評価方法．長野県看護教育研究会在宅看護論分科会，2013.8.7，松本市.
	安田貴恵子：療養場所の移行に伴う医療と介護の連携．日本マネジメント学会長野支部看護師分科会北信地区看護連携協議会「退院支援・退院調整基礎研修」第1回，2013.8.24，中野市.
	安田貴恵子：地域連携を展開するうえでの課題と対応(ワークショップ)．日本マネジメント学会長野支部看護師分科会北信地区看護連携協議会「退院支援・退院調整基礎研修」第2回，2013.12.14，須坂市.
	安田貴恵子：保健師の行う家庭訪問、その意義と展開方法．飯田市保健師研修会，2014.3.20，飯田市.
	安田貴恵子：保健師の行う家庭訪問ーその意義と展開方法ー．飯田市保健師研修会，2014.3.20，飯田市.
屋良朝彦	屋良朝彦：予防原則の再考察と生命倫理学．第5回合意形成科研研究会.，2013.9.28，長野県看護大学.
	屋良朝彦：看護倫理の意思決定論における コンフリクト・レゾリューション・ モデル．第8回『現象学的研究の教育方法の確立』研究会，2014.1.12，首都大学東京秋葉原サテライトキャンパス.
	屋良朝彦：合意形成科研の総括と今後の展望．第6回合意形成研究会，2014.3.17，多摩市、多摩アカデミーヒルズ.
渡辺みどり	渡辺みどり：長野県民主医療機関連合看護介護研修会．看護研究の基礎とその実際，2013.5.16，松本市.
	渡辺みどり：伊那中央病院看護師3年目研修．リーダーシップとは何か，2013.7.3，伊那市.
	渡辺みどり：長野県老人福祉事業連盟平成25年度第2回老人ホーム研修会．高齢者の脆弱化の特徴と生活援助のあり方，2013.9.18，長野市.
	渡辺みどり：伊那中央病院看護師3年目研修．リーダーシップの実際とその評価，2013.10.30，伊那市.
	渡辺みどり：伊那中央病院リーダー研修．リーダーシップと職場看護の質，2013.10.10，伊那市.

⑥ 出版物等（五十音順）

氏　名	内　　容
阿部正子	福井トシ子，中林正雄，北島博之，白井千晶，河合蘭，福島富士子，阿部正子，井本寛子，片桐麻須美，福島恭子，松永佳子（2013）：日本看護協会健康政策部助産師課，より充実した母子ケアのための産科混合病棟ユニットマネジメント導入の手引き，株式会社メディカ出版，東京.
	阿部正子（2014.1.21）："温かな手で出産を支える社会へ". 信濃毎日新聞，18.
井村俊義	井村俊義（2014）：日本文化における展示の詩学(山口昌男の翻訳). 國學院大學,平成26年度B日程入学試験問題，18-20，國學院大學,東京.
	井村俊義（2014）：アーバントライブ宣言. 筑摩書房，現代文B—学習指導の研究，151-152，筑摩書房，東京.
清水嘉子	清水嘉子（2013）：母親の育児幸福感の社会や文化の影響ー中国人の母親との違いから ー. 保健師ジャーナル VOL69 NO1，70-75，医学書院，東京.
	清水嘉子（2013）：育児支援に“育児幸福感”の視点を取り入れるためのアドバイス . 保健師ジャーナル VOL69 NO2，146-151，医学書院，東京.
	清水嘉子（2013）：母親の育児幸福感を高めるための発展的取り組み. 保健師ジャーナル VOL69 NO3，224-230，医学書院，東京.
竹内幸江	竹内幸江（2013）：講義の工夫 子どもの終末期ケアについて. 小児看護 36(2)，138-143，へるす出版，東京.
	竹内幸江，藤巻香苗（2013）：子どもの入院生活の環境整備. 小児看護，36(8):973-977，へるす出版，東京.
西垣内磨留美	Marumi Nishigauchi (2013): Brief Notes on Two Japanese Cases: The Community as a Place for Interactive Support. Zora! Magazine 2013, Zora Neale Hurston Festival of the Arts and Humanities, Eatonville.
	西垣内磨留美（2014）：あとがき. 松本昇，西垣内磨留美，吉田美津，横田由理，君塚淳一編，エスニック研究のフロンティア，金星堂，東京.

第３節　社会・地域貢献活動

平成25年度に本学教員が行った学外の研修会・講演会、学会等に関する活動は、延べ145件であった（表6）。

また、本学教員が行った看護職者等が取り組む研究への支援は、延べ19件であった（表7）。

（表6）　本学教員が行った社会・地域貢献活動（五十音順）

氏名	活　動　内　容
東　修	こころの医療センター駒ヶ根　職員メンタルヘルス相談
	こころの医療センター駒ヶ根看護部看護研究指導
	富山県看護協会新人看護職員実地指導者研修　講師
	市立函館病院「人間関係におけるストレスマネジメント-TRUE COLORS 入門講座」　講師
	富山県看護協会「一般病棟で遭遇する精神的な問題を抱えた患者へのケア -リエゾンナースに依頼のあるケース-」　講師
阿部正子	日本母性看護学会　査読委員
	日本生殖看護学会　査読委員
	科学研究費委員会専門委員（基盤C）
	日本看護協会助産師職能ワーキンググループ
	M-GTA研究会　世話人
有賀智也	高齢者ケア看護研究会　運営事務局、講師
今井家子	駒ケ根市みなこいワールドフェスタ実行委員　イベント開催・グループワーク講師
	駒ケ根市自主防災リーダー研修会　講演会講師
	駒ケ根市教育委員会主催事業　男女共同参画研修会　講演・グループワーク講師
	日本災害看護学会　発表論文査読
	日本災害看護学会　第15回年次大会パネルディスカッション座長
	日本災害看護学会　第15回年次大会　社会貢献・広報員会委員
	市民公開講座講師実技講師
内田雅代	日本看護科学学会　代議員
	日本看護科学学会　査読委員
	日本小児看護学会　理事
	日本小児看護学会　査読委員
	日本小児がん看護学会　理事長
	日本小児がん看護学会　査読委員
	日本糖尿病教育・看護学会　査読委員
	日本小児保健協会　代議員
	日本小児保健協会　査読委員
	長野県小児保健研究会　役員
	長野県立病院機構設立の「地域とともに新木曽専門学校を作る懇話会」委員
	第11回日本小児がん看護学会シンポジウム　講師
	昭和伊南総合病院『看護倫理』研修会　講師
	下伊那赤十字病院『看護倫理』研修会　講師
太田克矢	長野県公衆衛生専門学校　講師
	赤穂小学校学校評議員
	長野県立赤穂高等学校「高校から大学への学び」講師
岡田　実	山形県立鶴岡病院研修会　講師
	下伊那赤十字病院研修会　講師
	こころの医療センター駒ヶ根看護部看護研究指導
	日本精神保健看護学会　評議員・査読委員
	日本赤十字学会　査読委員
	知的障害者更生施設野木和園　第三者評価委員
	こころの医療センター駒ヶ根倫理審査委員会　委員

氏名	活　動　内　容
柄澤邦江	日本児童虐待防止学会　一般演題座長
	長野県看護研究学会　査読委員
	看護協会主催の新人保健師研修会　講師
	長野県訪問看護ステーション南信ブロック研修会　講師
	駒ケ根市認知症介護ビジョン推進委員会ケアマネ部会　委員
	スマート介護・福祉研究会　講師
	県立飯田高等学校評議員会　評議員
	第３期のぞみの里運営推進協議会　委員長
北山秋雄	駒ヶ根市要保護児童等支援ネットワーク　構成員
	駒ヶ根市国民健康保健運営協議会　委員
	伊那市子育てワークショップ研修会　講師
	宮田村両親学級　講師
	(財)長野県テクノ財団　評議員
	日本子ども虐待防止学会信州大会　プログラム委員長
	第１９回 ISPCAN(国際子ども虐待防止学会)　実行委員
	日本大学基準協会　審査委員
	各種学会　査読委員・評議員
	飯田女子短期大学　非常勤講師
近藤恵子	日本ストーマ・排泄・リハビリテーション学会　評議員・社会保険委員
	甲信ストーマリハビリテーション講習会　実行委員
	長野県ストーマリハビリテーション研究会　世話人
	日本褥瘡学会　評議員
	関東甲信越褥瘡学会　世話人
	長野県褥瘡懇話会　世話人
塩澤綾乃	長野県看護協会　新人助産師研修会　講師
	日本助産学会論文査読
清水嘉子	日本看護科学学会　代議員
	長野県母子衛生学会　理事
	日本看護科学学会学術集会抄録査読
	日本母性看護学会学術集会　座長
	日本子ども虐待学術集会座長　松本
	母性衛生学会座長　大宮
	日本母性看護学会論文　専任査読委員
喬 炎	日本未病システム学会　評議員
	JST（独立行政法人科学技術振興機構）審査委員
	茅野市商工会議所主催「温泉と創傷治癒」講師
	日本未病システム誌査読
	「形態と機能」誌査読
高橋百合子	日本小児がん看護学会　事務局
多賀谷 昭	長野県公衆衛生専門学校　非常勤講師
	愛知県埋蔵文化財センター専門委員（形質人類学）
	日本人類学会　評議員
	筑波大学西アジア文明研究センター主催シンポジウム「The First Farming Village in Northeast Iran and Turan: Tappeh Sang-e Chakhmaq and Beyond」シンポジスト 「Human remains from Tappeh Sang-e Chakhmaq」講演
	長野県看護大学公開講演

氏名	活　動　内　容
竹内幸江	長野県看護実習指導者講習会　講師
	日本看護倫理学会　評議員
	日本小児看護学会　評議員
	日本小児看護学会　査読委員
	日本小児がん看護学会　査読委員
	日本看護学教育学会　査読委員
田嶋紀子	長野県看護協会伊那支部役員
	日本看護教育学学会　第24回学術集会　企画委員
千葉真弓	日本老年看護学会　査読員
	日本看護福祉学会　理事
	日本看護福祉学会　査読員
	長野県伊那公衆衛生専門学校　非常勤講師
	伊那中央病院　フィジカルアセスメント研修　講師
長南幸恵	発達障害親の会わかば　懇談会主催
中畑千夏子	看護職者のための職業感染予防研修会の企画・運営
那須淳子	長野県公衆衛生専門学校　講師
西垣内磨留美	多民族研究学会　副会長
	黒人研究の会　総務委員
	アイリッシュ・アメリカン研究会　副代表
	長野県赤穂高等学校評議員
	コンソーシアム信州英語教育小部会
松澤有夏	高齢者ケア看護研究会　事務局
松本淳子	日本音楽知覚認知学会　音楽知覚認知研究編集委員
	日本音楽知覚認知学会　研究発表会幹事
	日本音楽知覚認知学会2013年度秋季研究発表会研究選奨委員会委員
	日本音響学会2013年秋季研究発表会音楽音響（知覚・認知・心理）セッション座長
	日本音響学会2014年春季研究発表会音楽音響（知覚・認知・心理）セッション座長
	日本心理学会第77回大会公募シンポジウム（COOL JAPANを科学する）企画代表，司会
御子柴裕子	看護・医療・薬学・福祉系高等学校教員対象研究ゼミナール松本会場　講師
	日本子ども虐待防止学会第19回学術集会信州大会一般演題ポスター（P1）座長
	駒ヶ根市子どもの健康を考える会研修会　講師
三沢　緑	信州グループ研究会　事務局、コ・コンダクター
	ＮＰＯ法人メンタルサポート駒の杜　監査
宮越幸代	駒ヶ根市多文化共生のまちづくり委員
	駒ヶ根市日本語学習事業委員
	駒ヶ根市・宮田村・飯島町・松川町主催「みなこいワールドフェスタ」企画・実行委員
森野貴輝	第45回日本看護学会精神看護学術集会　準備委員
安田貴恵子	日本地域看護学会　評議員
	日本地域看護学会　日本地域看護学会誌査読委員
	日本ルーラルナーシング学会　理事
	日本ルーラルナーシング学会　日本ルーラルナーシング学会誌査読委員
	信州公衆衛生学会誌　編集委員
	赤十字医療施設キャリア開発ラダー研修　飯山赤十字病院　家族支援基礎研修講師
	認定看護管理者研修セカンドレベル　講師・レポート審査
	長野県看護教育研修会在宅看護分科会研修　講師
	日本医療マネジメント学会長野支部看護師分科会北信地区看護連携協議会　退院支援・退院調整基礎研修　講師
	飯田市保健師研修会　講師
	長野県中堅期保健師研修　小委員会委員
	伊那市医療政策審議会　委員
	文部科学省大学設置審議会　保健学専門委員

氏名	活　動　内　容
屋良朝彦	伊那谷　生と死を考える会（生と死を考える会全国協議会）　会員
	第5回合意形成科研研究会　主催
	第8回現象学的研究の教育方法の確立　研究会　講師
	第6回合意形成科研研究会　主催
渡辺みどり	日本看護学学会　代議員
	日本老年看護学会　評議員
	日本老年看護学会　査読委員
	日本看護福祉学会　理事
	日本看護福祉学会　査読委員
	日本看護福祉学会第26回学術集会　座長
	伊那中央病院リーダーシップ研修（伊那市） 「看護チームとリーダーシップ」講師
	新人看護師研修（伊那市）　「フィジカルアセスメントの目的と実際」講師

（表7）　本学教員が行った看護職者等が取り組む研究への支援（五十音順）

氏　名	病院等施設名	支　援　内　容
東　修	こころの医療センター駒ヶ根	院内研究指導、発表会での助言4題
有賀智也	伊那中央病院	看護研究指導1題
	長野県民主医療機関連合会	看介護研究講座発表会での講評
岡田　実	こころの医療センター駒ヶ根	研究課題の指導、発表会での助言4題
上條こずえ	県立木曽病院	院内研究指導2題、発表会での助言
	昭和伊南総合病院	院内研究指導2題、発表会での助言
柄澤邦江	伊那中央病院	院内看護研究指導1題
多賀谷　昭	聖泉大学看護学部	看護学における多変量解析法の利用に関する研修会の講師
		紀要投稿原稿の学外査読者
竹内幸江	岡谷市民病院	院内研究指導および発表会助言12題
田嶋紀子	昭和伊南総合病院	院内看護研究指導3題、発表会での助言
長南幸恵	伊那中央病院	手術室の看護研究のアドバイザー
中林明子	伊那中央病院	院内研究指導1題、発表会での助言
那須淳子	伊那中央病院	院内研究指導2題
藤原聡子	伊那中央病院	助産師スタッフの研究指導、発表会の助言
松澤有夏	伊那中央病院	院内看護研究指導1題
	民医連長野支部	民医連長野支部　研究発表会　講評
三沢　緑	伊那中央病院	院内研究指導1題
宮越幸代	諏訪赤十字病院	院内研究指導1題

第４章　社会貢献

第１節　公開講座

平成25年度に開催した公開講座の状況は、以下のとおりである。

	開催日・時間	テーマ	講師	参加人数
1	9月21日（土） 10：30～12：00	自分の命は自分で守ろう：減災の勧め	長野県看護大学 教授　今井家子	45名
2	2月22日（土） 13：30～16：30	身体の深層をみる 骨は語る	長野県看護大学 学長　阿保順子 教授　多賀谷昭	188名
合計				233名

※　本学教員が行った社会・地域貢献活動については、第３章「教員の研修・研究、社会活動」第３節に掲載しています。

第５章　学内委員会等の活動及び検証

第１節　運営委員会

１　所掌事項

看護大学の管理運営に関する重要事項を調査審議する。

２　活動と成果

（１）委員会活動

【開催日】

第１回	25年 4月16日	第12回	25年10月31日
第２回	25年 5月 7日	第13回	25年11月14日
第３回	25年 5月14日	第14回	25年11月29日
第４回	25年 5月31日	第15回	25年12月13日
第５回	25年 6月14日	第16回	26年 1月 7日
第６回	25年 6月27日	第17回	26年 1月17日
第７回	25年 7月12日	第18回	26年 1月31日
第８回	25年 8月30日	第19回	26年 2月17日
第９回	25年 9月17日	第20回	26年 2月28日
第10回	25年 9月27日	第21回	26年 3月14日
第11回	25年10月10日	第22回	26年 3月28日
臨時	25年10月15日		

【審議内容】

大学運営に関する学長の構想・意思の具体化への検討や、教授会、人事教授会及び研究科委員会に諮る協議事項・報告事項等に関する審議及び内容の確認を行った。

（２）成果

事前に議題の内容等を協議・点検・整理し、大学運営の方向性の確認や調整を行い、教授会等における円滑で効率的な審議に資した。

３　今後の課題

（１）喫緊の課題

ア　長野県看護大学５ヵ年計画に定める中期目標の推進と進捗状況の管理・調整を引き続き行う。

イ　自己点検・評価に掲げられた各委員会等の課題解決に向け、調整・支援を行う。

（２）将来的な課題

ア　大学院の入学定員割れの現状を踏まえ、大学院の志願者確保対策や教育方法など、大学院の在り方を含めた抜本的な改革について検討する必要がある。

第２節　広報・交流委員会

１　所掌事項

(1) 大学の広報に関すること
(2) 公開講座に関すること
(3) 大学説明会に関すること
(4) 国際交流に関すること
(5) 地域交流に関すること

２　活動と成果

（１）委員会活動

委員会及び開催行事は下記の通り。(行事の事前準備活動の記載は省略)

期日	審議事項／活動内容	
4月 11 日	1. 任務の確認 2. 委員会成立要件について 3. 副委員長の指名 4. 年間計画について 5. 活動体制について	6. PATHWAY について 7. オープンキャンパスについて 8. 学報について 9. 進路説明会等について
5月 28 日	1. PATHWAY の進捗状況について 2. 大学院パンフレットについて 3. 学報について 4. 公開講座について	5. オープンキャンパスについて 6. 進路説明会等について 7. 長野県民新聞社からの高校生向け県民新聞への掲載に関して
6月 25 日	1. オープンキャンパスについて 2. 学報について	3. 公開講座について
7月 18 日	1. 伊那谷アグリイノベーション展示について 2. サモア留学生歓迎会について	3. オープンキャンパスについて 4. 学報について 5. 公開講座について
8月 3 日	オープンキャンパス	
9月 5 日	1. Pathway の Web 上公開について 2. 県内大学高校連絡会について 3. オープンキャンパス総括	4. 第 1 回公開講座について 5. 鈴風祭「個別相談コーナー」について 6. 進路説明会について
9月 21 日	第 1 回公開講座	
9月 21 日	鈴風祭における個別進路相談	
10月 28 日	1. 公開講座について 2. オープンキャンパス、及び学祭内の相談コーナーについて	3. 学報について 4. Pathway について

11月28日	1. 進学説明会等について 2. 第2回公開講座について	3. PATHWAYについて 4. 学報について
1月16日	1. 赤穂高校見学について 2. 模擬授業の依頼について	3. PATHWAY見直しについて 4. 第2回公開講座について
2月22日	第2回公開講座	
3月17日	1. 次年度委員会体制について 2. 次年度公開講座について 3. PATHWAYについて	4. 平成26年度オープンキャンパスの日程について 5. 進学説明会等について 6. 第2回公開講座の振り返り

（2）成果

1）進路説明会、模擬授業等

学外よりの依頼が近年増加し、教員の時間対効果、出張費用対効果等の検討、対応の改善が急務であったため、一定の基準を作成し、精査を行い、対応を行っている。

学祭内の進路相談会に関して、昨年度は担当教員の待機時間が長かったため、実施時間や教員配置等を検討、改善した。

2）大学案内Pathway発行

昨年度より、委員会において、また、事務局、委員長間で、相当な時間を割き、立案、業者選定、業者提示の内容案の検討を行い、今年度、大幅に内容刷新された大学案内を発行した。

3）学報発行

昨年度、広報効果を上げるため、写真が多くカラフルで読みやすい紙面に刷新し、配布先を見直したため、今年度は形式は微調整とし、さらに充実した紙面となるよう努めた。

4）大学説明会（オープンキャンパス）

午前、午後を通しての開催とし、例年の内容に加え、学生トークライブ、模擬授業を盛り込み、好評を得た昨年度の内容を継続し、スケジュールを一部改正して開催した。参加者は、632名であった。チラシを作成し、高校等に配付した。昨年度以上の参加者であったが、全体の流れはスムースで、参加者アンケートからもおおむね好評を得た。

5）公開講座開催

第1回「自分の命は自分で守ろう：減災の勧め」

講師：今井家子（本学教授）

参加者：45名

第2回「身体の深層をみる」

講師：阿保順子（本学学長）

「骨は語る」

講師：多賀谷昭（本学教授）

参加者：188名

第１回、第２回ともに、参加者アンケートの結果は良好であった。第２回は、退任記念講演として、２演題での開催となった。

6) 大学院案内パンフレット作成

大学院案内パンフレットを立案、検討し、新規に作成、発行した。

３　今後の課題

（１）喫緊の課題（懸案事項）

上記恒例行事の企画、実施。

オープン・キャンパスをはじめ、委員会所掌の行事において多数の参加者が得られたが、今後も大学の広報に努め、内容を検討し、滞り無く安全に行事を開催できるよう、企画する。

進学説明会等への教員派遣については、教員の他の業務を勘案し、精査を行い対応することとしているが、依頼件数が年々増加しているため、対応件数が減少しない。高校からの模擬授業や大学訪問の依頼については、できるだけ対応するが、業者による説明会等は、成果を検討しつつ引き続き精査を行い、効果的な対応を行うため、さらに、検討を進める。

（２）将来的な課題

大学ホームページ、特に、Q&A など、内容を充実させ、広報活動に努める。

近隣の病院内の大学関係掲示物、掲示方法について検討する。

第３節　教務委員会

１　所掌事項

・カリキュラムの進行にあたり必要な事項の検討

ガイダンスの計画

学生便覧・シラバスに関すること

時間割の作成

非常勤講師の任用

卒業研究の要綱の検討・ガイダンス・担当教員の調整

・履修に関すること

履修登録の確認（重複登録、未登録等、特に再履修の科目の多い学生
復学している学生について）

必要時、学年顧問と連絡を取り、学生の履修面の相談

編入生の履修相談

卒業判定・単位認定資料の確認作業

平成 26 年度編入学生の単位認定

２　活動と成果

（１）委員会活動

第１回：平成 25 年４月 11 日（木）

1) ガイダンスの状況報告

2) 卒業研究についての報告

3) 平成25年度教務委員会の運営体制と活動計画等について

平成25年度の課題の確認、年間スケジュールと副委員長の決定及び班分け

第2回：平成25年5月14日（火）

1) 選択必修科目・選択科目の履修登録状況の確認

2) 助産履修生の選択時期と教育スケジュールについて

3) 既修得単位の認定について

4) 平成26年度推薦入試合格者の入学前の学習課題について

第3回：平成25年6月11日（火）

1) カリキュラム評価の検討について

第4回：平成25年7月9日（火）

1) 休学願い

2) 学内演習針刺し事故の発生に対する対処方法規程の改定について

学内演習で発生した針刺し事故への対応として、これまでの対処方法規程・報告書および針刺し事故対応フローチャートの文言等を見直した。

3) 看護管理実習の先修条件に関する履修の可否について

第5回：平成25年9月10日（火）

1) 休学願い

2) 復学予定の学生の周知に関する教授会での報告について

3) 年度中途で卒業する学生の卒業判定について

4) 試験実施要領の一部改正について

5) 災害発生時における授業、実習の取り扱いについて

第6回：平成25年10月8日（火）

1) 卒業研究担当分野の変更について

2) 平成26年度シラバス・学生便覧の作成スケジュールについて

3) 災害看護論について

4) 退学願いについて

5) 平成26年度の非常勤講師について

6) 試験監督者の複数人数体制について

第7回：平成25年11月12日（火）

1) 卒業研究ガイダンスについて

2) 助産選択履修生選考について

3) 国際看護実習について

4) 平成26年度学年歴について

5) 平成26年度編入生単位認定基準について

6) 試験監督の複数人数体制について（アンケートの検討）

第8回：平成25年12月10日（火）

1) 平成 26 年度国際看護実習履修生選抜について
2) 平成 26 年度科目等履修生募集要項について
3) 授業科目の履修時期の変更について
4) 履修規程の改正について

第 9 回：平成 26 年 1 月 14 日（火）
1) 試験実施に関するアンケート結果の検討について
2) 文部科学大臣が指定する看護師学校等の変更承認申請について
3) 針刺し事故発生に関する対処方法規程の改正について
4) 授業科目変更に伴う休学処置に関して
5) 平成 26 年度時間割について

第 10 回：平成 26 年 2 月 12 日（水）
1) 退学願いについて
2) 卒業認定について
3) 平成 26 年度編入学生単位認定について
4) 県内大学単位互換履修生募集要項について
5) 履修時期の変更について
6) 履修規程の改正について
7) 試験の実施体制について

第 11 回：平成 26 年 3 月 11 日（火）
1) 国際看護実習履修者について
2) 休学願いについて
3) 平成 26 年度非常勤講師について
4) 平成 25 年度在学生の単位修得状況について
5) 卒業研究の学生配置について
6) 教務ガイダンスについて
7) 推薦入試合格者の入学前の課題に関して
8) 今年度の各班のまとめ

（2）成果

1) 推薦入試合格者の学習課題に関する評価と検討
・入試委員長・教務委員長・学年顧問でレポート内容の検討と学生へのアンケート結果から、これまでの方法を生かした上で、27 年度実施に向けた改善としてセンター試験受験を課すことも視野に入れることが検討された。

2) 試験実施に関する複数の試験監督者の配置に関する検討として、各教員への調査結果を基に、複数の監督者の配置を必要とする場合の体制を確保した。

3) 学年顧問とともに履修困難な学生の履修相談を継続することで、学生の履修状況の改善に繋がった学生もみられた。

3　今後の課題

1）平成24年度カリキュラム改正に伴う継続課題

・休学から復学する学生、単位不可となった学生等への対応について、カリキュラム変更による学生の不利益をできるだけ少なくする方向で検討していく。

2）教育課程を構成している4つの要素と授業科目との関連について明示する。

3）教育課程の評価システムに関する検討

・カリキュラム等に関する評価を的確に定期的にしていくことが基準協会からも求められている。評価システムを検討するとともに、カリキュラム改正に関する学生への教育効果をみるために、新カリキュラム生への調査を行い検討する必要がある。

4）学生の成績表の通知の仕方

・現在、年1回、新年度のガイダンス時に学生に対し、前年度の成績表を手渡している。保護者からは、卒業延期が確定するのを早い段階で知りたいという意見も聞かれる。成績の通知方法に関して、その時期や保護者にも伝えるか、どのような方法で提示するか等の検討をする必要がある。

5）学内演習針刺し事故の対処方法規程にフローチャートの位置づけを明示する。

第4節　実習委員会

1　所掌事項

1）実習の目標・計画・実施・評価に関すること

(1) 実習要項の作成

(2) 実習ローテーション表の作成

(3) 実習記録等に関する調整事項

(4) 実習の実施に関する調整事項

(5) 実習の教育評価に関する事項

2）実習施設との連絡調整に関すること

(1) 実習施設との連絡調整（各分野）のサポート

(2) 実習指導者会議に関すること

(3) その他実習施設との連絡調整に関すること

3）実習中における安全と事故防止に関すること

(1) 「個人情報保護」や「同意書」等への対応

(2) 事故発生時の対処方法

(3) 災害発生時の対処方法

4）その他

(1) 実習にかかる交通機関の調整に関すること

(2) 実習用学生ユニフォームに関すること

(3) 実習期間中に試用するバス、共用の学内の部屋、携帯電話の調整

2　活動と成果

1）委員会活動

回数	月．日	主な審議内容
1	4．10	本年度の年間計画と役割分担、25年度前期実習オリエンテーション日程、ローテーション、実習期間中の演習室・自習室・携帯電話の使用、実習の交通手段、交通費の後援会補助（調査結果報告と意見交換）
2	5．15	領域実習の状況、在宅看護実習の実習室、今年度の国際看護実習
3	6．12	3年次看護専門領域の実習要項作成の日程と追加資料、確認領域実習の状況、在宅看護実習の実習室、26年後期から27年前期実習のローテーション、実習の交通手段、交通費の後援会補助（実習委員会の提案）、インシデント報告、学生の感染症に関する検査の状況
4	7．10	領域実習・基礎看護実習Ⅰの状況、26年後期から27年前期実習のローテーション（決定）、実習の交通手段、交通費の後援会補助（各領域の意見の確認）、看護管理実習配置案、平成25年度前期26年度後期の実習配置方針、実習に伴う感染症対策、実習オリエンテーション日程
5	9．4	領域実習配置、後期実習期間の携帯の使用、自習室の使用、実習の交通手段、交通費の補助（今後の進め方）、学生の実習ユニフォームに対する評価アンケート
6	10．2	領域実習、看護管理実習、助産実習の状況、看護技術の評価に関するワーキンググループ、25年度防災訓練伝達訓練の担当、インシデントの報告
7	11．6	拡大実習委員会次第、助手・助教のFD研修の日程と内容の確認、平成26年度実習オリの日程、各領域実習の状況、インシデントの報告、伊那中央病院、昭和伊南総合病院の次年度配置と医師会看護学校との調整
8	12．4	助手・助教のFD研修、領域実習の状況、インシデントの報告
9	1．8	ユニフォームの学生アンケート、実習施設への交通手段交通費の補助（実習要項）、インシデント報告、基礎実習の準備状況、国際看護実習の選択、助手・助教のFD研修・拡大実習委員会最終確認
10	2．5	学生が実習で経験する看護技術、平成25年度のインシデントのまとめ、ユニフォームの検討状況、基礎実習の状況
11	2．19 2．26	＜助手・助教のFD研修＞の開催 看護過程の展開について指導内容や方法の情報交換を行い、学生指導に生かすことを目的に行った。 〈拡大実習委員会〉の開催 検討事項：25年度領域実習の報告と意見交換、後援会費の交通費の補助、インシデント年度集計報告、新カリキュラムにおける実習の準備状況、ユニフォームアンケート結果と対応、報告事項：助手・助教のFD研修報告など
12	3．5	文部科学省の変更申請スケジュール、国際看護実習の選抜と実習経費、在宅看護実習の状況、FD研修会の報告、後援会交通費補助に関する申請様式、新入生ユニフォームの対応、新年度ガイダンスの対応、担当業務マニュアルの追加修正のお願い。

2) 新たな取り組みによる成果

(1)実習要項に関すること

従来の要項に加えて、インシデント報告の様式、生協の学生保険、災害時ならびに感染症発症時における実習先での教員の対応マニュアル、26年度後半の実習では自動車使用に関する後援会の補助について、自動車使用の申請に関する様式を資料として加えることにした。また、資料の追加に対応するためリング形式のファイルに変更する。

(2) 後援会による実習に伴う交通費や宿泊費の補助について

助産や小児など近隣に実習場所がなく、遠方での実習（宿泊での実習）になると、移動のみならず生活する面でも、学生は車を使わざるを得ない状況にある。今後、こうした実習を余儀なくされる学生が増える可能性がある。平成26年度から改訂する実習要項の記載事項の変更や様式を作成した。後援会規定を変更し、自家用車で実習せざるを得ない場合の交通費の補助を依頼する。

(3)ユニフォーム評価のアンケート実施

ユニフォームに関する評価を全学年の学生を対象に調査を行った。結果としては、価格と吸湿性に課題があった。いくつかのタイプを取り寄せ検討した結果、平成26年度入学生より同じデザインで同系色の安価なものに変更することにした。また、在校生の追加注文は新入生のユニフォーム試着時に対応することにした。

(4) 実習期間に使用する共用の部屋、および携帯電話の調整

実習期間中に使用する共用の部屋（演習室・実習室）の予約、および携帯電話の貸し出しについて申し合わせ事項を決めた。共用の部屋については、サイボウズへの予約期間を設定すること、携帯電話については希望者を委員会で取りまとめることとし、どちらも重複した場合は希望する分野間で話し合うこととした。

3) 実習の運用に伴った成果

(1) 実習の目標・計画・実施・評価に関すること

① 実習要項の作成

5月下旬には、看護専門領域・助産・国際（3年）、11月下旬には共通項目・基礎看護Ⅰ（1年）基礎看護Ⅱ（2年）看護管理・在宅看護（4年）について周知し要項の作成を進め、教務ガイダンスおよび実習オリエンテーション時に配布した。

② 実習ローテーション表の作成

7月より原案を作成し、9月の委員会で最終決定した。実習配置に関してやむを得ない事情のみ学生が担当教員に申し出ることにした。

③ 実習記録用紙等に関する調整事項

実習記録用紙の印刷について各分野に期日の連絡を実施した。締め切り日は要項と同日とした。

④実習の実施に関する調整事項

3年生対象の看護専門領域実習オリエンテーションでは、実習に関する注意事項、交通費補助、駒ヶ根警察署による交通安全の講話を実施した。

(2) 実習施設との連絡調整に関すること

昭和伊南総合病院と伊那中央病院への実習依頼は、委員会が取りまとめて 1 月末に公文書を送った。なお、両施設は、上伊那医師会附属准看護学院と実習が重ならないように調整を行ったが、医師会では辰野方面に配置したものの、学生数が増えていることから、昭和伊南総合病院では、重複配置を解消できなかった。

(3) 実習中の安全と事故防止に関すること

実習中のインシデントを集計した。平成 25 年度の件数は 15 件であり、平成 24 年度の 15 件と同数であった。内容は、実習記録やメモの紛失が最も多く、単独ケアの実施、予約に関するトラブル、転倒・転落、水分・食事摂取によるトラブルなどであった。集計した結果を拡大実習委員会に報告、新年度のガイダンスで学生に周知することで、インシデント防止の活動を行なう。

(4) 実習施設のロッカーの鍵の管理について

昭和伊南総合病院の男子ロッカーの鍵は、その都度病院事務に返却する。昭和伊南総合病院の女子ロッカーと伊那中央病院のロッカーの鍵は、領域実習終了後回収し大学事務で管理することを確認した。

4)拡大実習委員会の開催

実習に関係するすべての分野教員による課題の検討や報告の場とした。35 名が参加し、今年度の実習報告、新カリキュラムの実習準備、交通費の補助、ユニフォームの変更、インシデント集計結果など確認した。

5)助手・助教の FD 研修会の開催

実習を担当する助手・助教 25 名が参加し、テーマである「各領域実習における看護過程の展開について、指導内容や方法について情報交換し、学生指導に活かす」について、グループに分かれ話し合った。自由な討議を促すため講師以上のファシリテーターの参加はしなかった。各領域の助手・助教が情報を共有し、学生の指導に活かすための学びとなった。

3 課題

1) 喫緊の課題

(1) 新カリキュラムの実習に関連した実習施設の確保やカリキュラムの調整など各領域の課題として取り組んでいく。

(2) 後援会による実習の交通費や宿泊費の補助について、26 年度後援会総会に提案し、後期の新カリ実習で自家用車への補助を可能なものとする。

(3) 看護技術の習得の達成状況を、学生が自己管理しながら、実習終了時の達成状況を知るためのシステムの検討を行う。

2) 将来的な課題

学生が領域実習を終了後した時点の学びのまとめにより、看護観や自己の達成課題を確認し、学生間で共有できる取り組みを大学として検討する。

第５節　入試検討委員会

１　所掌事項

(1)大学入試に関すること

(2)入試科目及び期日の選定に関すること

(3)合否判定の基礎資料に関すること

(4)入試の追跡調査に関すること

(5)入試のあり方に関すること

(6)その他入試に関すること

２　活動と成果

（１）委員会活動

開催回数	開催日	議　　題
1	平成 25 年 4 月 3 日(水)	1)今年度の活動計画について 2)各試験担当者の割り振りについて 3)推薦入学者への学習課題について 4)小論文の採点について
2	4 月 24 日（月）	1) 平成 26 年度学生募集要項《３年次編入学試験》記載事項の確認 2)入試に係る監督者等の配置割当について 3)入学試験における小論文の出題および採点について 4)推薦入学者への学習課題について 5)推薦入学試験における評点の見直しについて 6)本年度入学試験における問題作成及び採点グループへの入試検討委員の割当について
3	5 月 14 日（火）	1)平成 26 年度入学者選抜に関する要項の見直し 2)入学試験における小論文の採点者の選定について 3)編入学試験の作問の依頼 4)編入学試験の休止に係る協議の進捗状況について
4	6 月 27 日（火）	1)平成 26 年度学生募集要項について 2)入試業務配置表について 3)一般選抜入学試験（前期日程・後期日程）の小論文作成について 4)小論文採点について 5)編入学試験募集停止に関する協議状況について 6)オープンキャンパス（個別相談）への対応について 7)高校の教科書の見本購入について
5	7 月 25 日（月）	1)平成 26 年度学生募集要項の修正について 2)平成 26 年度大学入試センター試験の試験室と収容数について 3)オープンキャンパス時に行うアンケートについて 4)入試業務配置表の変更について
6	8 月 7 日（月）	1)「公立大学の入学者選抜についての平成 27 年度実施要項・実施細目（案)」及び「平成 26 年度「学生募集要項」作成にあたっての共通の注意事項について」の記載内容の確認 2)本年度入学試験における採点期間の周知について 3)平成 26 年度編入学試験日程及び実施組織表の確認
7	9 月 7 日（土）	・平成 26 年度編入学試験結果一覧に基づく合否判定について
8	9 月 10 日（火）	・推薦・社会人入学試験の採点方法について
9	10 月 16 日（月）	1)推薦･社会人入学試験の実施組織表 について 2)成績請求日等の日程について 3)旧教育課程履修者に対する経過措置について 4)監督説明会に出席しての報告 5)新テストの概要について

10	10月29日（水）	1) 推薦・社会人入学試験における面接試験の共通質問項目について 2)推薦・社会人入学試験における小論文の採点基準について 3)平成27年度大学入試センター試験における「新教育課程以外を履修した者」に対する経過措置について 4)長野県看護大学3年次編入学試験「募集停止」に係る想定問答集について 5)推薦・社会人入学試験における小論文部分と英語部分の配点について 6)推薦・社会人入学試験における採点時間と試験結果の取り纏めについて 7)平成26年度大学入試センター試験における特別措置受験生の申請について
11	11月13日（水）	・平成26年度推薦・社会人選抜試験結果一覧に基づく合否判定について
12	12月10日（火）	1)平成26年度大学入試センター試験　実施組織表 2)試験室別受験者数等一覧表について 3)監督要領附属資料について 4)報告事項等一覧表について 5)平成26年度大学入試センター試験　入試担当者連絡協議会（第2回）の報告について 6)受験上の配慮申請書について 7)大学入試センター試験の説明会について
13	12月17日（水）	1)試験実施組織表の再確認 2)試験会場の設定の確認 3)センター試験説明会（12/24）について 4)大学入試試験監督要領附属資料について
14	平成26年 2月12日（水）	1)平成27年度学部入学試験関係日程（案）について 2)一般試験（前期日程試験）における小論文の採点について 3)一般試験（前期日程試験）における面接試験の共通質問項目について 4)平成26年度一般入学試験の日程及び実施組織表について
15	2月28日（金）	1)一般試験（後期日程試験）における面接試験の共通質問項目について 2)平成26年度一般試験（前期日程試験）の結果および合否判定
16	3月14日（金）	1)平成26年度一般入学試験（後期日程）の合格者について 2)前期日程合格者の繰り上げ合格について 3)一般入試の追加合格について 4)推薦入学試験の地域枠について 5)過去の退学者の追跡調査結果について
17	3月27日（水）	・推薦入学試験における特別枠（地域枠）の設定について

（2）成果

1．推薦入学者に対する学習課題について、現在の方法では評価の付け方や返却方法等に課題があることから、センター試験のメリットとデメリットを精査して本学の前期試験で指定するセンター試験科目を課すことを教務委員会と運営委員会に提案した。

2．編入学試験「募集停止」に係る関係者向け「想定問答集」を作成した。平成28年度編入学試験「募集停止」について本庁（健康福祉部長）の同意を得た。

3．文科省の入学試験成績開示に関する通知を受け、「小論文」のより適正な採点方法として、平成25年度から「偏差値」から「素点」への移行を行い、その具体的な手続き等(PC操作等)を整備した。平成25年度の「小論文」採点・集計等滞りなく終了した。

4．県内大学・高校連絡懇談会(H25．9．20)に出席して、本学のアドミッション・ポリシーに基づく選抜方法について説明し意見交換した。

5．万全を期するため、大学入試センター試験事前説明会を12月中旬と1月初旬の2回実施した。

6．平成26年度大学入試センター試験では、昨年に続き「特別措置受験者」を5名(内、

別室受験3名)受け入れ、滞りなく終了した。

7．阿保学長・小林事務局長からの依頼を受け、編入学試験「募集停止」を見据えた特別枠「地域枠」の設定について素案をまとめた。

3　今後の課題

（1）喫緊の課題（懸案事項）

1．平成27年度大学入試センター試験では、新旧カリキュラム受験者が混在することからより周到な事前準備が必要である。

2．「特別措置受験者」の増加への対策(特に「別室受験」希望者に対する高校への要望)

3．平成28年度編入学試験「募集停止」による各選抜試験定員枠の設定

（2）将来的な課題

1．面接試験の配点化

2．試験結果の開示範囲の検討

3．推薦入学生の質確保対策(当該高校/教育委員会への依頼)

4．各選抜試験別追跡調査

5．推薦入学試験の出願資格における調査書の「全体の評定平均値4．0以上」の見直し（どのような学生を受け入れるかの全学的検討)

第6節　図書・紀要委員会

1　所掌事項

図書委員会：

①　図書の整備及び購入計画に関すること

②　図書館の運営に関すること

③　学内情報処理に関すること

紀要委員会：

①　紀要に関する事項について調査及び審議すること

2　活動と成果

（1）委員会活動

図書委員会：

8月と3月を除く毎月1回、計10回開催し、次の審議を行った。

1）図書館の年間開館計画の策定

2）雑誌の新規購読、購読継続、購読中止に関する検討

3）文献検索データベースの契約に関する検討

4）リポジトリの運用に関する検討

紀要委員会

8月と3月を除く毎月1回（3月は2回)、計12回開催し、次の審議を行った。

1）紀要作成スケジュール（原稿募集・査読・編集・印刷・発行)

2）紀要の原稿募集・査読・編集

3) 投稿・査読システムに関する検討

（2）成果

図書委員会：

1) 図書館を円滑に利用できる環境を提供した。

2) 図書や文献検索データベースに限られた予算を有効活用した。

3) 学位論文のリポジトリへの掲載に関する体制を整備した。

紀要委員会

1) 原稿募集、査読依頼、編集作業を行って、印刷準備を完了した。

2) 投稿・査読システムに関する検討を継続中である。

3 今後の課題

（1） 喫緊の課題（懸案事項）

1) 平成27年度から図書館職員の定員を削減するという県からの提示があったが、そうなると図書館業務を正常に行えなくなるので、外部委託を含めて対応を検討し、平成27年度予算請求時までに結論を出す必要がある。委託契約が図書や文献検索データベースの契約とリンクする場合があるので、それらを含めた費用対効果および自由度の確保について長期的な見通しが必要である。

2) 研究の活性化にはWeb上で閲覧できる雑誌を増やす必要があり、長期的には予算編成方法まで踏み込んだ大学としての対応が必要であるが、当面可能な対策として、予算を有効に活用する必要がある。

3) 紀要の位置づけに関する検討が必要である。本学の紀要のこれまでの運用では、査読は甘い学会誌よりもむしろ厳しいくらいだが、教員評価ではポイントが低いので、投稿するメリットは少ない。ポイントに合わせて査読を甘くするか、実態に合わせてポイントを増やすか、または紀要はやめて学会誌にするかしないと、原稿が集まらなくなる可能性がある。

（2）将来的な課題

予算の削減と雑誌の電子化の流れの中で、図書館に要求される機能が徐々に変化して来ており、それに合わせた対応が必要である。

1) 文献検索データベースの重要性の増加に伴い、契約料のある程度の値上がりと、新規業者の参入が見込まれるので、契約条件を精査して予算を有効に活用するとともに、多少の値上がりを見込んで予算を確保する必要がある。

2) 研究の活性化には、Web 閲覧できる雑誌を大幅に増やすことが必須であるので、研究費の一定割合をそれに充てるなど、予算の組み方を検討する必要がある。

3) 紀要の原稿を年複数回または常時受け付け、掲載論文をWeb上で早期発表できるようにすることを検討するべきである。早く掲載できれば投稿者にもメリットがある。

第７節　学生委員会

１　所掌事項

・学部及び大学院の学生の生活指導及び援助に関すること（新入生オリエンテーション合宿に関することを含む）
・学部及び大学院の学生の課外活動に関すること
・学部及び大学院の学生の健康管理、健康相談及びカウンセリングに関すること
・寄宿舎及び寄宿生に関すること
・奨学生に関すること
・学部及び大学院の学生の就職に関すること
・その他学部及び大学院の学生の厚生に関すること

２　活動と成果

（１）委員会活動

開催日	審議内容
第１回　4月16日	・平成24年度活動報告、保健師看護師助産師国家試験の結果　等 ・4/4-5学生生活ガイダンス、4/8-9新入生オリエンテーション合宿の実施報告 ・平成25年度活動計画と役割分担
第２回　5月14日	・平成24年度保健室年報の報告 ・平成25年度鈴風祭実行委員の報告 ・平成25年度新入生オリエンテーション合宿の振り返り　アンケート集計結果 ・平成25年度キャリアガイダンスについて
第３回　6月18日	・学生支援機構奨学金の本学卒業生の返済状況の説明を受け、在学生への指導を検討 ・キャリアガイダンスⅡについて ・国家試験対策について
第４回　7月16日	・平成25年度学生サークルの登録について ・キャリアガイダンスⅡの全体流れ、役割分担の確認 ・保健師助産師看護師国家試験出題基準の改正について ・すずらん寮生の災害対策について
第５回　9月17日	・国家試験支援の経過報告 ・キャリアガイダンスⅡの振り返り ・キャリアガイダンスⅢの日程確認
第６回10月22日	・学生支援機構主催メンタルヘルス研修の報告（坂元保健師） ・キャリアガイダンスⅢについて　講師の候補者の検討 ・平成26年度委員会予算要望内容の報告
第７回11月28日	・キャリアガイダンスⅢの準備状況の報告 ・授業中や試験中に体調不良となった事例について ・平成26年度新入生オリエンテーション合宿について（その１）
第８回12月17日	・キャリアガイダンスⅢ－①「進路希望調査」集計報告 ・国家試験模擬試験の成績報告 ・４年生の就職先決定に関わるアンケート内容の検討 ・国家試験特別補講について ・平成26年度新入生オリエンテーション合宿について（その２）
第９回1月21日	・キャリアガイダンスⅢ―②実施報告 ・平成25年度新入生オリエンテーション合宿について（その３） 　プログラムの確認とセッションの担当割り振り ・平成26年度版印刷物の確認（学生相談のしおり他）

第10回2月14日	・キャリアガイダンスⅢ　学生アンケート結果報告 ・4年次生の就職先決定に関するアンケート結果報告 ・平成26年度新入生オリエンテーション合宿の検討 準備会議にむけての確認 ・平成26年度キャリアガイダンスの計画について ・保健師助産師看護師国家試験合否確認と総括会議について
第11回3月18日	・平成26年度ガイダンス（学生生活について）について ・平成26年度新入生オリエンテーション合宿最終確認 ・平成25年度委員会活動報告（案）について

（2）定例の委員会以外で学生委員会が中心となった会議、活動等

学生生活ガイダンス	平成25年4月4-5日 各学年に対して学生生活ガイダンス 就職ガイダンス（4年生） 防犯講習会（1-2年） 消費者教育（1年）
新入生オリエンテーション合宿	平成25年4月8-9日、たつのパークホテル 参加者数：新入生87名、教職員40名
就職・キャリア支援関係	第6章第3節参照
国家試験特別補講	看護師　平成26年1月30日（木）13：00～16：50 太田教授、坂田教授、喬教授 保健師　平成26年1月23日（木）10：30～17：50 那須教授、北山教授、御子柴講師、原外部講師 助産師　平成26年1月9日（木）9：00～12：00 藤原准教授
次年度新入生オリエンテーション合宿準備会議	平成26年2月20日（木）10：30～12：00
保健師助産師看護師国家試験会議	平成26年3月25日（火）15：00～

（3）成果

・各学年に対する学生生活ガイダンスを学年顧問と協力して実施した。

・新入生オリエンテーション合宿をつつがなく実施することができた。平成24・25年度学生委員が中心となり、その他学内の先生方　名に準備～運営に協力いただいた。加えて、当日参加の先生方には、各セッションに参加していただく中で新入生とのコミュニケーションをとっていただいた。このように、学生委員だけでなく、全学的な協力体制のもとに実施することができた。

・キャリアガイダンスⅢ（3年次生対象）については、Ⅲ－②（看護管理者による講話）の学生の受け止めを把握する、およびⅢ－③の要望を把握するために、アンケートを行った。Ⅲ－②のアンケート結果からは、外部講師の話を真剣に受け止めていることや自分の進路を考える機会になっていることが把握できた。Ⅲ－③は、外部講師（就職情報会社マイナビからの派遣講師）による講演を初めて行った。講演内容は、「これから始まる“就職活動”」というテーマで、長野県だけでなく全国の傾向も踏まえた具体的な内容が話され、学生には好評であった。

3　今後の課題

（1）キャリアガイダンスⅡの内容・方法の検討

・キャリアガイダンスⅡについては、時期を早めて7月30日（火）に開催したが、1-3年次生の参加者が少なかった。1-2年次生は前期科目の試験が行われていた。平成26年度は、

創立20周年記念行事のうちの「卒業生シンポジウム」をキャリアガイダンスⅡ卒業生シンポジウムにあて、特に4年次生の参加を促すこととした。平成27年度以降については、検討が必要である。

（2）将来的な課題

・卒業生、修了生のキャリア形成支援部門との連携を図る。具体的には、卒業生の状況（特に、卒後1年目の適応状況、困難の内容、仕事に対する考え等）を把握して、在学中のキャリア支援の充実に役立てる。

第8節　ネットワーク推進委員会

1　所掌事項

(1)　流通に関すること

ア　コンピューターネットワーク（以下「ネットワーク」という。）のデザイン策定と執行

イ　ネットワークにかかわる予算策定と折衝

ウ　ネットワークにかかわる機器の購入・設置・設定

エ　ネットワークのセキュリティ対策

オ　ネットワーク関連機器の監視

カ　ネットワークに関するクレーム対応

キ　アウトソーシング業者の窓口

ク　メールアドレスの登録削除変更の学内側の窓口

ケ　メールアドレス管理

(2)　公開に関係すること

ア　「長野県看護大学ウェブサイト管理運営要領」および「ガイドライン」に示される業務

イ　大学ウェブサイト（広報関係）の制作主体

(3)　IT啓発に関係すること

ア　学内教職員（学生）向けの啓発活動

(4)　その他委員会が必要と認める事項

2　活動と成果

（1）委員会活動

	開催日	審議内容
1	4月1日	・副委員長の指名について
2	5月23日	・人事異動に伴う処理について ・サイボウズの管理について ・ヨミダス関連について ・SPSSネットワークライセンスについて ・アンチウイルスソフトNODについて ・ホームページの更新について ・DHCPサーバー（L２、L３）等の機器の一部更新について
3	7月26日	・SPSSネットワークライセンスについて ・DHCPサーバーなどの更新について ・領域別実習の全体オリエンテーションでの説明について ・学内の無線LANについて ・予算申請について ・委員会内の担当について

4	10月16日	・Wi Fiの電波状況について ・NOD, SPSSのインストールとアンインストールの操作について ・NAS（ネットワークアタッチメントシステム）の運用 ・DHCPサーバーの交換について ・委員会用デジタルカメラ他購入について ・サイボウズ10（100ユーザー版）へのバージョンアップについて ・3年生領域別実習履修者を対象にした携帯へのメール転送設定について ・新しいコピー機のネットワーク接続について
5	1月10日	・平成25年度末予定について ・Wi-Fiの電波状況について
6	2月24日	・SPSSを更新について ・DHTPサーバーについて ・年度末の事前整理の担当について ・新任教職員、新入生等へのメール等使用ガイダンスについて ・大講義室と図書館の無線LANのパスワード設定について ・大学院生室1から4の無線LANについて ・ESETの継続について ・委員会用デジタルカメラの購入に関して

（2）成果

1）多くの活動等で，現状のレベルを維持または向上させ，ITインフラや広報的な点からも学内外へ貢献することができた(HP, Eメール, ESET, サイボウズ, SSLVPN, SPSSライセンス，ドメイン管理等)

これらの項目の中でも下記は特筆すべき成果であった。

・DHCPサーバーの更新とこれによるIP数不足の問題の解消

・図書館および大会議室の無線アクセスポイントのパスワード化

・SPSSライセンス購入方法の変更を可能にしたことによるコストダウン

2）新任教職員および新入生へのガイダンスの実施

3）上記以外の個別ガイダンス

4）各種のネットワーク関係のトラブルへの対応

5）各委員のスキルと知識の向上

6）ＰＣに精通した事務職員の配属に伴い、危機的な状態にあった業務の正常化も継続された

3　今後の課題

（1）喫緊の課題（懸案事項）

1）知識や経験を持った教職員でないと，他の教職員から活動内容の難易度や人的コストが理解されにくい点。

2）講師以上の人員が3名となっており，委員会構成の変更や離職などにともなう異動により継続して委員会内に在籍する人員に過剰な負担がかかる仕組みとなっていること。

3）サイボウズのバージョンアップができない状態にあること

4）「.comドメイン」のメールの廃止または「ac.jpドメイン」への移行

5）GMOサーバーの移転または廃止

6）ホームページ管理運営要に定められている「ホームページの管理に必要な実務を大

学の事務局が代行」できる状態にないこと

7）各委員のレベルに合わせた継続的なスキルアップの仕組みや機会の構築

（2）将来的な課題

委員会活動を行えるスキルを持っている教職員が依然として少なく，これらの教職員が離職した場合，各種システムが管理できなくなり，崩壊する可能性がある．また、必要なスキルを身につけるのに一定の時間がかかる為，現状の委員会の任期２年制とのギャップがあり，正常な委員会活動の維持そのものが危ぶまれる．

第９節　FD 委員会活動報告書

1　所掌事項

・教員の教育能力開発に関すること
・研究能力の開発に関すること
・カリキュラム開発への協力に関すること
・授業改善に関すること

2　活動と成果

（1）委員会活動

第 1 回／平成 25 年 4 月 23 日(水)：平成 25 年度活動計画
第 2 回／平成 24 年 5 月 7 日（火）：平成 25 年度研修会（全 3 回）内容、日程検討
第 3 回／平成 24 年 7 月 10 日（水）：第 1 回研修会準備、第 2 回研修会内容検討
授業評価表の検討
第 4 回／平成 24 年 8 月 1 日（木）：第 1 回研修会準備、第 2 回研修会準備
第 5 回／平成 24 年 9 月 19 日（木）：第 1 回研修会振り返り、第 2 回研修会準備
第 6 回／平成 24 年 11 月 11 日(月)：第 2 回研修会振り返り、看護大学研究集会内容検討
第 7 回／平成 24 年 12 月 9 日（月）：第 3 回研修会準備、看護大学研究集会プログラム構成検討
第 8 回／平成 24 年 1 月 7 日（火）：第 3 回研修会振り返り、看護大学研究集会準備
第 9 回／平成 25 年 2 月 27 日（木）：看護大学研究集会準備、平成 25 年度新任教職員オリエンテーション内容検討
第 10 回／平成 25 年 3 月 20 日（木）：平成 25 年新任教職員オリエンテーション、平成 25 年度活動内容検討、授業評価の活用方法討議

（2）成果

①FD 研修会開催

以下の通り計 3 回の研修会を開催し、教職員の教育・研究の基盤となる情報の提供、課題提供を行い、教職員の教育・研究能力の向上に寄与したと考える。

＊第 1 回研修会：平成 25 年 8 月 7 日（水）

「中教審答申と教員個人」

講師：加藤鉱三教授（信州大学高等教育研修センター・高等コンソーシアム信州教育部会長）

参加者：学内 37 名。清泉女学院 4 名、信州大学松本キャンパス 7 名、信州大学工

学部18名、佐久大学14名。

備考：高等教育コンソーシアム信州関連大学と遠隔システムでつなぎ講演と質疑応答を共有した。

＊第2回研修会：平成25年9月26日（木）

「科研申請書の書き方」

講師：柄澤講師・長南助教・総務課白上課長補佐

参加者：23名

＊第3回研修会：平成25年12月20日(金)

「生徒の学びの姿　「進路指導の概要」「看護系希望生徒の様子」」

講師：中平智明教諭・池迫一行教諭（長野県赤穂高等学校）

参加者：44名

備考：研修に先立ち、FD委員、学生委員、入試委員等8名が赤穂高校を訪問し、授業見学を実施した（12月20日午前）

②平成25年度長野県看護大学研究集会開催

長野県看護大学特別研究、県内看護職との共同研究、および長野県看護大学看護実践国際研究センターの各部門・各プロジェクトから24演題が発表された。さらに本年度は新しい取り組みとして県内諸施設参加を募り、10題の看護研究が発表された。参加者は計86名であり、本学教職員・学生、県内看護職等の参加者にとっての交流と学習機会の提供となり、研究能力に寄与できたと考える。

③平成26年度新任教職員オリエンテーション

新任教職員を対象に、本学の理念、カリキュラム、システム、事務手続き等について各担当部署より説明を実施した。教育・研究活動、大学運営に関する活動について必須の情報を提供し、新任教職員の活動に役立てられたと考える。

3　今後の課題

（1）喫緊の課題（懸案事項）

①授業評価が行われていない科目（研究科目）評価についての検討が必要である。

②学生による授業評価に対する教員からのフィードバックが来年度（平成26年度）から開始予定である。授業評価を生かし、教員の教育能力向上のためのFD活動を充実させることが必要である

（2）将来的な課題

長野県看護大学5か年計画で述べられている、長野県看護大学研究集会の学会への移行のため、本年度から開始した県内看護職への発表機会の提供、参加の促しについて、さらに充実を図っていく必要がある。

第10節　評価委員会

1　所掌事項

自己点検・評価及び第三者評価（以下、「大学評価）という。）に関し、次の事項について審議し、取り組んでいる。

ア　自己点検・評価の企画及び実施に関する事項
イ　第三者評価への対応に関する事項
ウ　自己点検・評価の結果の公表に関する事項
エ　大学評価の結果に基づく活用及び改善方策に関する事項
オ　その他本学の大学評価に関する事項

2　活動と成果

（1）委員会活動

ア　自己点検・評価報告書の作成

平成24年度活動内容を取りまとめた自己点検・評価報告書を作成し、関係者及び教職員に冊子を印刷して配布するとともに、外部への公表として、本学ホームページに報告内容を掲載した。合わせて、次年度の報告書作成のための準備等を行った。

また、大学基準協会が実施した「長野県看護大学に対する大学評価（認証評価）」の指摘事項に対する対応について、平成２７年度に報告する必要があることから、関係委員会及び大学院部会等で検討を進めるよう指示を行った。

イ　学生による授業評価の見直し

①教授会への見直しの提案

第７回教授会において、過去の授業評価の検討状況及び大学基準協会からの指摘事項について説明し、学生による授業評価の見直しとともに、ワーキンググループ（WG）による検討を提案し、評価委員会及びＦＤ委員会の代表４名によるWGの設置について了承を得た。

②ワーキンググループによる検討

WGの開催日及び審議事項

回数	開催日	審議事項
１回	11月18日	学生の授業評価の全国の大学の取り組み状況を検証するとともに、見直しの方向性を確認した
２回	12月９日	大石グループリーダー作成の学生による授業評価の組織的取組体制の検討素案について、検討した。
３回	１月21日	第２回で検討された点を修正し、具体的な見直し内容について検討を重ね、２月の大学運営委員会に見直し案を提案することとした。
４回	２月18日	大学運営委員会に提案する見直し案について、最終的に確認を行った。

（2）成果

① 平成24年度活動の自己点検・評価報告書を刊行するなかで、大学や各委員会等の活動における課題等の整理が行われるとともに、課題等について教職員間での共有を図ることができた。また、報告書を公表することにより、看護大学の活動の取り組みや教育内容等の魅力を外部へ情報発信することができた。

② 学生による授業評価について、組織的な取組体制として、授業評価検討小委員会（仮称）を平成２６年度に設置してWG提案の見直しについて詳細な検討を行うこととなった。

3　今後の課題

（1）喫緊の課題（懸案事項）

平成23年度自己点検・評価を行ったところであるが、引き続き長野県看護大学評価規程第１２条に定められている「自己点検・評価」を計画的に実施していくことが求められている。

（2）将来的な課題

大学基準協会が指摘した改善事項について、長野県看護大学評価規定第15条に基づき改善に努める必要があり、平成27年7月末に基準協会に改善への取り組みの報告をするための課題が残されている。評価委員会では、授業評価の検証体制を組織的に取り組むための検討課題がある。

第11節　倫理委員会

1　所掌事項

① 申請のあった人及び人に由来する試料を対象とした研究計画の審査

② 実施後の報告書の審査

2　活動と成果

（1）委員会活動

1) 毎月第４火曜日に定例審査のための会議を、２月を除き、計11回開催した。
2) 再提出3件を含む計20件の研究計画について、定例会議において審査を行った。
3) 条件つき承認となった15件の研究計画（前年度申請分を含む）の修正再提出分について、随時審査を行った。
4) 研修会のビデオを閲覧に供し、研修に代えた。
5) 申請と審査を適正かつ円滑に行うための方法を随時審議した。

（2）成果

1) 申請の受付および審査を適正に行い、本学における教育、研究が倫理に沿って適正に遂行される条件を提供した。H25年度の定例審査に申請された案件の審査結果の集計を次の表に示す。

月	申請件数	承認	条件付き承認			決定延期	備考
			承認	未確定	取下げ		
4	0						活動方針の審議のみ
5	3		1		1	1	
6	1					1	
7	1		1				
8	4		2			2	
9	2		1			1	
10	3		2			1	
11	1		1				
12	3		3				
1	1		1				
2	0						会議は開催せず
3	1		1				
合計	20	0	13	0	1	6	この他に昨年度の条件付き承認2件を承認

2) 学内向けであった倫理審査に関するサイトを作成しなおして、大学HP上に公開した。
3) 依頼文書の書き方に関する解説を作成し、HPに載せた。
4) 審査を効果的に行うため、計画書の委員会指定様式を改良した。

3 今後の課題

（1） 喫緊の課題（懸案事項）

1) 審査で指摘される問題の大半は依頼文書や説明文書に関するものが占めている。依頼文書の書き方についての解説をHPに載せたが、ほかにも対策が必要である。

① 問題を指摘しても修正されないことが少なくない。この場合、申請者の文書作成能力に問題があると考えざるを得ない。大学院生に対しては教務部会、教員に関してはFD委員会で対応を検討する必要がある。

② 教員の指導が不十分な大学院生の申請が非常に多い。指導を十分受けないままの申請を許さないような制度上の対応が必要である。

③ 指導が不十分な大学院生の申請を減らすためのより根本的な対策として、アカデミックライティングに関する教員の能力と感受性の向上をはかる必要がある。質の高い論文の作成や外国語による論文発表を促し、研究者としての能力の向上をはかるような対策を大学として行う必要がある。

2) 政府指針は、終了時の報告以外に、疫学研究（指針第2の2の①）では3年に1回程度、臨床研究（指針第2の2の(9)）では毎年1回の経過報告を義務付けているが、対応措置が取れていない。規則と様式（学長への経過報告書）を整備する必要がある。

3) 条件付承認の場合の提出期限は、これまで指定していなかったが、あまり間が空くと記憶が薄れ審査に支障を来すので、次の月の定例審査までに処理できるよう、指定する方がよい。

（2）将来的な課題

1) 審査システムは随時点検が必要であるが、それ以外に、定期的に、研究倫理に関する各種の指針や他大学の制度を参照して、審査制度のあり方について見直すことが必要だと思われる。例えば、場合によって申請者や指導者の出席や待機を求めることができる制度があれば、審査や修正をよりよく行うことができよう。

2) 研修の効力の期限の検討

現在は研修の効力に期限を設けていないが、再研修時期について検討する必要がある。それと関連して、インターネットで提供されている研修サイトの利用や、独自の研修ツールの作成も検討する必要がある。

第12節 ハラスメント防止委員会

1 所掌事項

(1)ハラスメント防止のための啓発活動に関すること
(2)ハラスメントの相談に関すること
(3)ハラスメントに起因する問題の解決及び被害の救済に関すること
(4)その他ハラスメントの防止等に関すること

2　活動と成果

（1）委員会活動

1）第1回ハラスメント防止委員会：平成２５年４月１５日（月）

①　ハラスメント防止委員会における所掌事項の確認

②　平成２５年度の年間計画について

- 研修会の実施回数と時期および内容
- コミュニケーション促進月間の実施とその時期
- 相談員研修会の実施
- 相談員とハラスメント防止委員会との連絡会の開催

③　喫緊の課題（懸案事項）への対応

- ハラスメント対策ガイドラインの策定
- 外部委員の委嘱
- トラブルの早期把握と対応に関するシステムの構築

2）第2回ハラスメント防止委員会：平成２５年5月２８日（火）

①　平成25年度の年間計画について

- ハラスメント防止研修会の実施日と内容について
- コミュニケーション促進月間実施内容について
- 相談員とハラスメント防止委員との連絡会について

②　喫緊の課題（懸案事項）への対応について

- 外部への委員の委嘱について
- トラブルの早期把握と対応に関するシステムの構築
- ハラスメント対策ガイドラインの策定

3）第3回ハラスメント防止委員会：平成２５年6月１９日（水）

①　第１回ハラスメント防止研修会について（研修会の実施日と内容について）

②　コミュニケーション促進月間実施内容について（暑気払い・「コニュニケ―ション促進月間の標語」案について）

③　第２回ハラスメント防止研修会について（内部講師で実施する場合の具体案について）

4）第4回ハラスメント防止委員会：平成２５年7月１８日（木）

①　コミュニケーション促進月間の実施内容について（標語ポスター・暑気払いについて）

②　第１回ハラスメント防止研修会について

③　第2回ハラスメント防止研修会について

5）第5回ハラスメント防止委員会：平成２５年8月２２日（木）

①　コミュニケーション促進月間および関連行事（暑気払い）についての総括

②　第１回ハラスメント防止研修会について

③　「キャンパスにおけるハラスメント防止セミナー」についての報告

6）H25第１回ハラスメント防止・健康センター研修会：平成24年9月10日（月）

講師：稲葉一人（中京大学法科大学院教授）

テーマ：「大学等教育現場における紛争解決と、基本的面接とメディエーションの技法」

7）第6回ハラスメント防止委員会：平成２５年9月１９日（木）

①　平成２５年度第１回ハラスメント防止研修会の総括

② 第１回委員会における「喫緊の課題（懸案事項）」について

8）第７回ハラスメント防止委員会：平成２５年１０月２４日（木）

① 外部への委員の嘱託について

② トラブルの早期把握と対応に関するシステムについて

9）第８回ハラスメント防止委員会：平成２５年１２月４日（水）

① 外部への委員の嘱託について

② 長野県看護大学ハラスメント対策ガイドライン（案）の検討

１０）第９回ハラスメント防止委員会：平成２６年1月１５日（水）

① 長野県看護大学ハラスメント対策ガイドライン（案）等の検討

② 第２回ハラスメント防止研修会について

１１）第１０回ハラスメント防止委員会：平成２６年1月２９日（水）

① 長野県看護大学ハラスメント対策ガイドライン（案）の検討

② ハラスメントの防止等に関する規程の改正について

③ ハラスメントの防止等に関する規程運用細則の改正について

１２）第１１回ハラスメント防止委員会：平成２６年2月２４日（月）

① 第２回ハラスメント防止研修会について

② パンフレット「ハラスメント防止のために」の改定について

③ 委員会活動報告：来年度への喫緊の課題等について

１３）平成２５年度第２回ハラスメント防止研修会：平成２５年3月１７日（月）

講師：坂田憲昭（本学ハラスメント防止委員会）

松澤有夏（本学ハラスメント相談員）

テーマ：「長野県看護大学ハラスメント防止ガイドラインの解説」

１４）第１２回ハラスメント防止委員会：平成２６年3月１７日（月）

① パンフレット「ハラスメント防止のために」パンフレットの改訂について

② 第２回ハラスメント防止研修会の総括

（2）成果

1）新規採用者及び学生へのガイダンス

平成２５年度の新規採用教職員及び新入生を含めた学生を対象とし、年度始めのガイダンスにおいて、ハラスメント及びその防止に関する本学の対応を説明した。

2）コミュニケーション促進月間の実施

ハラスメントの防止を目的として、学生及び教職員間のコミュニケーションを促進させるために、例年通り７月をコミュニケーション促進月間と定め次のような活動を行った。教職員から標語を募集しそれを載せたポスターを学内の諸処に掲示して、コミュニケーションの促進を呼びかけた。また、教職員同士のふれあいと親睦を図るために暑気払いを実施した。この催しには４４名が参加し、相互の理解を深めるための一助になった。

3）ハラスメント防止研修会の実施

教職員への研修会を本年度は２回（平成２５年９月および平成２６年３月）実施

した。第１回は稲葉一人先生（中京大学法科大学院教授）を講師に招き、「大学等教育現場における紛争解決と、基本的面接とメディエーションの技法」と題した研修会を行った。実習期間中ではあったが４０名が参加し、講演後のアンケートに回答した全参加者から肯定的な評価が示された。第２回は本学ハラスメント防止委員長と松澤助教（ハラスメント相談員）の２名が講師を担当し、２１世紀職業財団主催研修会での研修内容であるハラスメント事例について、参加教職員によるグループワークとその解説をおこなった。これに加えて、来年度４月から施行予定である「長野県看護大学ハラスメント防止ガイドライン」の周知と理解を図ることを目的とし、その解説も合わせて行った。３６名の参加者があり、アンケート回答者の約９割から良好な評価を得た。

４）「長野県看護大学ハラスメント対策ガイドライン」の制定および関連規程の改定

本学の教職員及び学生に対して、ハラスメントの防止に関して認識すべき事項を示し、その申立てと問題解決のための手続き等の基本的な取り組みについて周知することを目的として、「長野県看護大学ハラスメント対策ガイドライン」の作成と制定を行った。昨年度の委員会では、ハラスメントに関する社会的な認識の変化等に対応するため、それらについての概念を整理し本学の「ハラスメントの防止等に関する規程」を改定した。しかしながら、実際に問題が生じた場合に採られるべき具体的な手続き方法や、それらに関連する問題の処理方法が不明確で、整合性の検証も十分ではなかった。ガイドラインには、ハラスメントの防止等に関する規程やその運用細則に定められたハラスメントの定義、相談体制、問題解決の流れまでを体系的に整理し記載したことで、防止はもとより、トラブルが生じた場合に初期段階から迅速に対応できるシステムを構成員が共有し、快適な学生生活、職務環境が構築できるものと考える。また、これに合わせて、上記の規程やその運用細則についての改定も行った。

５）ハラスメント防止に関するパンフレットの改訂

「長野県看護大学ハラスメント対策ガイドライン」の制定と、「ハラスメントの防止に関する規程」および「ハラスメントの防止等に関する規程運用細則」の改定に伴い、ハラスメントの防止に関するパンフレットの改訂を行った。具体的には、問題解決のための手続きついての具体的な記述を追記し、これまでの記載内容についても理解がより容易になるように見直しを加えた。

３　今後の課題

（１）喫緊の課題（懸案事項）

今年度における喫緊の課題は、「ハラスメントの防止に関する規程」に基づいて、ハラスメントの防止と問題解決についての基本的な取り組みを周知し、具体的な行動の指針となるハラスメント対策ガイドラインの策定を行うことであった。これについては、関連する規程の改定等も含めて完了し来年度から運用されることになった。今後は、このガイドラインを実際に運用する際に必要となる書式や書類、および具体的なマニュアル等の整備を急がねばならない。例えば、ガイドラインに規定するハラスメ

ント事案への対応を申し立てる際の手続きに要する書式や、ガイドラインに則したハラスメント相談マニュアルの改訂が挙げられる。

本学は単科の大学であることから教職員及び学生の数が比較的少なく、相互間の心理的関係が複数学部等を有する他大学に比べて、より近くて深い傾向にあると思われる。このことが、委員会による調査の過程やその結果、あるいは問題解決の方法や措置等の公正性にについて、謂れのない疑義を生じさせる可能性のあることも否定できない。新たに制定されたガイドラインでは、ハラスメント防止委員会の判断によって設置される「ハラスメント調停委員会」及び「ハラスメント調査委員会」に、外部からの委員を加えることができるとした。これが前述の公平性についての疑義を払拭するために、十分であるかを考える必要があるかもしれない。場合によっては、「通知」や「調整」による問題解決の際に、その主体となるハラスメント防止委員会へ外部委員を参加させることについても検討すべきであるかもしれない。

今年度もハラスメントの防止を目的として、教職員や学生等の本学構成員間の相互理解を図るために、7月をコミュニケーション促進月間として、啓発に関するポスターの掲示や親睦会（暑気払い）を行った。これは前委員会から引き継がれたものであるが、本年度の委員会ではこれまで以上に有効な方策について検討したが、新たな試みを実施するには至らなかった。是非とも来年度以降に検討を加えて頂きたい。

（2）将来的な課題

現行のハラスメントへの対応システムでは、発生した事案の解決に軸足をおかざるを得ない。それが起きないようにするにはどうしたら良いか、そのための方策を探り実践していくことが、ハラスメント防止委員会の将来的な課題であろうか。

また、本学にはメンタルヘルスケアへの対策に関連して、健康センターが設置されている。ハラスメントを含めたトラブル発生の防止と効果的な解決には、健康センターと委員会との連携も、ひとつ有効な手段であるのかもしれない。プライバシーの保護や守秘義務の尊重はもちろんであるが、こうしたことを含めてシステム全体を評価していくことも必要ではないだろうか。

第13節　動物実験委員会

1　所掌事項

(1)　動物実験計画書の申請及び審査に関すること
(2)　動物実験の実施状況及び結果に関すること
(3)　施設等及び動物実験の飼養保管状況に関すること
(4)　自己点検・評価に関すること
(5)　動物実験の適正な実施のための必要事項に関すること
(6)　その他、学長の諮問に関すること
(7)　実験動物管理者、動物実験実施者及び飼養者を対象として教育訓練のための講習会を開催する

2　活動と成果

（1）　委員会活動

1）第1回動物実験委員会：平成25年5月14日

・動物実験委員会の各種書類の再確認

・動物慰霊碑の設置完了の報告

・平成25年度動物実験従事者の教育訓練講習会の日程

・研究機関における動物実験に係る体制整備の状況等に関する調査 の回答内容

・動物実験施設　飼育・保管マニュアルの検討

2）第2回動物実験委員会：平成25年8月29日

・動物実験計画書の審査（4件）

・動物愛護団体からのアンケートについて

・動物慰霊祭の日程等について

3）第3回動物実験委員会：平成25年11月29日

・動物慰霊祭の振り返りと課題

・動物実験委員会関係の情報の本学webサイトでの公開内容について

・動物実験施設　飼育・保管マニュアルの検討

4）第4回動物実験委員会：平成26年1月21日

・年度末までに作成し、委員会で確認する資料について

・平成26年度の事業等の計画を検討

・動物実験委員会関係の情報の本学webサイトでの更新方法について

・教員の退職に伴う実験動物管理者、飼養者の変更に関して

5）第5回動物実験委員会：平成26年3月10日

・動物実験室設置変更承認申請書の確認と委員会承認

・飼育保管施設設置変更承認申請書の確認と委員会承認

・平成25年度　動物実験報告書の確認

・平成25年度　使用実験動物数・動物実験等の成果について報告書の確認

・平成25年度　動物実験に関する自己点検・評価報告書の確認と委員会承認

・平成25年度　各委員会等の活動報告書の確認と委員会承認

・平成25年度　実験動物の飼養及び保管に関する記録の確認

・平成26年度　動物慰霊祭実施日の検討

（2）成果

1）動物実験計画書の審査と承認（4件）

2）平成25年動物実験に係る教育訓練の実施：受講者4名

3）平成25年度動物実験に関する自己点検・評価報告書の作成及びその公表

4）動物慰霊祭の実施

5）動物実験等に関する情報のwebサイトでの公表

6）実験室の整備（エアコン1台の追加設置）

3　今後の課題

（1）喫緊の課題（懸案事項）

1）動物実験施設　飼育・保管マニュアルの検討の継続とこの完成

（2）将来的な課題

1）研究機関等における動物実験等の基本指針への適合性に関する自己点検・評価の結果について第三者による検証の実施の必要性について

第14節　感染症対策委員会

1　所掌事項

（1）　本学におけるインフルエンザ、ノロウィルス等の感染症発生の予防と対応に関すること

（2）　感染症に関する情報の収集、調査に関すること

（3）　その他感染症に関すること

2　活動と成果

（1）委員会活動

1）委員会での審議、感染症予防活動等

年月日	内　容
25.4	ガイダンスにおいて学生に本学における感染症対策を周知
25.4	風疹について学生に注意喚起、予防対策指導（掲示及びメール配信）
25.5	検査委託機関からのB型肝炎抗体検査における検査試薬変更及び判定基準変更の通知を受け、本学におけるB型肝炎ワクチン接種基準を変更。第3回教授会へ報告。
25.10	感染性胃腸炎について学生に注意喚起、予防対策指導（掲示）
25.10	インフルエンザについて学生に注意喚起、予防対策指導（掲示）
25.11	インフルエンザ予防策（予防接種）について学生及び教職員に情報提供（掲示）
25.11	インフルエンザ、感染性胃腸炎について学生及び教職員に注意喚起、予防対策指導（メール配信）
26.1	インフルエンザについて学生及び教職員に注意喚起（メール配信）
26.1	長野県インフルエンザ注意報発令を受け、学生及び教職員へ注意喚起（メール配信）
26.2	伝染性単核症について学生へ注意喚起、予防対策指導（掲示）
26.2	輸入麻疹の増加について学生及び教職員に注意喚起（メール配信）

2）感染症発生時の対応（感染者の把握・情報収集と対応）

年月日	対　応
25.10	帯状疱疹の学生1名に保健指導
25.12	帯状疱疹の学生1名に保健指導
26.1	インフルエンザの教員1名に療養指導及び保健指導実施
26.1	インフルエンザの学生1名が出席停止、保健指導実施
26.1	ノロウィルスによる感染性胃腸炎の疑いの学生1名が出席停止、保健指導実施
26.1	ノロウィルスによる感染性胃腸炎の疑いの学生1名が出席停止、保健指導実施
26.1	ノロウィルスによる感染性胃腸炎の疑いの学生1名が出席停止、保健指導実施
26.2	伝染性単核症の学生1名に療養指導及び保健指導
26.2	インフルエンザの教員1名に療養指導及び保健指導実施
26.3	インフルエンザの教員1名に療養指導及び保健指導実施

（2）成果

1）本学における感染症対策を大学ホームページに掲載、周知した。

2）インフルエンザ及びノロウィルスによる感染性胃腸炎の疑いのため 4 名の学生が出席停止となった。また教員 3 名がインフルエンザを発症した。発症した者及びその接触者に対する保健指導と、大学全体に向けての注意喚起・予防啓発を行った。その結果、重症化した者や感染拡大・集団感染はなかった。

3）帯状疱疹や伝染性単核症と診断された学生 3 名に対し、療養指導と保健指導を行った。その結果、新たな感染拡大はなかった。

3　今後の課題

・学生及び大学院生・教職員に対して、有症状時の受診や出席停止等について引き続き周知徹底していく。

・新興感染症等が出現した時には、新たな対応の検討が必要である。

第 15 節　コンソーシアム運営推進委員会

1　所掌事項

委員会の所掌事項を定めた学内規定等はない。設置の目的は,「コンソーシアム信州に加盟している本学が、これに関する活動を学内外で実施する際，円滑に行われる様にすること」と委員会は認識している. 事実上の暫定的な所掌事項として下記の項目が挙げられる.

(1)　コンソーシアム信州の教育部会に関すること

ア　教育部会への出席と，本学窓口としての協議

イ　推進チーム会議への出席と，本学窓口としての協議

ウ　遠隔授業等の発信および受信（受講）に関する事項

エ　ピア・メンター育成合宿に関する事項遠隔授業の受信に関する事項

オ　長野県内大学単位互換制度の，本学窓口としての協議

カ　その他、コンソーシアム信州の活動に関すること

(2)　コンソーシアム信州の学生教育部会に関すること

ア　学生教育部会への出席を本学学生委員会に要請

(3)　コンソーシアム信州の推進チーム会議に関すること

ア　推進チーム会議への出席と，本学窓口としての協議

(4)　その他委員会が必要と認める事項

2　活動と成果

（1）委員会活動

1）第１回委員会：平成２５年５月７日（火）

・役割分担

・本学発信の遠隔授業について

・K3 茶論について

2）第２回委員会：平成２５年７月２日（火）

・平成２５年度教員免許更新講習会の受け入れについて

・遠隔講義機器類の補修契約の検討

3）第３回委員会：平成２５年９月３日（火）

・ピア・メンター育成キャンプの公募と実施

・野辺山セミナー「信州の強みを生きる」の公募と実施

4）第４回委員会：平成２６年３月４日（火）

・次年度の国際看護学Ｉの遠隔講義の応援体制について

・次年度のK3茶論（リレー講義）の担当：今井教授の承諾済

・中講義室４のパソコンのOS（Windows XP）のバージョンアップについて

（2）成果

1）遠隔授業（宮越准教授）の発信を成功させ、学外からの受講者も多く、学内外に貢献することができた。

2）ピア・メンター合宿に本学学生が参加した。

3）Ｋ３茶論や連続講演会「発達障害のある学生への支援」など計４回を受信した。

4）FD委員会との共催で「中教審答申と教職員個人」に関する研修会を行った。

5）野辺山セミナー「信州の強みを生きる」の実施に協力した。

6）教員免許更新講習会を行った。

7）教務ガイダンスに学生への遠隔授業を案内した。

3　今後の課題

（1）喫緊の課題（懸案事項）

学生などへの案内などを通じて、受講者を増やせる必要がある

（2）将来的な課題

高等教育コンソーシアム信州の存続について

第16節　教員選考基準検討委員会

1　所掌事項

看護大学の教員採用・昇任に関する規定や基準の見直しについて調査審議し、改正案を検討する。（長野県看護大学教授会規程第９条第２項に規定する臨時の委員会）

2　活動と成果

（1）委員会活動

回	開催年月日	主な審議内容
第１回	25年 6月 5日	・今年度の検討事項の整理
第２回	25年 6月 26日	・研究科委員会の組織の検討 ・教員選考の際の投票方法について検討
第３回	25年 7月 17日	・研究科の教員の学内審査に関する内規の検討 ・教員の採用又は昇任の際の投票方法に関する内規の検討
第４回	25年 8月 22日	・研究科の教員の学内審査に関する内規の検討 ・教員の採用又は昇任の際の投票方法に関する内規案決定
第５回	25年 9月 5日	・研究科委員会規程改正案決定 ・研究科の教員の学内審査に関する内規の本文案決定 ・研究科教員の学内審査に関する内規の別紙様式の検討

第6回	25年 9月24日	・教員の採用又は昇任の際の投票方法に関する内規案の確認 ・研究科委員会規程改正案の確認 ・研究科教員の学内審査に関する内規案の決定
	(25年 9月27日)	大学運営委員会へ ・教員の採用又は昇任の際の投票方法に関する内規案 ・研究科委員会規程改正案 ・研究科教員の学内審査に関する内規案 を説明
	(25年10月 1日)	教授会で「教員の採用又は昇任の際の投票方法に関する内規案」を協議
	(25年11月 5日)	研究科委員会で「研究科委員会規程改正案」「研究科教員の学内審査に関する内規案」を協議
	(25年11月19日)	研究科委員会へ改正案及び内規案に対する意見への対応案を説明し、それぞれ承認された

（2）成果

研究科委員会規程改正案、研究科教員の学内審査に関する内規案を作成し、研究科委員会の承認を経て、平成25年11月19日に施行した。

第17節　研究科委員会教務部会

1　所掌事項

長野県看護大学看護学研究科教務部会は，看護学研究科博士前期課程，博士後期課程の大学院教育に関する以下の内容を扱う．

（1）看護学研究科カリキュラムに関すること

1）カリキュラムの検討と作成

2）非常勤講師について（依頼と決定）

（2）看護学研究科単位取得に関すること

1）博士前期課程・後期課程の大学院生の単位取得状況の確認

（3）看護学研究科科目履修に関すること

1）大学院科目履修の決定

2）科目履修生の選考

（4）看護学研究科院生の休学，退学，長期履修などに関すること

1）休学・退学願，長期履修願，奨学金返済免除者の審査

2）長期履修希望者の選考

（5）看護学研究科修士論文，博士論文の審査及び学位授与に関すること

1）修士論文審査基準と審査方法の見直し

2）修士論文発表会の進行

3）博士論文審査委員選出

4）博士論文審査基準の見直し

5）博士論文発表会進行

6）博士論文審査結果公表の手続き等

（6）上記1～5に関わる学則の検討

（7）看護学研究科院生の大学院生活全般に関すること

1）年1回の大学院生と教務部会委員との話し合い（大学院生の要望や意見を聞く会）の開催

2　活動内容

平成 25 年度は以下の４点を研究科教務部会の課題として取り組むこととした。

1．博士後期課程満期退学者の学位授与に関する見直し

2．博士課程のシラバスの作成

3．平成 24 年度から引き続き、博士前期課程の審査に関する見直し(基準協会からの指摘)

4．平成 24 年度から引き続き、博士前期課程修士論文審査基準の明確化

（1）委員会活動

回数	日程	時間	議題および検討事項
1	4月11日	13:00～14:30	①退学・休学願審議、②平成25年度大学院教務部会年間計画 ③博士後期課程　研究計画書提出、④博士論文指導教員選出 ⑤学外者による修士（博士）論文指導・審査委員の服務取扱い（案） ⑥自己点検評価の基準協会指導事項、⑦博士前期課程における論文審査方法の検討（修正案）
2	5月14日（火）	13:00～14:30	①休学願審議、②平成25年度前期博士論文研究計画発表（案）、③平成25年度修士論文研究題名・論文指導及び審査委員（案）、④長野県看護大学学位規程の一部改正、⑤平成25年度ティーチングアシスタント実施計画、⑥博士前期（修士）課程の論文指導及び審査（新旧対照表）、⑦自己点検評価の基準協会指摘事項、その他）①学位規則の一部を改正する省令の施行等（通知）、②博士前期課程における論文審査方法の検討、③学外者による修士（博士）論文指導・審査委員の服務取扱い
3	6月11日（火）	13:00～14:50	①博士学位論文公表原稿（案）の検討、②学位規則一部改正への対応、 ③ティーチングアシスタント実施計画、④修士論文審査方法の見直し、⑤学外者による論文指導及び論文審査委員内規（案）、⑥博士論文研究計画書の審査
4	6月28日(火)	13:00～14:50	①修士課程(成人看護学)退学願審議 ②平成25年度CNS認定審査申請に関する審議
5	7月9日（火）	15:30～16:30	報告）博士学学位論文要旨と審査結果の要旨の印刷、配付 ①休学願審議、②平成25年度前期　博士論文審査委員（案）、③リポジトリーによる学位規則一部改正の対応（学位論文の公表）、④満期退学者の博士論文の申請及び学位授与、⑤論文審査方法の見直し、⑥大学院生との話し合いの日程調整、
6	9月10日（火）	15:30～16:30	報告）小児看護学CNS学外演習中の自動車事故について ① 平成25年度ティーチングアシスタント実施状況、② 博士前期（修士）課程および博士後期（博士）課程の論文指導と論文審査、③休学願い審議、、④ 学年の途中における卒業に関する細則（参考資料）、⑤ 平成25年度博士論文審査結果および最終試験結果報告
7	10月10日（火）	16:00～17:10	報告）小児看護学CNS演習中の事故に関するその後の報告、②博士課程の専門分野変更願い(看護管理から里山看護学へ) ①)休学願い審議、鈴木氏の来年度前期の修学で満期となることの確認. ②博士論文研究計画書(早出氏)の提出並びに審査委員（案）、③平成26年度大学院授業担当科目について、④)論文審査方法の見直しについて、⑤「長野県看護大学大学院研究科の教員の学内審査に関する内規、 その他）①長期履修希望者の申請条件の確認、②大学院生との話し合い10月10日（木）
8	10月15日(火)	13:00～14:30	③臨時教務部会　博士論文研究計画書提出に伴う審査委員選出
9	11月11日（月）	16:30～18:00	報告）大学院生との話し合いについて内容確認。 ① 平成26年度大学院授業担当科目（案）について（資料2）、教員の退職、非常勤講師の変更に伴い、当該科目の担当教員変更について協議。② 平成26年度大学院非常勤講師（案）について ③ 平成26年度　大学院学年歴について。「前期」「後期」の呼称を「前学期」「後学期」に統一。 ④ 論文審査方法の見直しについて、⑤ 平成26年度大学院学生便覧の改正について
10	11月26日（火）	14:55～15:05	①平成25年度後期　博士論文（里山看護）審査願提出されたため、前期の審査委員と同じ委員を割り振ることを確認。
11	12月10日（火）	13:00～17:00	報告）精神看護専門看護師コースの認可申請で指摘事項があり、修正資料を提出している旨。 ①休学願について審議。②平成25年度修士論文審査日程（案）について、③平成26年度大学院授業担当科目（案）について⇒家族看護論（柳原清子教授）、看護理論（内田教授）
12	平成26年 1月15日（水）	10:00～11:20	①平成25年度修士論文発表会について。6名の提出が見込まれている。②平成26年度大学院授業担当科目（案）について。 ③平成26年度大学院非常勤講師、④平成26年度大学院科目等履修生募集要項、⑤平成26年度大学院研究生募集要項（案）について、⑥平成26年度県内大学単位互換履修対象科目（案）について、⑦論文審査方法の見直しについて、教員の学内審査基準が決定し、博士前期課程の論文指導と審査の見直し案を次回の運営委員会諮ることを確認。
13	平成26年 1月21日（火）	13:00～14:10	①平成26年度大学院入学願書提出者における長期履修希望状況、② 長期履修希望者の申請条件の確認について ③ 修士論文指導及び審査について
14	平成26年 2月13日（火）	10:00～11:30	① 平成25年度修士論文発表プログラム（案）、② 大学院修了予定者単位取得状況について、 ③ 平成26年度時間割（案）について、④ 平成26年度大学院シラバス（案）について、⑤ 博士前期（修士）課程論文指導及び論文審査について、⑥ 平成26年度大学院授業担当教員について、⑦ 平成26年度県内大学単位互換履修対象科目（案）について
15	平成26年 3月10日（月）	10:00～10:50	① 博士前期課程（修士課程）の修得単位認定について、② 博士後期課程の修得単位の認定について、 ③ 平成26年度大学院生名簿並びに研究室名簿、④平成26年度大学院教務ガイダンス、⑤ 博士論文指導教員について、⑥ 平成26年度教員の退職等にともなう指導教員の選定、⑦ 平成26年度大学院時間割、⑧ 平成26年度大学院非常勤講師について

3　委員会活動の概要と成果

1．長期履修制度について

平成 24 年度から導入された長期履修制度は、受験希望者に周知できており、90%以上が長期履修制度を利用している。しかし、授業開校日の日程調整が困難となっている。長期履修を採用していない院生は夜間の授業を希望する者が多く、定期的に休暇を取って昼の授業を希望する者との調整が困難である。

2．学外指導教員による論文の指導・審査における服務規定の明確化

論文指導における学外指導教員が論文指導および審査にあたる場合の、基本的な服務を明確化した。

3．学位論文のリポジトリー(インターネットによる学位論文公表)

図書館の協力で平成 26 年度より実施することが可能となった。

4．満期単位取得退学者の学位取得の手続きについて

基準協会より満期単位取得退学者が再入学の手続きを経ずに学位論文を提出し、学位を取得した場合に「課程博士」として扱うことが不適切であるという指摘を受けた。これを受けて、学位規定 3 条 6 項を一部削除し、在籍のまま論文指導を受けられるよう配慮する方針とし、研究科委員会の承認を得た。

5．TA(ティーチングアシスタント)実施計画について

各領域から提出される TA 実施計画については、実際との乖離が著しいため実績に伴って個別に対応することが提案され、研究科委員会で承認された。

6．科目履修生、大学院研究生募集について

毎年、応募者が減少し、研究性については応募者がゼロであることから、今後の課題となった。入試部会との連携が必要である。

4　課題

1．博士前期課程（修士）論文審査方法の適切性

他大学のものを参考にしながら検討を重ね、原案を作成することができた。しかし、研究科委員会の組織再編制が行われている段階であり、実用に至っていない。今後、現実的に運用可能であるかという点を含め、研究科委員会で継続的に審議する必要がある。

2．博士前期課程（修士）論文審査基準

教務部会で検討を重ね、CNS コースと修士論文コースと分けて審査基準を示した。新研究科委員会で審議され、承認を得てからの実施となる。

3．博士後期課程論文審査基準

明確な審査基準が示されていないため、他大学のものを参考に研究科教務部会で案を作成した。新研究科委員会でさらに検討を重ね、実用可能な段階に精選する必要がある。

第18節　研究科委員会入試部会

1　所掌事項

(1) 入試科目及び期日の選定に関すること
(2) 合否判定の基礎資料に関すること
(3) 入試の追跡調査に関すること
(4) 入試のあり方に関すること
(5) その他入試に関すること

2　活動実績と成果

(1) 部会の開催

平成25年度には11回の部会を以下の日程と内容で開催した。

第1回4月10日（水）

① 部会構成員と役割分担（募集要項の作成・点検,入試従者予定表の作成、広報活動、ホームページの教員業績更新）を決定した。

② 25年度年間計画を協議・決定した。

③ 博士前期課程の入学試験科目（英語）について、4月の研究科委員会で諮り、今年度募集要項に反映させることを決定した。

④ 今年度の広報活動について①大学院パスウェイに掲載すること、広報交流委員会と協働し、大学院入試に関するパンフレットを作成することを決定した。

第2回4月23日（火）

① 平成26年度募集要項案について、日程、受験科目、時間を確認し、受験科目に加え出題内容を加筆することを決定した。

第3回5月17日（金）

① 大学院広報活動について、本学受験案内用パンフレットの送付先を決定した（修士課程500部、博士課程400部を配布、印刷は2000部）を検討し加筆情報を決定した。

第4回6月12日（水）

① 博士前期課程・後期課程募集要項原稿の最終点検作業を行った。

② 大学院入試従事者の対応の周知徹底ができてきたため、入試従事者説明会は先だった集団説明会は行わず、初めて入試業務を行うものへの事前個別説明、実際に行う際の前日・当日説明で対応することとした。

第5回　入試部会（資格認定審査会）　9月26日（木）

① 事前資格審査判定を行った。（前期課程1名，　後期課程該当者なし）

② 受験予定者を確認し、受験予定者数の確保が厳しい実態にあるという認識を共有した。

③ 入試役割と当日業務の最終確認を行った。

第6回　入試部会（判定入試部会）　10月19日（土）

合格者が、博士前期課程2名、博士後期課程1名であると部会で判定し、判定研究科委員会に提案することにした。

第7回　入試部会　12月19日（木）

① 2次募集の事前資格審査判定を行った。（前期課程1名，　後期課程該当者なし）

② 2次募集入試配置表作成担当者、出題作成依頼・回収担当者などを確認した。

第8回　入試部会　1月16日（木）

① 受験予定者を確認した。（受験予定者：前期課程2名，後期課程2名）

② 2次募集入学試験配置表および入試作業担当者を決定した。

第9回　入試部会（判定入試部会）1月26日（土）

2次募集入試結果の判定資料に基づき合否判定を行った。これに基づき研究科委員会に提案することとした。

第10回入試部会　2月13日（木）

① 入試関連日程について協議した。一次試験を博士前期・後期別の日に行っているが、同日同時に実施することが可能であると考えられ、これを反映したH27年度入試関連日程（案）を研究科委員会に提案することとした。

第11回入試部会　3月18日（火）

① 今年度実施した入試科目と入試時間の妥当性、入学試験実施要領の作業手順の適切性について協議した。入試実施要領の文言などの具体的な修正を行った。さらに、合否判定作業とシステムについて、公平性、公正性の観点から振り返りを行い、問題なく今年度入試が実施できたことを確認した。

② 大学基準協会の指摘事項で今期対応した課題、残った課題を確認し、残った課題（アドミッションポリシーの作成）については次期への課題として申し送ることとした。

(2) 受験者および入学者の確保

過去10年間の受験者・合格者の推移を表に示した。

今年度の試験は一次募集（前期10月19日，後期10月18日）・二次募集（前期・後期1月25日）に実施した。前期課程の受験者は4名、合格者は4名であった。後期課程の受験者数は3名、合格者は2名であった。前期課程の合格者数は平成23年度以降10名を下回り、広報活動の工夫をおこなってきたが充分な受験者確保には至っていない。ことに、今年度の受験者・合格者数は最も少なく、今年度の入学定員（16人）に対する充足率は25%となった。後期課程においては、2名の合格者を確保し、入学定員（4人）に対する充足率は50%であった。

博士（前期・後期課程）入学試験実施状況

H26.3.28

年度	区分	前期課程（定員16名）			後期課程（定員4名）		
		1次	2次	計	1次	2次	計
26	出願者数	2	2	4	1	2	3
	受験者数	2	2	4	1	2	3
	合格者数	2	2	4	1	1	2
	入学者数	2	2	4	1	1	2
25	出願者数	2	7	9	1	3	4
	受験者数	2	7	9	1	3	4
	合格者数	2	6	8	0	3	3
	入学者数	2	6	8	0	3	3
24	出願者数	6	5	11	4	3	7
	受験者数	6	5	11	4	3	7
	合格者数	4	4	8	3	2	5
	入学者数	4	4	8	3	2	5
23	出願者数	6	3	9	2	3	5
	受験者数	6	3	9	2	3	5
	合格者数	5	3	8	0	1	1
	入学者数	4	3	7	0	1	1
22	出願者数	13	3	16	3	2	5
	受験者数	13	3	16	3	2	5
	合格者数	12	2	14	1	1	2
	入学者数	12	2	14	1	1	2
21	出願者数	8	3	11	3	0	3
	受験者数	8	3	11	3	0	3
	合格者数	6	2	8	3	0	3
	入学者数	6	2	8	3	0	3
20	出願者数	9	5	14	3	2	5
	受験者数	9	5	14	3	2	5
	合格者数	7	5	12	2	1	3
	入学者数	7	5	12	2	0	2
19	出願者数	10	6	16	2	1	3
	受験者数	10	6	16	2	1	3
	合格者数	9	5	14	1	0	1
	入学者数	9	5	14	1	0	1
18	出願者数	10	5	15	1	1	2
	受験者数	10	5	15	1	1	2
	合格者数	10	5	15	1	1	2
	入学者数	10	5	15	1	1	2
17	出願者数	9	2	11	3		3
	受験者数	9	2	11	3		3
	合格者数	8	2	10	3		3
	入学者数	8	2	10	3		3

(3)「公正・公平な入試システムの構築」および「入試科目と判定方法の適切性」の検証

博士前期課程の専門科目評価の得点率の算出と判定基準の数値化、面接の基準などを見直し、独立性、公平性、公正性が確保されていることを確認した。

公正・公平な入学試験実施を目指し、従事する教職員の入試意識の向上および実施手順の周知徹底のため従事者への説明を周知徹底した。その結果、入試出題・採点・判定のミスやトラブルなど追跡すべき事項はなく、受験者からの判定結果に関する開示の申し出もなかった。

3. 今後の課題

喫緊の課題

(1) 博士前期課程・後期課程のアドミッション・ポリシーの研究科委員会への提案

大学基準協会の指摘事項として「大学院のアドミッション・ポリシー」の明確化を努力課題として指摘された。これへの対応として、入学試験募集要項の掲載できるようアドミッション・ポリシーを作成する必要がある。

(2) 博士前期課程についての定員について協議しつつ、受験者数を増やすための方略の具体化と受験者の確保が急務である。

長期的課題

(1) 公正・公平な入学試験実施と定期的な入試判定の適切性の検証

公正・公平な入学試験のための教職員意識の更なる向上のために、入試説明会の実施等を継続していく必要がある。今年度入学試験に関して、試験科目と科目別判定基準の適切性の検証、総合判定方法に関する検証を 3 月の入試部会において実施した。この検証は 2 年連続しておこなった。今後も継続し、大学組織における入学試験の定期的検証システムとして構築していく必要がある。

第６章　学生生活及び学生への支援

第１節　学生支援活動

１　学生支援会議の開催

１）所掌事項

学生支援に関し、継続的な支援を要する事例について、報告、対応方法を検討する。

構成：学生委員会委員長、学年顧問、保健室保健師、学生支援員、就職支援員、臨床心理士、ハラスメント相談員、健康センター長

２）活動と成果

（１）活動

全体会議　　平成 25 年 8 月 9 日（金）13：15～15：00

内　容　・平成 24 年度自己点検・評価報告書における活動報告内容の説明

・学生生活支援、学生相談等の状況報告と共有が必要な事項についての確認

・実習委員会より（平成 25 年度後期―平成 26 年度前期専門領域実習のローテーションについて）

（２）成果

各学年の学生の状況を共有することができた。

３）今後の課題

（１）喫緊の課題（懸案事項）

・学年顧問の役割と活動については、教授会で確認されてきている（平成 23 年度自己点検・評価報告書 p 82-83）が、大学組織内の位置づけが明確になっていない。

（２）将来的な課題

・現状の学生支援会議は、関係者が一堂に集まる形式であるため、学生個々の対応方法を話し合う場としてはふさわしくない。学生個々の対応と関係者の連絡は、必要性に応じてその都度行われている。数年間の取り組みを総括して、学生支援会議の位置づけを再検討する必要性がある。

２　学年顧問の設置

１）学年顧問の役割

学年顧問は、学生にとって身近な存在として学生の学習面や生活面の相談にのり、学年の進行とともに同じ学年を４年間（編入学生は２年間）担当し、学生をサポートする教員である。

学生相談に対するニーズに迅速に対応でき、学年顧問の教員が１人で抱え込まず、相談しながら対応できる体制とするため、各学年２名の教員が担当する。

学年顧問の主な仕事と本学の関連部署/担当者との連携に関して以下のとおり。

2）学年顧問の主な仕事

（1）学生の生活面の困りごとに関する相談

（2）学生の学習面の相談（履修単位の修得、実習に関すること、休学・退学等）

（3）学生の健康面に関する相談

（4）学生の進学･就職､国家試験の準備等に関する相談､看護師国家試験不合格時の支援

（5）その他　奨学金の推薦状の作成等

（6）学生支援会議に出席する

3）学生からの相談に関して学年顧問が連携する部署/担当者

学生の相談内容や問題となっている事項に応じて、就職支援員、学生支援員、保健室保健師、健康センター長、卒業研究担当教員、科目担当教員、教務・学生課と連絡をとる。また、必要に応じて学生委員長、教務委員長に報告・相談をする。

4）学生の保護者との連絡のとり方

学生の保護者と連絡をとることが必要な場合は、その理由を明らかにし、学生支援会議や関係者会議等で合意の上で行う。問題の性質、緊急度、学生と保護者との関係性等を考慮して、保護者と会う人（学年顧問、単位認定者、学生委員長、学部長、健康センター長他）を選定する。緊急対応を要する場合は、その事由に応じて学部長、健康センター長等と相談して対応する。いずれの場合も、保護者との連絡経過を書面で学部長ならびに学生委員長に報告する。

5）在学期間が４年を超えた学生は、原則としてそれまで担当していた学年顧問が任務を継続する。

平成 25 年度学年顧問

学年	１年生	２年生	３年生	４年生
顧問の	竹内准教授	屋良准教授	井村准教授	阿部准教授
氏　名	寺島講師	御子柴講師	宮越准教授	松本講師

３　新学期の学生生活ガイダンスの実施

（1）新学期の学生生活ガイダンスの実施

授業開始前のガイダンス期間に、各学年に対して学生生活ガイダンスを行った。

（2）防犯講習会の開催

授業開始前のガイダンス期間に駒ヶ根警察署の警察官を講師とする防犯講習会を実施した。一人暮らしを始める１年生、すずらん寮からアパート生活となる２年生を主たる対象とした。

第２節　キャリア形成支援

１．在学時における進路支援

１　支援の概要

１）就職・進学に関する支援

（１）キャリアガイダンスの実施

（２）進路希望調査の実施

４月：求職票の提出（４学年）　　12月：進路希望調査票の提出（３学年）

（３）個別面談の実施　　７月：卒業予定者全員を対象

（４）求人票・募集要項等の整備

（５）「進路の手引き」（キャリア支援ハンドブック）の作成

全学年および全教員に配布

（６）求人等に関する来訪の対応

（７）職場体験（インターンシップ）・職場見学等の紹介や斡旋

（８）各種進路関係情報の提供（合同説明会の開催等の情報提供、進路情報誌の配布など）

（９）大学院等の募集要項の整備

(10) 大学等からの教員募集要項等の整理

(11) 面接試験等の対策

面接ビデオや関係図書の整備、希望者に個別練習など

(12) 公務員・養護教諭等の受験対策

県内市町村の保健師採用予定調査、公務員対策講座等の参加斡旋、参考図書等の整備

２）その他

（１）大学・短大就職支援担当者会議等への参加

（２）キャリア支援のあり方について見直し・検討

２　支援の実施状況・結果

１）キャリアガイダンスの実施状況

＜一年次＞＜編入一年次＞

キャリアガイダンスⅠ　５月20日(月)13:00～14:30

ねらい	○大学における進路選択や就職活動等についての基本的な知識を身につける。 ○本学の卒業時に取得できる免許や資格等を理解する。 ○卒業生の進路動向等により卒業後の進路の可能性を考える。 ○卒業後の進路を見通すことによって学習意欲を高める。 ○学内外の様々な進路選択に関するサポート資源を理解する。
内　容	○本学の進路指導体制や卒業生の進路先など基本的な事項の説明を行う。

＜全学年対象＞

キャリアガイダンスⅡ（学年縦割りトーキングと卒業生シンポジウム）

7月30日(火)13:00～16:10

ねらい	○在学生どうしの交流を図るなかで進路意識を育む。下級生にとっては上級生の体験を聞く機会であり、上級生はこれまでの学生生活を振り返り自分の成長に気づいて次のステップを考える機会とする。 ○複数の卒業生による就職活動や職業生活に関してのシンポジウムを行い、看護職のキャリア形成について考えを深める。
内　容	○全学年から成る縦割りグループを作成し、少人数での話し合いを行う。 ○卒業生による体験等を踏まえたキャリア形成のためのシンポジウムを行う。 シンポジスト：中原景（県立阿南病院 看護師卒業後１年目） 北原佳奈（伊那市役所 保健師卒業後２年目） 伊藤珠香（相澤病院　助産師卒業後３年目）

＜三年次＞＜編入一年次＞

キャリアガイダンスⅢ　4月5日(金)9:30～9:45 教務ガイダンス内において進路説明

① 12月10日(火)14:40～16:10　② 1月20日(月)13:00～13:40

③　1月27日(月)13:00～14:30

ねらい	○学生一人ひとりの希望や個性・特性に応じた進路先を考えるための情報提供を行うとともに、卒業学年を控えての就職活動に必要な知識や態度を養う。
内　容	① 就職活動のための情報収集や施設見学・職場体験等のポイント、行政保健師（公務員一般試験）および養護教諭（教員採用試験）等について、就職先の選び方などについての指導を行う。 担当者：安田貴恵子（本学教授）、小田和美（本学准教授）、 唐澤淳（就職支援員） ② 就職先として可能性のある職場の管理者等を招いて、医療現場の状況や県看護大学生への期待などについて話をしていただく。 講師：石田洋子（昭和伊南総合病院看護部長）、 北條治美（箕輪町総務課人事係長・保健師） ③ 就職情報会社の社員を招いて、履歴書（エントリーシート）の記入や筆記試験、面接試験等就職活動の実際を知るとともに身だしなみ、挨拶、言葉遣い等社会人としてのマナーについての具体的な説明をしていただく。 講師：吉田優太（(株)マイナビ キャリアサポート課 課長）

＜四年次＞＜編入二年次＞

キャリアガイダンスⅣ　4月5日(金)10:25～10:45

ねらい	○卒業学年として、就職活動に必要な知識や手続きを確認する。
内　容	○求職活動の手順、履歴書(エントリーシート)の書き方、面接試験や小論文等の筆記試験への対応、求職票の提出についてなど、具体的な就職活動を進めるにあたって必要となる事項の説明を行う。

2）卒業生の就職・進路状況

（1）県内の医療機関等への就職者数は 48 名（62.3%）であり、昨年度に比較すると県内への就職比率は若干下降したが、近年の傾向として県内就職率は高水準を維持している。

（2）県内外の都市部の大規模病院や大学病院等への就職を希望する者が、依然として比較的多く見られた。

（3）県内市町村等の保健師は２名が採用されたが、県外と合わせても行政保健師は３名であり昨年度に比べて減少している。養護教諭については、義務・高校とも採用者がなかった。

＜平成２５年度卒業生の就職・進路状況＞

学部卒業生79名(9月卒業生の4名を含む)　　平成26年3月31日現在

(1) 就　職 (77名)　　[看:看護師、助:助産師、保:保健師 教:教員]　(単位 名)

長野県内						
医療機関・行政機関等	看	保	助	教	他	計
信州大学医学部附属病院	10					10
長野市民病院	7					7
伊那中央病院	5		1			6
佐久総合病院	4					4
飯田市立病院	2		1			3
市立大町総合病院	1		1			2
篠ノ井総合病院		1	1			2
諏訪赤十字病院	1		1			2
国保浅間総合病院	1					1
長野県立こども病院	1					1
丸の内病院	1					1
松本協立病院	1					1
相澤病院	1					1
諏訪中央病院			1			1
長野県立木曽病院	1					1
こころの医療センター駒ヶ根	1					1
昭和伊南総合病院	1					1
健和会病院	1					1
辰野町		1				1
松川村		1				1
計	39	3	6	0	0	48

長野県外						
医療機関・行政機関等	看	保	助	教	他	計
金沢大学附属病院	2					2
中津川市民病院	1		1			2
釜石病院	1					1
茨城西南医療センター病院	1					1
新潟市民病院	1					1
済生会新潟第二病院			1			1
魚沼基幹病院	1					1
高崎総合医療センター	1					1
戸田中央産院			1			1
慶應義塾大学病院	1					1
社会福祉法人うらら	1					1
北里大学病院	1					1
川崎幸病院	1					1
横浜市立大学附属病院			1			1
横浜市立市民病院	1					1
湘南鎌倉総合病院	1					1
東名厚木病院	1					1
静岡県立こども病院	1					1
静岡市立静岡病院	1					1
順天堂大学医学部附属静岡病院	1					1
聖隷浜松病院	1					1
刈谷豊田総合病院	1					1
坂文種報徳會病院	1					1
三重大学医学部附属病院			1			1
大阪南医療センター	1					1
飯塚病院	1					1
御嵩町		1				1
計	23	1	5	0	0	29
県内・県外 合計	62	4	11	0	0	77

(2)進 学(2名)

福島県立医科大学大学院看護学研究科			1
飯田女子短期大学助産学専攻			1

(3)その他 (0名)

3　課題及び方策

(1)卒業生の就職先として、県内における定着率を高める必要がある。とりわけ、県内の地域中核病院や小規模自治体(行政保健師)への就職について、関係機関等との連携を図りつつ学生の関心を高めるような方途を引き続いて探っていく。

(2)就職先での早期退職を防ぐことや卒業生の生涯にわたるキャリア形成に資するため、卒業後における看護職としての適応状況などの実態を把握するなどして、より充実したキャリア支援活動を実施するための方策について、卒業生・修了生キャリア形成支援部門との協力関係のなかで取り組んでいく。

(3)県内公立学校等における養護教諭の採用は厳しい状況が続いているが、地域貢献の意味合いとともに学生の進路保障の観点や県教育委員会の意向等も踏まえながら、採用数の増加につながるような支援体制について具体的な対策を模索していく。

(4)三年次におけるキャリアガイダンスは、現場の管理者から具体的な話がきけて進路意識を高める効果があったが、より医療現場との連携を深めつつインターンシップ等の参加を促進するための対策も検討する必要がある。

2．国家試験の対応状況

1　国家試験への支援の概要

1）模擬試験の実施

看護師３回、保健師２回、助産師２回実施

本学教員に対して模試結果等の関係資料を情報提供

2）国家試験受験手続説明会の開催

11月　願書の記入について指導、願書の取りまとめ、願書提出(郵送)

２月　受験票の交付及び受験に関する留意事項等の説明

3）国家試験受験関係業務

受験に必要な書類（願書、修業見込書等）の整備・点検および提出

4）免許申請手続き説明会の開催

２月　免許申請書類の配布及び留意事項等の説明

5）合格発表後の進路指導

合否状況の確認　不合格者に対する支援

6）既卒不合格者の受験手続や模試等の支援

7）国家試験対策補講の実施（1月に実施）

8）国家試験受験対策ガイダンス（７月と11月に実施）

9）受験参考書籍等の整備と斡旋

2　国家試験に関する実績

1）保健師、助産師及び看護師の国家試験については、平成 23 年度の助産師国家試験（９名の受験者のうち３名が不合格）を除けば、ここ数年、本学新卒者は全国平均よりも概ね高い合格率を維持していて、本年度も全国平均を上回る合格率であった。

＜平成 25 年度国家試験の合否状況＞

	総数				新卒				既卒			
	出願者数	受験者数	合格者数	合格率	出願者数	受験者数	合格者数	合格率	出願者数	受験者数	合格者数	合格率
第100回保健師	79	79	71	89.9%	79	79	71	89.9%	0	0	0	－
第97回助産師	11	11	11	100.0%	11	11	11	100.0%	0	0	0	－
第103回看護師	76	76	76	100.0%	74	74	74	100.0%	2	2	2	100.0%

3　課題及び方策

国家試験対策については、受験者全員の合格を目指して、受験ガイダンスや公開模擬試験および特別補講などの今までの取り組みを更に発展・充実させていく。とりわけ、助産師の受験者に対しては充分な受験準備が出来るように配慮していく。また、既卒の不合格者に対しても受験手続きの相談に応じるとともに公開模試の受験促進などの支援を継続する。

第３節　保健厚生

1　概要

保健室では、学生が心身共に健康で充実した学生生活を送れるよう健康診断や健康相談、傷病等緊急時の応急処置などを行っている。設備は、ベッド、応急セット、衛生用品、薬品棚、書類保管庫、寝具入れ、車椅子１台、血圧計、身長体重計、視力計などがある。保健室には、常勤保健師１名が配置されている。必要に応じて学校医へ相談し、また学内の健康センター（活動内容は第２章第５節に記載）や学生支援員（看護師）、学年顧問と協力・連携して対応している。

○保健室の役割・業務内容

①傷病者の応急処置に関すること

②健康診断、健康管理に関すること

③保健指導及び健康相談に関すること

④教育研究活動中の災害を補償する保険に関すること

⑤感染症予防や予防接種に関すること

⑥学校行事等の救護

⑦その他保健に関すること

2　実績

（1）保健室利用状況

平成21年度から25年度の保健室利用状況を表1に示す。相談内容は、体調不良、怪我、月経に関すること、友人関係、進路、精神的問題に関することなど多岐に渡っている。体調不良や怪我等の状況により、受診同行や保護者への連絡などの支援も行った。

また、平成25年度にはインフルエンザ及びノロウイルスによる感染性胃腸炎の疑いのため4名の学生が出席停止となった。発症した学生等や接触者に対する保健指導、大学全体に向けての注意喚起・予防啓発を行い、その結果、重症化した学生や感染拡大・集団感染はなかった。

表1　保健室利用状況

区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
健康相談（身体）	222	399	277	190	168
健康相談（精神）	31	77	42	81	68
相談（その他）	85	111	96	71	69
合計	338	577	415	342	305

（2）定期健康診断の項目と受診状況

定期健康診断の項目は、①身体測定（身長と体重）、②視力測定、③血圧測定、④胸部X線検査（間接撮影）、⑤血液検査（貧血）、⑥尿検査、⑦内科診察の8項目である。平成21年度から25年度の定期健康診断の受診状況（学部生）を表2に示す。

定期健康診断の結果、各項目に異常が見られた者や自覚症状のある者には、受診指導や保健指導を行っている。精神的不調の兆候が見られる者には、個別面接を実施し、必要に応じて定期的な面接、健康センターへの紹介、受診支援などを行っている。

また、入学年度の定期健康診断ではB型肝炎抗原・抗体検査及び小児ウィルス感染症（麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎）抗体検査を併せて実施している。B型肝炎抗原・抗体検査でいずれも陰性であった者に対しては、予防接種を実施している。小児ウィルス感染症抗体検査で陰性及び陽性低値の者には、予防接種を指導（勧奨）している。

表2　定期健康診断受診状況（学部生）

	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
健診対象者	347	340	339	337	339
受診者数（全項目を受診した者）	336	326	332	336	336
受診率（%）	96.8	95.9	97.9	99.7	99.1

3　今後の課題

学生相談の窓口としては、保健室、健康センター、学生顧問など複数整備され、学生は相談者を選択することができる。相談対応者は、学生支援会議や個別のカンファレンス等による情報共有や支援の連携が必要であり、その際には本人の同意やプライバシー保護に十分留意することが重要である。

また、心身の健康問題が学業に及ぼす影響は大きく、特に科目試験が重なる時期や実習期間などには食事の乱れや睡眠不足から体調を崩しやすい。激しい月経痛などから失神する事例もあるため、学生が日ごろからセルフケアできるよう指導していく必要がある。

第４節　修学資金等

（1）修学資金

事務局で取り扱っている奨学金は「日本学生支援機構奨学金」、「長野県看護職員修学資金」、「上伊那広域連合看護師等修学資金」の３種である。本学独自の奨学金はない。

(1) 日本学生支援機構奨学金

大学全体の貸与率は 39.9%、学部生では 44.1%で概ね半数の学生が利用している。採択率は、追加割当があるため、ここ数年は 100%である。

第一種奨学金の貸与を受けた大学院生で、在学中に特に優れた業績を挙げた者は、「長野県看護大学大学院奨学金返還免除候補者選考規程」に基づき、返還免除候補者として　日本学生支援機構に推薦している。

(2) 長野県看護職員修学資金

大学全体の貸与率は 4.4%と低い。これは、貸与対象者を「免許取得後（若しくは大学院修士課程修了後）、直ちに県内の返還免除対象施設で就業する意思があること」としているためと考えられる。返還免除対象施設は以下のとおり。なお、採択率は 100%である。

＜学部生＞

・病床数 200 床未満の病院　・精神病床を 80%以上有する病院　・過疎地域にある病院（木曽病院）　・診療所　・重症心身障害児施設　・母子健康センター（助産師に限る）　・地域保健法に規定する特定町村（保健師に限る）　・訪問看護ステーション（上記免除施設で３年以上の実務経験が必要）

＜大学院生＞

・医療法第１条の２第２項に規定する医療施設　・母子健康センター　・地域保健法に規定する特定町村　・訪問看護ステーション（医療施設で３年以上の実務経験が必要）

(3) 上伊那広域連合看護師等修学資金

上伊那広域連合が、地域医療再生基金を原資として平成 23 年度に創設した制度で、貸与対象者は、将来上伊那地域において看護職員の業務に従事しようとする者である。

地域を上伊那地域に限定していること、将来返還義務が生じない他の貸与制度との併用ができないことから、貸与率は 1.7%と低い。

2． 実 績

各修学資金の貸与実績については、以下のとおりです。

日本学生支援機構奨学金貸与状況（平成25年度実績）

学年 / 種別	学部生					大学院生		合計
	4学年	3学年	2学年	1学年	計	修士課程	博士課程	
第一種	16	17	16	11	60	2	0	62
第二種	14	21	12	21	68	0	0	68
併 用	2	3	5	5	15	0	0	15
計(A)	32	41	33	37	143	2	0	145
学生数(B)	76	80	83	85	324	24	15	363
貸与率(A/B)	42.1%	51.3%	39.8%	43.5%	44.1%	8.3%	0.0%	39.9%

長野県看護職員修学資金貸与状況（平成25年度実績）

学年 / 種別	学部生					大学院生		合計
	4学年	3学年	2学年	1学年	計	修士課程	博士課程	
貸与者数(A)	4	5	4	2	15	1	0	16
学生数(B)	76	80	83	85	324	24	15	363
貸与率(A/B)	5.3%	6.3%	4.8%	2.4%	4.6%	4.2%	0.0%	4.4%

上伊那広域連合看護師等修学資金貸与状況（平成25年度実績）

学年 / 種別	学部生					大学院生		合計
	4学年	3学年	2学年	1学年	計	修士課程	博士課程	
貸与者数(A)	1	1	0	4	6	0	0	6
学生数(B)	76	80	83	85	324	24	15	363
貸与率(A/B)	1.3%	1.3%	0.0%	4.7%	1.9%	0.0%	0.0%	1.7%

（2）授業料の減免

1）概要

長野県看護大学条例では、経済的理由により授業料を納付することが困難な者、休学等の事情がある者に対して、授業料を減免することができるとしている。

また、希望する者について、年４回（４月、７月、９月、１月）に分納して授業料を納付することができるとしている。

2）項目に係る実績

平成２５年度においては、経済的理由により納付が困難と認められた者１４名（東日本大震災関連１件含む）に対して、授業料の減免を行った。

平成２４年度は１７名、２３年度は１５名、２２年度は１１名、２１年度は１０名に対して減免している。

第５節　サークル活動及び大学際

（１）サークル活動

正課の授業以外に行う課外活動を行うサークルは、平成25年度は20団体である。

サークル活動は学生の自主性を尊重しつつ、サークル顧問として教員が関わりサークル活動の相談・支援を行っている。

平成25年度団体・サークル等一覧表

団体・サークルの名称	構成人数	活動内容等	顧問
軽音楽サークル	76	ライブ（新入生歓迎、学園祭等）、ライブに向けての練習	御子柴講師
茶道サークル	12	外部講師による茶道のお稽古、学祭でのお茶会	有賀助教
書道サークル	20	外部講師による書道、ペン習字	屋良准教授
ほがらかふれあい農園サークル	56	作物や花の作付・栽培	太田教授
わらわらサークル	36	全国医学生ゼミナール参加	屋良准教授
美術・文芸サークル	19	絵を描く、文を書く、文化祭の出展	御子柴講師
Talk&Nurse	17	医療英会話を用いたディスカッション、ロールプレイ、記述等	那須助教
ハモネプサークル	24	入学式、卒業式、鈴風祭での発表	千葉准教授
よさこいサークル	75	鈴風祭での発表、様々な行事への参加	森野助教
弓道サークル	10	大会参加、合宿練習	多賀谷教授
硬式テニスサークル	55	練習、ゲーム	太田教授 森野助教
山岳サークル	32	登山、ハイキング、バーベキュー等アウトドアを楽しみながら自然に親しむ	北山教授
バスケットボールサークル	69	練習、ゲーム	寺島講師
バドミントンサークル	74	練習、ゲーム	森野助教
バレーボールサークル	32	練習、ゲーム	安田教授
スノーボードサークル	50	スノーボード、スキー	高橋助教
ダンスサークル	25	鈴風祭での発表	西垣内教授
室内楽サークル	10	入学式、卒業式での演奏 施設・病院・学校・イベント等で演奏活動	千葉講師
卓球サークル	9	練習・大会への参戦	喬教授
映像研究会	5	映像作品の制作と鑑賞	太田教授

（2）大学祭

長野県看護大学大学祭（名称「鈴風祭」：すずかぜさい）は、毎年９月中旬～下旬に２日間の日程で開催している。看護大学ならではの特色ある企画として、ヘルスチェックやハンドマッサージコーナーを開設するとともに、地域の方々や子どもたちにも喜んでもらえるような催し物を開催し、訪れた方々から好評をいただいている。

また、会場の一角には「大学説明コーナー」を設け、広報交流委員会のメンバーが進学相談にあたっている。

運営は１・２年生が中心となり、平成25年度は約80名による鈴風祭実行委員会を組織し、４月から約半年間をかけて準備を進め、９月21日（土）22日（日）に開催し、近隣住民の方をはじめ、老若男女問わず大勢の方々で賑わった。

○事前の周知活動

・ＰＲのための学校訪問　　：小学校６校、中学校３校

・パンフレット広告スポンサー：106社

○ 当日の主な催し物

・ヘルスチェック、ハンドマッサージ等の健康サービス

・大学説明コーナー

・サークル発表

（よさこい、ハモネプ、室内楽、軽音楽、茶道、書道、美術・文芸）

・バルーンショー、コマファイブショー、クイズ大会等の開催

・地元高等学校の音楽発表

・各種模擬店

第６節　関係団体

１．大学生協

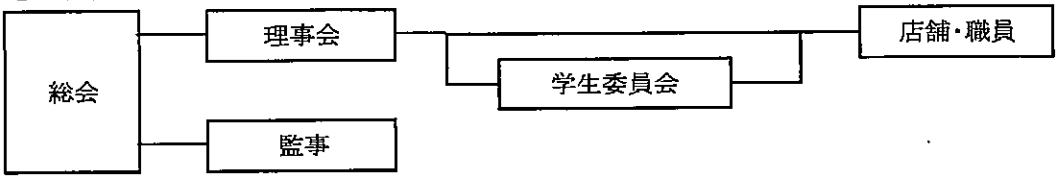
１　概要

（1）組織

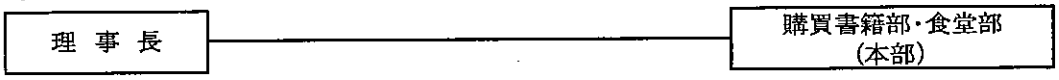
総会で選任された理事を構成員とする理事会の基に、第生活協同組合活動を応援する学生からなる学生委員会と教職員及び店舗職員が共同して、各種の学生生活を応援する活動を行っている。また、生協活動および決算等について監査を行う監事についても、総会で選任され、財務等の監査を行っている。

経営は、理事長の指示の元に、主として購買書籍部及び食堂部の職員が信州大学生活共同組合と連携を図りながら、日々の業務を行っている。

①運営組織図



②経営組織図



（２）業務

看護大学生活協同組合は、平成 10 年１月 21 日に前身の看護大学福利組合から業務を引き継いで運営が開始され、今日に至っている。

その目的は、看護大教職員、学生等の組合員の生活の文化的、経済的な改善向上を目指し、活動に取り組んでいる。

２　活動実績

（１）主な日常の業務

大学生協パート職員により、以下の業務を行った。

食堂部：昼食及び臨時の夜の飲食を提供した。

購買書籍部：書籍、文具、生活用品及び保管食品を販売した。

（２）総会・理事会等開催

大学生協の理事及び理事等役員（理事：１３名、監事：４名）による理事会等を以下により開催した。

項目	開催日	主な議題
第一回理事会（総会）	25 年５月 21 日	理事長、専務理事、専務補佐の互選について 代表理事の選出
第二回理事会	25 年７月 ９日	夏休み営業日程、兼職願い出について、生協・共済学習会
第三回理事会	25 年 10 月 16 日	年末年始の営業について 代議員選出について
第四回理事会	25 年 12 月 10 日	2013 年度決算見込みと 2014 年度予算について 信州大学との業務委託契約について 第 16 回通常総会の日程について
第五回理事会	26 年２月 21 日	消費税８％導入後の食堂組合員価格について

※ 看護大学生協の会計年度は３月から２月まで、役員の年度は５月の総会後から、翌年の総会までとなっている。

（３）　学生委員会総会・理事会等開催

看護大学の学生により、生協の活動をＰＲするとともに、学生の生活を支援するため、学生委員会を組織し以下の活動を行った。

学生委員会の活動報告

月	主な活動内容（学生委員会の活動含む）
2013 年　５月	食堂装飾①、生協スクール in 群馬参加、総会参加
６月	デザートバイキング開催、北甲初夏の集い参加、七夕企画・アイス総選挙企画計画
７月	食堂装飾②、七夕企画実行、アイス総選挙実施、夏祭り企画
８月	夏祭り実施、サマースクール in 群馬参加、鈴風祭企画・準備
９月	鈴風祭模擬店出店、ハロウィン企画計画

10月	食堂装飾③、ハロウィン企画実行、Nsの☆計画・準備
11月	Nsの☆準備、クリスマス会計画、推薦生交流会計画、信州のつどいin信州大学参加
12月	食堂装飾④、クリスマス会開催、北甲冬の集い参加、Nsの☆完成、推薦生交流会開催
2014年　3月	お友達企画計画、引っ越しお助け隊実施
4月	お友達企画実行、生協学生委員会新入生歓迎パーティー実施

（4）その他の成果

近年の粗利の減少傾向および総供給高の減少から、平成25年度の運営は危ぶまれていた。この傾向は一部で加速する傾向にあったものの、公募型相見積の制度に積極的に対応するなど、相当の業務形態の改善をはかったところ、損益を最小限に抑えることができた。また、信州大学生協に委託していた業務の一部などを、本生協で処理することにより、委託費の削減と業務の効率化を望める体制とした。

3　課題及び方策

（1）喫緊の課題

・小さな諸問題はあるものの、組合員から概ね支持された食堂運営や購買部の活動がなされている。この活動を維持していく手段が一部のパート職員のみに依存している。したがって、パート職員同士がお互いの分担をカバーしあえる体制づくりが最も急がれる課題である。

（2）長期的な課題

・正規職員の不在による不安定な運営が持続している。

2007年に正規職員（店長）の退職後、パート職員のみで現場が運営されている。中でも、歪を理解しないまま「黒字経営状態で健全運営ができている」との認識が広がっているのは、最も大きな問題の１つである。実態は、店長を雇用する余力がない状態であることが、周囲の会員や大学に理解されていない。今後、理事を様々な教職員に経験させるなど、経営の根幹的な問題に直面する機会を増やすとともに、教職員、大学生にこの状態を周知し取り組んでいく必要がある。

・学生委員会の活動を旺盛に進め、生協の活動を知らせるよう取り組む必要がある。

自治会と協力しての企画も求め、その活動を周知する必要がある。

2．後援会

1　概要

長野県看護大学の運営に協力援助を行い、もって教育研究の発展に寄与するとともに、学生が豊かで充実した学生生活を送れるよう福利厚生事業を行うことを目的とし

て、平成７年４月８日に発足したものである。

組織は、総会及び会員から選出された理事及び監事からなる役員会があり、業務・立案は、理事から選ばれる会長及び副会長と理事により行われている。事務局は、会則に基づき、看護大学事務局総務課に置き、看護大学事務局次長が事務局長として庶務会計の事務を行っている。

主な業務

・学生の課外活動に対する援助。

・学生の生活指導・厚生等に対する援助。

・大学の運営・教育設備の設備充実等に対する協力　等

2　活動実績

(1)　主な業務

①新入生のオリエンテーション合宿(4/8～9)へ補助しました。

合宿に使用した文房具等の補助

②進路指導や福利厚生のために必要な事業等に対して援助しました。

Ｂ型肝炎ワクチン予防接種（1年生・編入１年生対象：3回)、Ｂ型肝炎抗体検査（全学年)、国家試験対策ガイダンス・進路指導書等への補助

③学外実習旅費（交通費・宿泊代）へ補助しました。

実習交通費・宿泊費等の補助

④卒業式等（卒業式、卒業生を送る会等)、地域との交流等に対して援助・協力を行いました。

送る会への補助、町内会費、区費、看住協議会への交付金

⑤後援会だよりの発行

第１６号（４５０部）の発行

(2)　総会・役員会等開催

項目	開催日	主な議題
第一回役員会	25年　4月2日	総会議題等について
総会	25年　4月3日	・平成24年度事業報告・収支報告書について ・平成25年度事業計画・収支予算、役員選任について ・後援会会費の改定について
第二回役員会	25年　9月21日	・平成25年度中間報告、卒業式、就職求人状況等について ・平成26年度役員体制案について
第三回役員会	26年　3月7日	・平成25年度事業決算見込みについて ・平成26年度新役員体制の確認等について

3　課題及び方策

実習交通費の予算増額のため、学生自治会への補助を一旦見合わせることになった。学生自治会への補助を確保するため、次年度より会費の値上げを決定した。

3．同窓会

1　概要

同窓会「鈴風会」は平成 15 年、長野県看護大学の創立 10 周年を機に設立された。

このという名前は、母校の学園祭「鈴風祭」と同様に、駒ヶ根市を象徴する「すずらん」と「風」をイメージして付けられている。

鈴風会は、会員相互の親睦を図り、併せて母校と看護学の発展に寄与することを目的として活動しており、その目標は「母校と会員　（卒業生）とをつなぐ架け橋となること」である。

主な業務は、以下のとおりである。

(1) 会員名簿の作成及び会報の発行

(2) 総会、講演会、研修会等の開催

(3) 母校の後援及び相互の連携に関する事項

最高決議機関として総会があり、ここで鈴風会に関するすべての決定がなされる。

総会で決定された枠組みの中で、実務機関として執行部会があり、会長・副会長・庶務・会計　の各役員によって運営されている。

会員は、会員（卒業生・修了生)、準会員（在学中の学生）に分けられる。

2 活動実績

(1) 平成 25 年度基本方針

・会員同士のネットワーク強化

・同窓会活動の充実

【活動内容】

＜会員同士のネットワーク強化に関すること＞

○専門業者委託による同窓会名簿の整備

○ホームページの活用

・情報交換の場としてホームページ機能の検討を行った。鈴風会 Twitter アカウントで近況の発信も行っている。

○会員の参加しやすい形の検討

＜同窓会活動の充実に関すること＞

○同窓会活動に関する意見募集

・同窓会活動に対する意見収集は随時ホームページ上で受け付ける。

○会員サービスの検討

・卒業生の働く姿の写真と在校生へのメッセージを募集し、鈴風祭にそれらを展示する同窓会ブースを設置した。卒業生や在校生、教職員からも好評を得た。

○母校との連携

・大学のキャリア形成支援部門の要請を受け、構成員として執行部役員が参加

した。

・鈴風祭にて同窓会展示ブースを催しＰＲした。

・キャリア支援形成部門主催「卒後１年生集まれ企画」のプログラムに執行部より３名参加し、卒業生と交流した。

(2) 総会・執行部会の開催

項目	開催日	主　な　議　題
第１回執行部会	25年6月18日	・名簿作成に関する通知への問い合わせの対応について ・鈴風会会則の改正について ・ホームページへの掲載内容について ・鈴風祭への参加について
第２回執行部会	25年8月30日	・鈴風祭への展示ブースの打ち合わせ ・大学創立20周年記念パーティーについて
鈴風祭	25年9月21日 22日	・鈴風祭参加（同窓会展示ブース） ・「卒後１年生集まれ企画」への参加
第３回執行部会	25年11月29日	・ホームページ管理について ・総会について
第４回執行部会	26年1月31日	・ホームページの管理について現在の管理者（中村先生）より直接説明を受ける ・総会について ・名簿作成の進行状況について ・退官祝いの記念品について
第12回総会	26年3月7日	総会開催
第５回執行部会	26年3月7日	・役員引き継ぎ ・次年度活動計画の確認 ・パソコンの購入とホームページ立ち上げについて ・名簿について

３　課題及び方策

同窓会活動の充実に関することについて以下のような課題がある。なお、同窓生の経験を活かした学術集会への参加などテーマはあるが、実行するには人的資源の問題など、課題が多い状態である。

(1) 同窓会活動に関する意見募集

・現在行っている活動は継続しつつ、より周知する活動を検討する。

(2) 会員サービスの検討

・大学20周年記念事業に合わせて、企画を検討する。

・ホームページコンテンツ等のリニューアルをしていく。

(3) 活動方法の検討

・人的資源が乏しい中で、いかに活動を盛り上げるかという課題に取り組む。

(4) 母校との連携

・母校の発展に寄与できるよう、本会に対する要請に柔軟に対応していく。

・平成25年度に引き続き、大学のキャリア形成支援部門とも協力する。

第７章　施設の管理運営等

第１節　施設の状況

（１）施設の全体概要

１．校地

本学の校地面積は、75,733 ㎡と学生数の割に広大であり、東に南アルプス、西に中央アルプスを望む恵まれた自然環境の中で、古代ギリシャ都市の「アゴラ」に倣って設けた中央広場を中心に、その周りに図書館・教育研究棟・講堂・学生食堂・管理棟を配置している。また、道路を挟んで屋内プール棟・有酸素運動研究コース・語らいの並木が併設されている。

校舎敷地	運動場用地	寄宿舎用地	プール他用地	計
36,951.00 ㎡	15,948.00 ㎡	5,760.00 ㎡	17,074.00 ㎡	75,733.00 ㎡

２．施設・設備

１）管理棟（2,248.81 ㎡）

学長室、事務室、会議室、保健室、食堂、売店が配置されている。食堂については、カフェテリア方式で185席の利用が可能となっており、また、売店が併設され、パン・おにぎりなどの食品や文具等を販売している。両部門とも、長野県看護大学生活協同組合が組織され、経営を行っている。

２）教育研究棟（9,079.39 ㎡）

講義室、演習室、実験室、自習室、情報処理教室（パソコン53台）、ＬＬ教室（機器48台）、研究室（講師以上は個室、助教・助手は複数人で１室）、大学院生研究室等を配置している。

講義室が大・中・小合わせて８室、実習室が「基礎」「成人」「母性・小児」「地域・老年」など看護領域ごとに４室、その他実験室、自習室などを完備している。その他大学院生用として、大学院生研究室が４室ある。なお、中講義室のうちの１室には、県内８大学を結ぶ遠隔講義システムを導入しており、他大学が配信する授業を自大学で受講することが可能になっている。

３）講堂（962.43 ㎡）

511席を配置し、ＡＶ設備、音響設備等を備えたもので、ピアノも設置している。

利用は、入学式や卒業式の他、公開講座とともに、学生の音楽系サークル活動（練習、ライブ、コンサート等）にも利用されている。

４）図書館（1,200.62 ㎡）

閲覧室80席、教員学習室、グループ学習室、ＡＶコーナーを設置している。

開館時間は平日の場合、９時～19時で土曜日も開館しているほか、病院の実習期間中は、21時まで利用可能としている。

５）体育館（893.68 ㎡）

木材を多用した造りで、バスケットボール１面、バレーボール２面がとれるひろさとなっている。学生は、鍵の貸与により常時利用可能としている。

６）学生棟（802.21 ㎡）

学生ホール、自治会室、クラブ室等を配置し、自治会活動や学生のサークル活動に

利用している。

7）屋内プール棟（1,131.64 ㎡）

通年で利用可能な6コース(25m)の温水プールを設置し、そのうち1コースがスロープコースとなっている。また、筋力トレーニング機器を備えた健康増進研究室（ジム）と講義・測定室が併設されている。

学生は常時これらの設備を使用できるほか、温水プールについては、本学主催の高齢者水中運動教室等教育研究活動の一環としても活用されている。

また、長野県障害者福祉センターの南信地域における拠点である障害者水泳支援センターとして障害者に開放しているほか、地元駒ヶ根市の健康教室、消防署の救助訓練等にも利用されている。

8）グラウンド・テニスコート（15,948.00 ㎡）

250mトラックが設置可能なグラウンドと、夜間照明を備えた全天候型テニスコートが4面併設されている。

学生は常時利用できるほか、休日にはグラウンド・テニスコートを地域のスポーツ少年団を中心に開放している。

9）有酸素運動研究コース（12,505.00 ㎡〔隣接の「語らいの並木」を含む〕）

コース延長 600mの歩経路のほか、地域住民と学生が協働して植付け・管理を行う「ふれあい花壇」、「ほがらか農園」を設置している。

また、大学正面へ続く学園通りを囲んでケヤキ並木の語らいの並木を整備している。

10）寄宿舎（2,504.44 ㎡）

2棟80室（1DK）に学部1年生が入居しており、2年以降は地元のアパートを借りている。

11）非常講師勤宿舎（328.00 ㎡）

全国各地から非常勤講師を招聘できるよう、1棟8室の宿泊施設を整備している。

また、研究のために帰宅が遅くなる大学院生の宿舎としても活用している。

教育研究棟	管理棟	学生棟	図書館	
9,079.39 ㎡	2,242.13 ㎡	802,21 ㎡	1,200.62 ㎡	
体育館	講堂	寄宿舎	非常勤宿舎	合　計
893,68 ㎡	962,43 ㎡	2,504.44 ㎡	328.00 ㎡	18,012.90 ㎡

○教育研究棟

教員研究室	個人研究室	45室
	共同研究室	5室
講義室	大講義室	1室
	中講義室	4室
	小講義室	3室
演習室	演習室	4室
実験・実習室等	生化学・生理学実験室	1室
	微生物・病理実験室	1室
	基礎看護実習室	1室
	母性・小児看護実習室	1室
	成人看護実習室	1室
	地域・老人看護実習室	1室
情報処理学教室	情報処理教室	1室
語学学習室	ＬＬ教室	1室

3．設備機器

○情報処理機器等

学内 LAN は、管理棟、教育研究棟、図書館、非常勤講師宿舎、寄宿舎の全域に配置し、利便性を保つと同時に、教職員使用領域と学生の使用する領域を分離、高度な機密情報の保持を徹底している。

教育研究棟内の情報処理教室にパソコン 53 台を設置し、授業以外の時間は学生に開放し、随時使用できる体制となっている。

ＬＬ教室には、ＬＬ学習システムがインストールされた教員用パソコン及び学生用パソコン 48 台（いずれもヘッドセット付き）を設置し、語学学習等に活用している。

4．課題及び方策

平成２５年度は、開学から１９年を迎え、空調設備、温水プールの諸設備など修繕を必要とする箇所が増えてきており、今後更に修繕箇所が増えることが予想される。

設備の修繕や更新には多大な費用がかかるため、緊急性等を勘案しながら優先順位を付けて、改修計画を策定するとともに、予算の確保に努め、修繕、更新を行っていく必要がある。

また、今後も学内の植栽等を常時整備して、教育研究を行うにふさわしい緑豊かな環境を維持しつつ、一層地域住民から愛され、誇りとされるような大学となるよう努めていく。

（2）図書館

1．概要

付属図書館は、在学生（学部生・院生）、教員の学習・研究に資するため、図書、雑誌、電子資料などの学術情報の収集、提供を行っている。

1）図書館施設・設備

閲覧スペースである開架と、閉架書庫に図書・雑誌がそれぞれ配架されているが、利用者はどちらも自由に利用できる。

閲覧席は、個人閲覧席の利用が多い。国試前などの時期によっては席数が不足することもある。通常期は、４人掛けの閲覧席も含め席数はほぼ充足している。

平成 22 年度に、退館バーの外にソファを設置し、飲食可能スペースとした。

グループ学習室はグループワークなどに活発に利用されていたが、平成 21 年度に DVD 機器を設置したことで、視聴覚教材のグループ視聴にも利用されるようになった。

データベース検索用の端末は 3 台だが、利用が集中する時期は順番待ちで利用することも多い。データベースのバージョンアップに機器のバージョンが対応できない状況も発生している。

蔵書の収容可能冊数は 10 万冊、現在の蔵書は 69,901 冊である。

表　館内面積および設備

総面積 1200 ㎡							
閲覧スペース	688 ㎡	書庫	131 ㎡	事務室	57 ㎡	その他	325 ㎡
閲覧席 80 席(内個人閲覧席 12 席)/教員学習室 3 室/グループ学習室/AVルーム(個人ブース 10 席)/館内検索用端末 2 台/データベース検索端末 3 台/コイン式複写機 1 台							

2）図書館資料

①図書

図書は看護学の新刊を中心にシラバスの内容に即したもの、教員・在学生（学部生・院生）からの購入希望、その他関連領域の必要と思われるものを図書館司書が選定し購入している。実習に必要な図書は、利用状況をみながら複本も整備している。

また、国家試験や、就職試験に対応するコーナーを設けるなど学生の資料要求に応えられるよう取り組んでいる。

表　図書館蔵書数の推移

年度	和図書	洋図書	合計
2009 年度末	53, 753	6, 898	60, 651
2009 年度末	53, 753	6, 898	60, 651
2010 年度末	56, 173	6, 952	63, 125
2011 年度末	58, 590	7, 136	65, 726
2012 年度末	60, 677	7, 251	67, 928
2013 年度末	62, 605	7, 296	69, 901

蔵書における分野別の割合

年度	看護学		医学		その他一般書		合計
	冊数	割合	冊数	割合	冊数	割合	冊数
2011 年度末	13, 972	21. 2%	19, 337	29. 4%	32, 417	49. 4%	65, 726
2013 年度末	15, 037	21. 5%	20, 239	28. 9%	34, 625	50. 6%	69, 901

②雑誌・新聞

最新の研究成果や分野における動向を知るために雑誌は欠かせない資料であるが、限られた予算の中で、実際の利用に伴った収集タイトルにするために 2010 年度から複写、閲覧などの実際の利用状況を調査し、購入タイトルの見直しを行っている。

表　受入雑誌タイトル数の推移

年度	和雑誌（種類）		洋雑誌（種類）		合計	電子ジャーナル	
	購入	寄贈	購入	寄贈		和雑誌	洋雑誌
2009 年度	125	264	64	2	455	684	609
2010 年度	128	210	58	17	413	687	610
2011 年度	120	208	53	23	404	915	605
2012 年度	112	238	37	6	393	972	605
2013 年度	103	304	32	11	450	1, 048	536

2013年度契約電子ジャーナル　和雑誌:メディカルオンライン　洋雑誌:CINAHL With Full text

現在購読している新聞は、全国紙 4紙地方紙 3紙である。過去 3年分を保存している。

③視聴覚資料

看護学の専門領域を中心にDVD資料の充実に努めている。

表　視聴覚資料数の推移

年度	DVD	VHS	CD	その他	合　計
2009年度	158	1,783	103	64	2,108
2010年度	215	1,790	104	75	2,184
2011年度	296	1,794	104	76	2,270
2012年度	308	1,841	107	77	2,333
2013年度	363	1,842	107	81	2,393

④文献検索データベース

文献検索のデータベースは「医中誌Web」「看護索引Web」「NACSIS-Cinii」エブスコ社「MEDLINE」「CINAHL with Full Text」「PsycINFO」が利用できる。

検索結果から該当雑誌の当館の所蔵がすぐ確認できるOPACリンクを貼り利便性を高めている。これらは学内LAN接続のパソコンであればどこからでも利用できる。

3）利用状況

①開館時間・日数

平日の開館時間は、9時から19時まで、長期休業中は17時までであり、土日祝日は休館である。但し、実習期間である5月から12月については、平日は9時から21時、土曜日は10時から16時まで開館している。

利用対象者は、在学生（学生・院生）、教職員、学外者、2011年度から開講された認定看護師養成課程の受講生である。

2013年度、入館者数、貸出ともに減少してしまった。

表　開館日数及び入館者数

年度	平日	土曜日	合 計	入館者数	1日平均
2009年度	231	23	254	45,614	179.6
2010年度	234	20	254	45,813	180.3
2011年度	234	20	254	47,058	185.2
2012年度	235	23	258	43,515	168.7
2013年度	242	24	266	40,882	153.7

表　貸出条件

	学　生	院　生	教　員	学外者
貸出期間	2週間			
貸出冊数	5	15	15	5

表　貸出冊数の推移

貸出冊数	学生/院生	教職員	合計
2009 年度	10, 964	1, 743	12, 707
2010 年度	11, 269	2, 141	13, 410
2011 年度	10, 910	1, 776	12, 686
2012 年度	9, 264	1, 974	11, 438
2013 年度	9, 124	1, 987	11, 111

4）外部開放

①概要

平成 16 年度より、18 歳以上の一般の人を対象に、図書館を開放している。利用時間は、 9 時から授業日は 19 時まで、休業日は 17 時までとなっており、貸出冊数は 5 冊、貸出期限は 2 週間となる。初めて来館した際に身分証明書を提示してもらい、利用証を発行する。 2 回目以降は、入館の際に利用証提示を求めている。貸出・複写のほか、文献検索データベースの利用も提供している。

②利用状況

入館者数は、直近 3 年間医療関係者が毎年平均 1 千人規模で利用している。

2013 年度入館者数は増加に転じ、貸出冊数は例年並みに回復した。

表　学外者の入館者数および貸出冊数の推移

年度	学外入館者数（概数）			貸出冊数
	医療関係者	他学学生	その他	
2009 年度	917	226	294	2, 651
2010 年度	1, 119	209	281	2, 780
2011 年度	1, 011	156	219	2, 654
2012 年度	1, 024	131	197	2, 430
2013 年度	1, 040	176	259	2, 601

2．成果及び課題

資料費は年々削減されているが、貸出、閲覧、複写などの状況から雑誌や図書の利用動向を把握し、資料選定に反映させている。今後も在学生（学部生・院生）や教員からの購入希望も取り入れ学習・研究に必要な資料要求を満たせる蔵書構築を行っていきたい。

雑誌については、有料の電子ジャーナルや、現在増加しているインターネットで公開されているデジタル化された学術資料へのアクセスを利用者に分かりやすく提示するなど、利用可能な資料を最大限利用できるような工夫に努めたい。

貸出数が減少傾向にある。課題、実習との連携、分かりやすい配架、資料の紹介、カウンター対応の向上、図書館利用の広報など資料活用向上のため努めていきたい。

データベース検索用以外の検索や、資料作成に利用できる端末や機器更新など学習活動を支える IT 機器の充実も今後の課題である。

外部開放については、入館者数、ともに増加しており、地元の病院医療者を中心に利

用されていることが伺われ、本学の外部開放の目的は達成されたとみている。

開学して17年が経過し資料的価値が低くなった図書が増加したことと、研究室から移管される図書が増加したことにより、書庫の狭隘化が進んでいる。今後は重複本の除籍など、配架場所確保のための方策をとる必要がある。

以上、今後も、学生・教員の資料要求に応えられる蔵書の構築、資料活用のサポート、設備の充実に努め、学習・研究支援の場としての機能を高めていきたい。

（3）施設の利用開放状況

1　概要

大学のほとんどの施設は、学内利用との調整を図りながら、「長野県看護大学行政財産の目的外使用に関する規程」に基づいて学外者に開放しており、テニスコート、グラウンド、屋内プールなどスポーツ施設の学外者利用度が高くなっている。

屋内プールについては、大学の使用しない時間帯は、長野県障害者福祉センターの南信地域における拠点である障害者水泳支援センター施設として障害者に開放している他、地元駒ヶ根市の健康教室、消防署の救助訓練等にも利用されている。

グラウンド及び体育館は、災害発生時における地域住民の避難場所となっている。

講堂は、１年に２回程度公開講座を開催しており、広く市民に利用されている。

大学南側に道路を隔てて設置されている有酸素運動コースは、ふれあい花壇に隣接していることもあり、近隣の市民の憩いの場ともなっており、随時ウォーキングなどに利用されている。

2　利用実績

学外者に対する施設の開放については、学内利用との調整を図りながら行っているところであるが、利用日数、利用者数とも一定の利用がある。

学外者の利用状況

年度＼施設名		テニスコート	グラウンド	屋内プール	講堂	講義室	体育館
平成25年度	利用日数	44	85	286	4	4	10
	利用者数	900	2,420	10,886	650	213	268

3　課題及び方策

市民の交流によって地域に開かれた大学となっており、一定の利用もあるこの状況を今後とも継続していく。しかしながら、施設開放にあたり、保安上の問題など構造的に不便な箇所があることや、今後経年劣化等による施設の修繕や設備改修等が懸念され、予算上の制約などにより万全な状況での開放が困難となることが予想されることから、できる限り必要な予算等の確保に努め、大学運営に支障のない限り、大学施設を障害者のスポーツ活動や地域住民などへ開放していくこととしたい。

第２節　財政の状況

１　概要

（１）予算、決算

本学の予算編成は県全体としての予算編成の中に組み込まれており、県の財政担当課から示される予算編成方針等に基づき予算を編成している。したがって大学独自に財政計画を策定する状況にはなく、県全体の緊縮財政の流れの中で、厳しい財政運営を強いられている。

予算執行は、県の条例、規則に基づき事務処理を行い、会計局会計センターによる検査･指導や県監査委員事務局による監査を受けながら、適正な予算執行に努めている。

（２）外部資金の獲得

県全体の緊縮財政の流れの中で、教育を支える研究活動を積極的に行うため、外部競争資金の獲得を図っている。

２　実績

（１）予算、決算の状況（平成25年度）

歳入は、大学の自主財源である学生納付金（授業料など）が約３割、県の一般財源が約７割を占めている。県立大学として、教育研究活動を安定的に遂行するために必要な財政基盤を確立している。

歳出は、教職員及び非常勤講師等の人件費が約７割、大学の管理運営に必要な物件費が約２割、教育研究に必要な物件費が約１割を占めている。

（歳入）

財源、歳入科目等				予算額　（円）	決算額　（円）	構成比
特定財源	自主財源	使用料	授業料	225,401,000	214,781,054	25.4%
			寄宿料	5,664,000	5,404,400	0.6%
			行政財産使用料	53,000	49,932	0.0%
		手数料	入学料	27,967,000	28,538,400	3.4%
			入学審査料	8,178,000	7,928,000	0.9%
			証明事務手数料	38,000	35,200	0.0%
		財産収入		272,000	204,479	0.0%
		諸収入		793,000	1,409,007	0.2%
		計		268,366,000	258,350,472	30.5%
	国庫支出金			4,200,000	3,724,000	0.4%
	基金繰入金			2,350,000	2,350,000	0.3%
計				274,916,000	264,424,472	31.2%
一般財源				583,743,302	582,241,632	68.8%
合計				858,659,302	846,666,104	100.0%

（歳出）

財源、歳入科目等				予算額　（円）	決算額　（円）	構成比
特定財源	自主財源	使用料	授業料	225,401,000	214,781,054	25.4%
			寄宿料	5,664,000	5,404,400	0.6%
			行政財産使用料	53,000	49,932	0.0%
		手数料	入学料	27,967,000	28,538,400	3.4%
			入学審査料	8,178,000	7,928,000	0.9%
			証明事務手数料	38,000	35,200	0.0%
		財産収入		272,000	204,479	0.0%
		諸収入		793,000	1,409,007	0.2%
		計		268,366,000	258,350,472	30.5%
	国庫支出金			4,200,000	3,724,000	0.4%
	基金繰入金			2,350,000	2,350,000	0.3%
	計			274,916,000	264,424,472	31.2%
一般財源				583,743,302	582,241,632	68.8%
合計				858,659,302	846,666,104	100.0%

（２）外部資金獲得の状況（平成25年度）

文部科学省所管の科学研究費助成事業の公募に対し、新たに20件の研究課題について応募し、選考の結果、７件が採択された。24年度以前からの継続採択課題や他の研究機関との転出入課題（転出２件、転入０件）とあわせて、25件、24,400千円の外部資金を獲得し、積極的な研究活動を行っている。

	新規・継続			新規			補助金額（千円）
	応募件数	採択件数	採択率	応募件数	採択件数	採択率	
応募採択分①	40	27	67.50%	20	7	35.00%	26,900
転出分②		2			1		2,500
転入分③		0			0		0
本学執行分 ①－②＋③		25			6		24,400

３　課題及び方策

（１）　県予算全体の緊縮傾向が続く中、固定的経費である人件費の割合が高まっているため、物件費の効率的な予算執行が求められている。限られた予算を有効に活用するためには、物品購入等にあたり積極的に競争原理を導入する必要がある。

（２）　看護の発展に寄与する優秀な人材を確保、育成するとともに、安定的な財源を確保するために、学部生、大学院生及び認定看護師養成課程受講生の積極的な募集を行う必要がある。

（３）　施設、設備の適切な維持管理を行うことは、安全、安心な大学生活を送るために欠かすことができないが、十分な予算が確保できていない。中期的な修繕改修計画を策定し計画的な予算の確保に努める必要がある。

（４）　教育を支える研究活動を積極的に行うため、更なる外部資金を獲得していく必要がある。

第8章 自己点検・評価総括

平成25年度の自己点検・評価の総括として基準協会による認証評価の課題の進捗状況並びに、大学運営の課題、その他の課題から総括する。

1. 基準協会による認証評価の課題の進捗状況

1) 努力課題

(1) 看護学研究科の大学院担当教員の選考に関する規定が明確に定められていない。

本学教員の採用基準検討委員会において、大学院博士後期課程主論文指導、副論文指導、科目主担当、博士前期課程主論文指導、副論文指導、科目主担当の選考基準を検討した。合わせて、「長野県看護大学大学院研究科の教員の学内審査に関する内規」を定めた。

26年度には、選考基準に従った研究科組織による研究科委員会を開催する予定である。

(2) 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を具体的に示す。

これらに関する課題は、平成26年度に再編された教務委員会並びに教務部会において検討を開始する予定である。

(3) 学生による授業評価に関する検証体制が不十分であり、組織的な取組みが望まれる。

授業評価WGを立ち上げ、平成25年度に検討を勧めた。学生による授業評価の見直しについて、26年2月の教授会で承認を得ている。授業開講期間の中間と最終時に行っていたものを最終時のみとし、中間での実施は教員の判断に委ねた。「学生による授業評価」に対するコメントの作成を依頼し、コメントを含めた授業評価の結果を教員と学生に開示することにした。

(4) 学生便覧やシラバスの記載に精粗がある。論文主担当教員の記載が不明確である。博士課程の講義のシラバスが示されていない。

いずれの課題も、平成26年度に再編された教務委員会並びに教務部会においてシラバス、便覧の課題に取り組む予定である。

(5) 博士後期課程における単位取得による退学後に再入学の手続きをとらずに学位論文を提出して、課程博士として扱っていることは適切ではない。

平成26年度入学生から、単位取得による退学者が博士論文を提出し、課程博士として扱かわないことを学則に定めた。

(6) 看護学研究科の博士前期・後期課程において、学生の受け入れ方針が定められていないので、改善が望まれる。

平成26年度に再編された入試部会において検討する予定である。

2. 大学運営の課題

1) 創立20周年記念事業

平成25年度には、実行委員長を指名し、各部会を組織して準備した。

平成26年度は、創立20周年記念事業を予定しており、6月には国際シンポジウムを開催、11月には記念式典等予定を組んでいる。

2) 大学院専門看護師（CNS）コース（精神看護学）開設

38単位による、精神看護学の専門看護師（CNS）コースを開設した。老年看護学専門看護師コース、小児看護学専門看護師コースは、32単位としており、開設後10年以内に38単位コースへの切り替え申請が課題となっている。

3) 認定看護師コース

皮膚排世ケア分野を募集休止とし、新たに認知症看護コースを開設した。今後、県の方針の確認やバックアップを求めながら入学者数を確保すると共に、認定看護師教育の継続や開設コースについて検討する。

4) 災害看護教育の充実

学部教育における災害看護学の充実のために、検討委員会を立ち上げて、授業内容、開講時期、各看護専門領域教員の授業への参画などを検討し、平成26年度実施に向けた準備を行った。

5) 教員業績評価

平成24年度に実施したものを踏襲している。ただし、若干の課題として残されていた点として、次の3点について改善した。①講師以上、臨床実習のない助手・助教の授業担当時間の上限として3段階を新設したこと、②博士論文の審査委員長の担当を評価項目に加えたこと、③評価・加点以外の事項として、研究者として自らの能力を高める必要があることから、自身の今後の研究活動計画について記入を求めた。また、評価対象者は、採用形態に関わらず、研究費を配分されており、評価年度に在籍していた者とした。とはいえ、大学教員の仕事の枠組みは変わらず、教育・研究・地域貢献・大学運営であり、領域別のウエイトについてもほぼ同様としている。今回のもので、ほぼ業績評価の見直しも一区切りしたものと考えている。

3. その他の課題

1) 大学の独立行政法人化について

新県立大学の理事長並びに学長の就任予定者が決まり、いよいよその準備は加速するものと考える。平成24年度に、現行どおり直営のままとすることを大学の意向としてとりまとめたものの、公立大学の法人化の流れは止まらない。少子化の時代にあって、今一度、単科大学としての生き残りのためのあり方を検討しなければならない。

自己点検・評価報告書（平成 25 年度分）
2014 年 12 月発行
編集　長野県看護大学　評価委員会
発行　長野県看護大学
〒399-4117 長野県駒ケ根市赤穂 1694
TEL 0265-81-5100　FAX0265-81-1256
印刷　㈱宮澤印刷

長野県看護大学